

⑨ーイ みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業

担当課：みどり共生推進課

基本方針：①災害に強い森林づくり ②県民全体で森林を支える社会づくり
対策区分：5つの対策全て

1 事業の目的

森林行政の第一線にあり、森林所有者や事業者、森林づくりに取り組む団体等と主体的に接点を持ちながらパートナーシップを築き、地域の森林づくりのリード役となる市町が、地域の実情に応じて創意工夫した森林づくりの施策を展開します。

2 事業の必要性

市町においては、交付金を活用したさまざまな事業が実施されており、県民税の趣旨に沿った取組の推進に大きく貢献しています。引き続き、市町が地域の実情に応じ、創意工夫して森林づくりの施策を展開できるよう、交付金を交付する必要があります。

3 事業の概要

1 市町あたり500万円の均等配分と、森林面積配分、人口配分の3つの配分方法を組み合わせた「基本枠交付金」を交付します。（森林面積が100ha未満または森林率が10%未満である市町には、要望に基づき、5年間で900万円を上限に加算することができます。）

市町は、この交付金を財源に、県民税を活用した事業を行ううえでの3原則を満たし、森林環境譲与税と使途を棲み分けたうえで、地域の実情に応じた森林づくりなどに取り組みます。また、第3期の期間に実施する事業の財源に充てるための基金積立も交付の対象とします。

令和7年度事業実績

対策区分	市町数	事業数	当年度交付額(円)	基金活用額(円)
1	2	2	27,031,100	0
2	20	33	136,750,253	750,000
3	19	34	36,231,079	0
4	15	22	53,964,012	6,735,000
5	12	17	58,777,098	
計		108	312,753,542	7,485,000
基金積立	2		5,965,839	0
合計		108	318,719,381	7,485,000

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 対策区分別一覧

【対策区分1】土砂や流木による被害を出さない森林づくり

市町名	対策区分	事業名	当年度交付額 (円)	基金活用額 (円)	事業内容
津市	1	林地残材搬出促進事業	24,028,100		事業体等が実施する、未利用間伐材の搬出に対する支援
大紀町	1	溪流倒木等処理事業	3,003,000		町が実施する、山間部溪流沿い等の倒木や流木の除去
対策区分1計			27,031,100	0	2市町、2事業

【対策区分2】暮らしに身近な森林づくり

市町名	対策区分	事業名	当年度交付額 (円)	基金活用額 (円)	事業内容
四日市市	2	里山・竹林環境保全支援事業	1,714,000		活動団体等が実施する、里山や竹林の整備に対する支援
鈴鹿市	2	暮らしを守る森林保全事業	4,521,000		市が実施する、海岸林や人家周辺の病害虫被害木の伐採と病害虫の防除
いなべ市	2	危険木の除去事業	3,614,638		自治会等が実施する、通学路や人家裏における危険木伐採への支援
いなべ市	2	里山竹林環境保全支援事業	5,275,652		活動団体等が実施する、里山や竹林整備への支援
東員町	2	危険木伐倒等業務	2,515,890		町が実施する、人家裏や通学路沿いの危険木の伐採等
菰野町	2	危険木伐採搬出事業	771,000		地域住民等が実施する、公道周辺の危険木の伐採に対する支援
朝日町	2	里山・竹林環境保全支援事業（あさひ竹プロジェクト）	450,000		活動団体が実施する、里山や竹林整備への支援
松阪市	2	里山の森林安全安心対策事業	15,199,900		市が実施する、集落や公共施設周辺の危険木の伐採等
明和町	2	松林整備事業	1,680,000		町が実施する、海岸沿いの松林における病害虫被害木の伐採等
大台町	2	集落周辺等危険木伐採事業	12,000,000		町が実施する、集落周辺や人家裏の危険木の伐採等
伊勢市	2	森林整備事業	7,975,000		市が実施する、海岸沿いの松林における病害虫被害木の伐採、地上散布、樹幹注入等
伊勢市	2	危険木除去事業	6,368,000		市が実施する、市民生活に支障をきたす恐れがある危険木の除去
鳥羽市	2	危険木伐採事業	1,691,000	750,000	市が実施する、市民生活に支障をきたす恐れがある危険木の伐採
鳥羽市	2	危険木伐採費補助金事業	5,479,000		自治会等が実施する、危険木伐採への支援
鳥羽市	2	森林病害虫防除樹幹注入	499,000		市が実施する、松林（神島）への樹幹注入
志摩市	2	樹木伐採事業	6,560,100		市が実施する、道路沿いの危険木の伐採
志摩市	2	松くい虫防除事業	4,776,900		市が実施する、海岸沿いの松林における病害虫被害木の伐採等
度会町	2	危険木伐採事業	4,610,000		町が実施する、道路沿いの危険木の伐採
大紀町	2	生活環境林整備事業	4,999,000		町が実施する、公共施設や通学路沿い等の危険木の伐採
南伊勢町	2	危険木除去事業	8,394,000		町が実施する、公共施設周辺等の危険木除去
名張市	2	危険木伐採事業	4,040,925		市が実施する、通学路等及び市有施設の周辺や緑地（市有地）の危険木の伐採
名張市	2	未利用間伐材バイオマス利用推進事業	62,075		森林所有者等が実施する、未利用間伐材の搬出及び運搬に対する支援

市町名	対策区分	事業名	当年度交付額 (円)	基金活用額 (円)	事業内容
名張市	2	人家裏危険木伐採事業	820,000		地域住民等が実施する、人家裏の危険木の伐採に対する支援
名張市	2	森林公園等環境活用整備事業	400,000		地域協議会等が実施する、森林公園や里山等の整備に対する支援
伊賀市	2	みんなの里山整備活動推進事業	7,808,505		自治会等が実施する、集落周辺の里山や竹林の整備に対する支援
伊賀市	2	未利用間伐材バイオマス利用推進事業	1,694,760		森林所有者等が実施する、未利用間伐材の搬出及び運搬に対する支援
伊賀市	2	危険木伐採事業	4,504,908		市が実施する、道路沿いの危険木の伐採
尾鷲市	2	人家裏危険木伐採事業	1,599,000		自治会等が実施する、人家裏の危険木伐採に対する支援
尾鷲市	2	三木里海岸の松原整備事業	2,953,500		市が実施する、海岸松林の整備
尾鷲市	2	三木里海岸の松原内基地危険木伐採事業	488,400		市が実施する、海岸松林の整備
紀北町	2	危険木伐採事業	6,179,500		自治会等が実施する、人家裏の危険木の伐採に対する支援
紀北町	2	集落周辺森林(里山)整備事業	333,600		活動団体等が実施する、集落周辺等の荒廃した森林の整備や歩道整備に対する支援
紀宝町	2	生活環境林整備事業	6,771,000		町が実施する、公共施設の周辺や生活道路沿いにおける危険木の伐採等
対策区分2計			136,750,253	750,000	20市町、33事業

【対策区分3】森を育む人づくり

市町名	対策区分	事業名	当年度交付額 (円)	基金活用額 (円)	事業内容
鈴鹿市	3	里山保全ボランティア育成事業	375,000		市が実施する、里山保全を担う人材の育成
鈴鹿市	3	森と緑の生涯学習講座	560,000		市が実施する、公民館での「森と緑の生涯学習講座」の開催
鈴鹿市	3	森と緑の未来づくり事業	1,422,440		活動団体等が行う、里山整備活動への支援、及び、市が行う、森林教育の実施
鈴鹿市	3	緑に親しむ記念樹配布事業	649,000		市が実施する、植木まつり会場での記念樹・木製プレート配布とアンケート調査
亀山市	3	森と木材のふれあい事業（森林づくり協議会）	1,000,000		協議会が実施する、イベントや講座の開催に対する支援
亀山市	3	森と木材のふれあい事業（森の講座）	498,300		市が実施する、森の講座の開催
亀山市	3	森と木材のふれあい事業（竹あかり製作）	3,000,000		市が実施する、竹を活用した展示製作やワークショップの開催
亀山市	3	森と木材のふれあい事業（小中学校）	4,201,700		市が実施する、小中学校での森林教育の実施
亀山市	3	自然保育・森林環境教育推進事業（幼稚園・保育園）	200,000		市が実施する、公立保育園等での自然保育に関する知識を有する保育士の育成及び園児への森林教育の実施
いなべ市	3	中学校卒業記念品配布事業	914,650		市が実施する、市産材で作成した記念品（箸）の中学校卒業生への配布
いなべ市	3	自然環境保全事業	1,845,060		市が実施する、森林を活用した体験活動の実施
東員町	3	森林教育授業	83,490		町が実施する、小学生や町民を対象とした森林教育
朝日町	3	森林環境教育事業（あさひ竹プロジェクト）	50,000		町が実施する、竹を活用したさまざまなイベントの開催
川越町	3	小中学校自然教室	1,620,000		町が実施する、小中学生を対象とした自然教室の実施
津市	3	夏休み森と緑の親子塾開催事業	257,400		市が実施する、親子（小学生）を対象とした木工体験や林業体験

市町名	対策区分	事業名	当年度交付額 (円)	基金活用額 (円)	事業内容
津市	3	パートナーシップ協定に基づく森林環境教育事業	124,096		パートナーシップ協定者が実施する、市民を対象とした丸太切り体験、木工教室等
津市	3	美里水源の森「林業体験」事業	242,000		協議会が実施する、美里水源の森における林業体験への支援
松阪市	3	松阪の木魅力発信活動事業	200,000		活動団体が実施する、地元工業高校生と共同での木材産地の看板作製への支援
多気町	3	木とふれあう教育支援事業	96,000		町が実施する、小学校における木工体験と森林教育
大台町	3	森林環境教育事業①	450,000		町が実施する、地元高校生によるキノコ栽培の体験学習や森林教育
大台町	3	森林環境教育事業②	270,000		町が実施する、小学生を対象とした木工体験と森林教育
志摩市	3	森と緑ふれあい事業	509,000		市が実施する、森林体験学習
玉城町	3	森林環境教育・木育事業	552,000		町が実施する、保育所や小学校における森林教育
玉城町	3	森林環境教育事業（森林教育イベント）	3,000,000		町が実施する、森林をテーマとしたパネルディスカッションやイベントの開催
度会町	3	森林環境教育推進事業	1,206,000		町が実施する、保育所・小学校・中学校における森林教育
南伊勢町	3	森林環境教育事業	1,729,000		町が実施する、小中学校における森林教育
名張市	3	森林環境教育推進事業	100,000		地域協議会等が実施する、小学校における森林教育に対する支援
伊賀市	3	伊賀の森っこ育成推進事業	3,893,014		実行委員会が実施する、小中学校における森林教育に対する支援
伊賀市	3	地域の森と緑のつながり支援事業	260,838		地域協議会等が実施する、森林・林業・環境学習・木工のイベントや学習活動への支援
伊賀市	3	森のやすらぎ空間整備事業（伊賀の木活用人材育成）	500,000		活動団体等が実施する、地元高校生と協力して行う地域材を活用した木製品開発への支援
伊賀市	3	木づかい木育推進事業	2,810,746		市が実施する、出生児及び小学5年生を対象とした木製フォトフレームや伊賀産材の手作り箸キットの配布
尾鷲市	3	尾鷲ヒノキ等を活用した保育園児等への山育事業	161,284		市が実施する、保育園児等を対象とした苗木の配布、植林体験
紀北町	3	森林環境教育活動支援事業	2,650,061		町や活動団体が実施する、小中学生を対象とした森林教育
紀宝町	3	森と緑の環境教育事業	800,000		町が実施する、森や緑に関する講演会やワークショップの実施
対策区分3計			36,231,079	0	19市町、34事業

【対策区分4】森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	対策区分	事業名	当年度交付額 (円)	基金活用額 (円)	事業内容
桑名市	4	多度学園木製備品購入事業	5,795,000	6,735,000	市が実施する、開校予定の小中一貫校への木製備品導入
鈴鹿市	4	公立保育所木製品設置事業	4,717,070		市が実施する、公立保育所への木製備品の導入と森林教育の実施
東員町	4	公共施設等の備品等購入	3,700,620		町が実施する、木製備品の導入と町有施設における木製備品の導入
菰野町	4	幼児期から木に親しむ木育推進事業	1,502,033		町が実施する、幼保園における木製遊具等の導入
菰野町	4	保育所等木製遊具購入補助事業	1,500,000		私立保育所が実施する、木製遊具等の導入への支援
菰野町	4	木と触れ合う環境整備事業	495,000		町が実施する、町有施設における木製備品の導入や木工体験教室の実施
川越町	4	森と人をつなぐ学びの場整備事業	2,722,000		町が実施する、小学校への木製備品の導入

市町名	対策区分	事業名	当年度交付額 (円)	基金活用額 (円)	事業内容
津市	4	子育て支援センターにおける木育環境整備事業	886,600		市が実施する、子育て支援施設における木製遊具等の導入
津市	4	保育施設における木育環境整備事業	715,000		市が実施する、保育園における遊戯室の一部木質化への支援
松阪市	4	森林環境学習事業	2,773,100		市が実施する、小学校の一部木質化と森林教育
松阪市	4	保育園木育推進事業	2,000,000		市が実施する、こども園における木製備品の導入と木育絵本の読み聞かせ
多気町	4	木とふれあう環境づくり事業	8,084,000		町が実施する、小学校や保育園などへの木製備品の導入
明和町	4	木とのふれあい事業	5,200,000		町が実施する、小学校における木製机・椅子の導入
明和町	4	幼児期からの木とのふれあい事業	9,658,000		町が実施する、認定こども園における木製遊具等の導入
鳥羽市	4	鳥羽東中学校図書室机・椅子等整備事業	440,000		市が実施する、鳥羽東中学校図書室の机・椅子等整備
南伊勢町	4	木製備品購入事業	873,000		町が実施する、町内図書室2カ所への木製本棚の導入
名張市	4	学校林整備事業	700,000		地域協議会等が実施する、学校林における整備に対する支援
名張市	4	子ども若者第三の居場所創生事業	792,000		市が実施する、木製備品の導入
伊賀市	4	保育所木育推進事業	698,229		市が実施する、市内保育所（園）における木育図書、木製品等の導入
尾鷲市	4	木とふれあう学校環境づくり事業	172,260		市が実施する、過去に市町交付金事業で導入した机・椅子の維持修繕と森林教育
尾鷲市	4	みえ森林教育ステーションを活用した木育事業	375,100		市が実施する、みえ森林教育ステーションを活用した木育体験
熊野市	4	木育環境充実事業	165,000		市が実施する、木育施設における木製ボールプールの整備
対策区分4計			53,964,012	6,735,000	15市町、22事業

【対策区分5】地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名	対策区分	事業名	当年度交付額 (円)	基金活用額 (円)	事業内容
桑名市	5	播磨2号緑地里山整備事業	534,000		市が実施する、里山の散策路整備等
桑名市	5	竹林環境整備事業	5,198,000		活動団体が実施する、竹林の整備や竹の活用推進に対する支援
鈴鹿市	5	ふるさとの樹木（名木古木）保存活用補助事業	2,600,000		自治会が実施する、地域のシンボルとなっている樹木の診断及び治療等に対する支援
鈴鹿市	5	緑と人を育む 長太の大楠再生プロジェクト	1,400,000		市が実施する、地域のシンボルツリーである長太の大楠の治療等
亀山市	5	野登山森林保全事業（森林づくり協議会）	1,100,000		活動団体が実施する、野登山山頂付近での植生調査及び環境保全活動への支援
木曽岬町	5	暮らしを守る緑保全事業	7,000,000		町が実施する、クビアカツヤカミキリによる被害から桜並木を保全するための取組
菰野町	5	シデコブシ湿地群環境整備事業	601,700		町が実施する、シデコブシ群落整備のための機械購入や観察会の実施
朝日町	5	教育文化施設ビオトープ再生整備事業	5,922,000		町が実施する、教育文化施設内におけるビオトープの再生整備
松阪市	5	都市公園整備事業	4,600,000		市が実施する、都市公園内への東屋の設置
大紀町	5	大平つつじ山整備事業	4,955,000		町が実施する、大平山つつじ山における環境整備（下刈、遊歩道整備）
名張市	5	桜並木保全管理事業	400,000		活動団体が実施する、桜並木保全活動に対する支援

市町名	対策区分	事業名	当年度交付額 (円)	基金活用額 (円)	事業内容
名張市	5	国定公園環境整備事業	1,150,000		活動団体が実施する、赤目四十八滝溪谷内の倒木、流木の整理や遊歩道の整備
尾鷲市	5	馬越公園整備事業	1,133,000		市が実施する、森林公園の整備
尾鷲市	5	中村山公園ほか整備事業	2,468,900		市が実施する、森林公園の整備
熊野市	5	森とふれあいの場拠点づくり事業	13,414,498		市が実施する、森や緑とふれあえる公園等の整備
御浜町	5	森林公園等環境整備事業	6,162,688		町が実施する、森や緑とふれあえる公園等の整備
御浜町	5	イヌマキ保全事業	137,312		町が実施する、県天然記念物イヌマキ保全のための生育環境整備
対策区分5計			58,777,098	0	12市町、17事業

【基金積立】

市町名	対策区分	事業名	当年度交付額 (円)	基金活用額 (円)	事業内容
名張市	—	基金積立	4,080,000		
紀北町	—	基金積立	1,885,839		
基金積立計			5,965,839	0	2市町

四 日 市 市

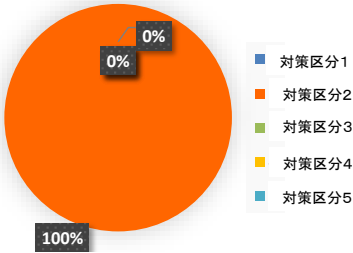
令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報（令和5年度版三重県市町要覧による）

市町名	四日市市	三重県
人口（人）	305,424	1,742,703
年少人口割合（％）＊1	11.9%	11.6%
森林面積(ha)	2,805.64	372,030.08
民有林面積(ha)＊2	2,497.56	348,561.87
森林率(%)	14%	64%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	10.3	10.6

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合
＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。）
＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合 ★①-5、②-5



2. 令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）						
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5	基金積立
1	2	里山・竹林環境保全支援事業	2,318,530	1,714,000		1,714,000				
				0						
計			2,318,530	1,714,000	0	1,714,000	0	0	0	0

3. 令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量	事業費 (円)	内交付金充 当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
災害からライフラインを守る事前伐採事業				
県民参加の植樹祭事業				

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	本市は、東側に伊勢湾、西側に鈴鹿山脈に接し伊勢湾沿いには石油化学工業等の発達した中核都市です。四日市市総合計画の基本構想で「環境・防災先進都市」を将来都市像の一つに位置付けており、公害の歴史と教訓から、豊かな環境を基本とした都市整備と、防災力強化を両軸に、快適性と安全・安心が高い水準で保たれたまちづくりを目指しています。 みえ森と緑の県民税市町交付金を活用することにより、地域の里山や竹林を整備し、緑にふれあう環境を整えることで、森への関心を深め、緑を身近に感じ大切にしていくことのできる社会づくりを推進します。
事業実施により期待される効果	森林整備を行ったことにより、地域住民の生活の安全性が確保された。
情報発信への取組	みえ森と緑の県民税を活用した事業であることの周知を図るためHPに掲載を行う予定。

令和7年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		（千円）	内、譲与税（千円）
1	⑬ 木造公共建築物の整備等	20,408	20,408
2	⑬ 木造公共建築物の整備等	11,266	11,266
3	① 意向調査の準備作業	9,954	9,954
4	⑰ 基金積立（森林整備等）	757	757
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	42,385	42,385

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	四日市市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
1	里山・竹林環境保全支援事業				
事 業 費	2,318,530 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,714,000		604,530

1. 事業の目的

市内の里山保全活動団体等が地域住民の憩いの場としての利用や安全性の確保を目的として、自主的に里山や竹林を整備する取組みを支援して、持続的な活動に資することを目的とする。

2. 事業の実績

【事業内容】

市内の地域団体が自主的に里山や竹林を整備する取組みに対して、事業費の一部を支援する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

市内の里山保全活動団体等

【実施個所及び箇所数】

水沢町、小古曽五丁目及び六丁目、前田町、小牧町、平尾町

【事業量】

5 団体

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	自治会等	3/4以内	500,000	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

公募による実施

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	四日市市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
1	里山・竹林環境保全支援事業				
事 業 費	2,318,530 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,714,000		604,530

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

荒廃した里山や竹林が再生され、憩いの場や安全性が確保されるとともに、生物多様性の保存に資することが期待できる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

ホームページにて周知を図る。

【新たな対策・視点及び改善点】

市民への事業のPR

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	水沢町：約1,750名、小古曾五丁目及び六丁目：約1,240名、 前田町：約1,660名、小牧町：約1,220名、平尾町：約640名
期待する波及効果	倒竹除去により下草刈りが可能、見通しがよくなる等

【公的関与の必要性】

荒廃した里山や竹林を再生させることで市民生活の安全性や生物多様性を確保することができる。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

当該地の転用規制等は困難であるが、適正利用について確認済みである。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
広報誌掲載	実施中	6月下旬に、広報誌へ補助金の案内を掲載した。
HP掲載	今後	みえ森と緑の県民税を活用した取組として、ホームページに掲載する。

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

・「見通しがよくなり、景観が良くなった。」

・「視界が開けたことにより、防犯効果が期待される。」

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	四日市市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	------	---------	----

事業名	里山・竹林環境保全支援事業
-----	---------------

6(1). 写真



写真1

Book Of Nature Club 活動前



写真2

Book Of Nature Club 活動後



写真3

学校法人四日市メリノール学院 活動風景



写真4

よってこ保々 活動風景



写真5

サンマンション泊山公園自治会 活動前



写真6

サンマンション泊山公園自治会 活動後

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	四日市市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	------	---------	----

事業名	里山・竹林環境保全支援事業
-----	---------------

6(1). 写真



写真1

遊パークすいざわ・田んぼの楽校 活動風景



写真2

写真2



写真3



写真4

写真3

写真4



写真5



写真6

写真5

写真6

【様式集㉔】 第10号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	四日市市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	------	---------	----

事業名	里山・竹林環境保全支援事業
-----	---------------

6(2).補助事業者取組一覧

補助事業者名	補助金額	取組概要
Book Of Nature Club	500,000	竹林の伐採、倒木の解体、保全のための整備。
サンマンション泊山公園自治会	155,000	竹林等の間伐、雑木の伐採、下草刈り。
学校法人四日市メリノール学院	454,000	竹林の整備・伐採。放置竹林の影響と活用方法について学習。
よってこ保々	500,000	竹林の間伐。伐採した竹をチップ化。
遊パークすいざわ・田んぼの楽校	105,000	杉やヒノキ等の針葉樹の間伐。危険木（立ち枯れ）、雑木の伐採、下草刈りと整備。

桑 名 市

令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 市町別総合評価シート

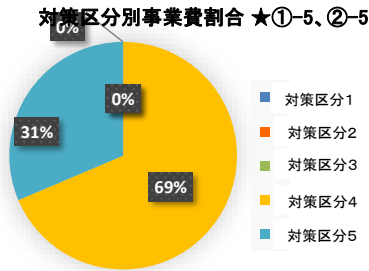
1. 基礎情報（令和5年度版三重県市町要覧による）

市町名	桑名市	三重県
人口（人）	138,613	1,742,703
年少人口割合（％）＊1	12.4%	11.6%
森林面積(ha)	2,960.03	372,030.08
民有林面積(ha)＊2	2,871.36	348,561.87
森林率(%)	22.0%	64%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	9.4	10.6

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園



2. 令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）						
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5	基金積立
1	4	多度学園木製備品購入事業	162,074,000	12,530,000				12,530,000		
2	5	播磨2号緑地里山整備事業	534,000	534,000					534,000	
3	5	竹林環境整備事業	5,341,944	5,198,000					5,198,000	
計			167,949,944	18,262,000	0	0	0	12,530,000	5,732,000	0

3. 令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量	事業費 (円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
災害からライフラインを守る事前伐採事業				
県民参加の植樹祭事業				

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	里山整備による緑と身近にふれあう環境づくりや、竹林整備を実施する団体に対する補助、学生向けの森林環境教育を通じて、市内の森林・緑地の安全管理を促進し、防災、自然環境保護、獣害対策等に繋げることで、市民の豊かな生活に寄与する。 県民税の活用による環境整備を推進し、地域住民や緑地利用者に森林への関心を持っていただくことで、県民全体で森林を支える社会づくりを推進するとともに、県民税がどの様に県民の暮らしに役立てられているかを広報等によって周知を行う。
事業実施により期待される効果	事業実施により、地域住民や公園利用者、児童、生徒に森林を身近に感じていただくことで、森林の持つ機能や、森林整備の必要性についての理解を深めてもらう。
情報発信への取組	みえ森と緑の県民税の活用方法について広報誌とホームページにより周知を実施し、「災害に強い森林づくり」や「県民全体で森林を支える社会づくり」については、パネル展示を実施。

令和7年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		（千円）	内、譲与税（千円）
1	⑩ 専門員の雇用	913	913
2	⑯ その他（木材・普及啓発関係）	6,500	6,500
3	② 意向調査	4,950	4,950
	合計	12,363	12,363

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	桑名市	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
1	多度学園木製備品購入事業				
事 業 費	162,074,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			5,795,000	6,735,000	149,544,000

1. 事業の目的

県産材導入に併せて森林教育を行うことにより、普段森林に馴染みのない児童に森林や木材への関心を高める。

2. 事業実績概要

【事業内容】

令和8年4月開校予定の義務教育学校「多度学園」に県産材を活用した備品を導入する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

桑名市

【実施個所及び箇所数】

市内小中一貫校1校

【事業量】

学校建設に伴う木製備品 計780個

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び 補助対象者等	③補助率・ 負担率等	④補助の上限及び 定額補助の額	備考
物品購入	建設業者	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

公募型プロポーザル

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	桑名市	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
1	多度学園木製備品購入事業				
事 業 費	162,074,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			5,795,000	6,735,000	149,544,000

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

県産材導入に併せて森林教育を行うことにより、普段森林に馴染みのない児童に森林への関心を持ってもらうきっかけとする。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

導入した県産材に実際に触れながら森林教育を行うことにより、普段森林に馴染みのない児童に森林や木材への関心を高める。

【新たな対策・視点及び改善点】

普段森林に触れる機会があまり多くない児童に対し、県産材に触れたり、森林教育を行ったりすることにより、森林について考えてもらう機会をつくる。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	市内小中一貫校9学年810名
期待する波及効果	県産材導入に併せて森林教育を行うことにより、普段森林に馴染みのない児童に森林や木材への関心を高める。

【公的関与の必要性】

公立学校建設に伴う事業であるため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

備品は市が所有し、管理を行う。学校内でのみ使用するため、目的外使用の見込みはない。

5. 情報発信

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
広報誌掲載	実施後	広報誌にて県民税の使い道についての記事を掲載。

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

生徒からは、木に囲まれたきれいな学校でたくさんの思い出を作りたいという声があった。
先生からは、県産材等の地域資源を活かした家具が身近にあることで、森林に関係する授業の題材として取り上げやすいという声があった。

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	桑名市	新規・継続の別	新規
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	多度学園木製備品購入事業
-----	--------------

6の(1). 写真



写真1

・ 竣工写真



写真2

・ 竣工写真



写真3

・ 竣工写真



写真4

・ 竣工写真

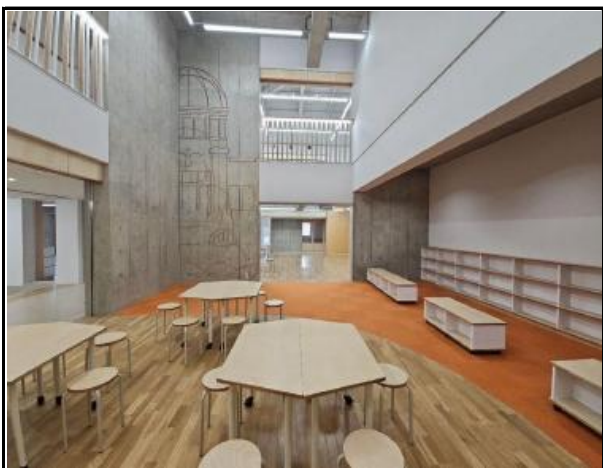


写真5

・ 竣工写真



写真6

・ 竣工写真

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	桑名市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
2	播磨2号緑地里山整備事業				
事 業 費	534,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			534,000		

1. 事業の目的

里山の整備を行い、緑と身近にふれあう環境をつくり、地域住民の自然学習や、地域活性、健康づくりの場として活用していただく。

2. 事業の実績

【事業内容】

枯木・危険木の撤去、樹木の間伐、樹木剪定、剪定枝等をチップ化した木チップを利用した散策路の整備、湧水(水路)の整備

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

桑名市

【実施個所及び箇所数】

播磨2号緑地1か所

【事業量】

里山整備0.04ha・里山簡易整備1.65ha

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	活動団体	補助事業ではない		地元ボランティア団体「ホタルとなかまの会」へ委託

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

事業実施前から、地元ボランティア団体が一定の管理を行っているため、地域性、効率性を鑑みて当該団体へ委託した。

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	桑名市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
2	播磨2号緑地里山整備事業				
事 業 費	534,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			534,000		

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

樹木剪定や水路整備等を行い、地域住民や公園利用者が安全に里山にふれあい身近に感じていただくことで、里山整備の必要性についての理解を深めていただく。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

年1回3月頃に、ホタル幼虫の放流会を通じて里山の大切さを周知する。

また、年1回ゲンジボタルの飛翔観察会を通じて里山の大切さを周知する。

【新たな対策・視点及び改善点】

県民税利用の周知について、のぼり設置や、イベント実施時の周知等、県民税の活用について広く県民に知ってもらう。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	利用者(年間約5千人)
期待する波及効果	事業を通じて緑地利用者が森林について考え、行動することで他の森林・緑地での環境保全等の行動につなげていただく。

【公的関与の必要性】

地元ボランティア団体が緑地の整備をおこなっているものの、無償であり、団体独自の活動のみでは限界があるため公的支援が必要でな状況である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

実施後も引き続き市が所有し、地元団体が整備をしていく。これまで目的外使用の申請実績は無く、規制する予定はない。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
のぼり設置	実施中	播磨2号緑地の建屋前にのぼりを設置。
標識・標柱等設置	実施中	播磨2号緑地の建屋、ゲート前に県民税を活用した事業である旨を掲載。
その他	実施中	イベント実施中に司会から県民税を活用した取組であることを参加者に周知。
広報誌掲載	実施後	広報誌にて県民税の使い道についての記事を掲載。

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

事業により整備された里山で実施したゲンジボタルの観察会の参加者からは、きれいな里山を維持することが生物の多様性につながるということが実感できたといった感想があった。

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	桑名市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	播磨2号緑地里山整備事業
-----	--------------

6の(1). 写真



写真1

・木の伐採



写真2

・木の伐採、除草



写真3

・木の伐採



写真4

・木の伐採、除草



写真5

・木の伐採、除草



写真6

・木の伐採

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	桑名市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
3	竹林環境整備事業				
事 業 費	5,341,944 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			5,198,000	0	143,944

1. 事業の目的

竹林整備を実施する団体に対する補助や学生向けの森林環境教育を通じて、市内の竹林の安全な管理を促進し、防災、自然環境保護、獣害対策等に繋げることで、市民の豊かな生活に寄与する。

2. 事業の実績

【事業内容】

竹林整備を実施する団体に対する補助事業を実施し、事業に係る粉碎機の貸出や、貸出に伴う備品や消耗品の購入や修繕も行う。

また、市内NPO法人により、桑名工業高校との課題研究授業や、市内小学校に対する環境教育活動を実施す

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

桑名市

【実施個所及び箇所数】

市内放置竹林4地区

桑名工業高校 市内小学校4校（多度北小学校、城東小学校、大山田南小学校、長島小学校）

【事業量】

竹林整備1.5ha

桑名工業高校14回 市内小学校4回

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び 補助対象者等	③補助率・ 負担率等	④補助の上限及び 定額補助の額	備考
補助事業	活動団体	3/4以内	4,800千円	複数回申請可
委託事業	活動団体	補助事業ではない	900千円	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

補助事業は公募制を採用し、委託事業は地域性、過去の実績を鑑みて当該団体へ委託した。

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	桑名市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
3	竹林環境整備事業				
事 業 費	5,341,944 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			5,198,000	0	143,944

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

放置竹林の整備により、防災、自然環境保護、獣害の減少に繋がる。

また、若年層への環境教育により、環境への取り組みや、地域課題解決への意識の醸成等が期待される。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

竹林整備事業で整備した竹林において、高校生向けの環境教育を実施することで、整備により目指す姿を実感してもらう。

【新たな対策・視点及び改善点】

補助事業を創設することで、竹林整備の面積拡大が期待できる。

また、これまで単発で行うのみであった環境教育を持続可能な事業にする。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	整備団体延べ1,000名、桑名工業高校15名、市内小学校60名×2校
期待する波及効果	放置竹林の整備により、防災、自然環境保護、獣害の減少に繋がる。 また、若年層への環境教育により、環境への取り組みや、地域課題解決への意識の醸成等が期待される。

【公的関与の必要性】

地元ボランティア団体が竹林の整備をおこなっているものの、無償であり、団体独自の活動のみでは限界があるため公的支援が必要でな状況である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

実施後も地元団体が整備をしていく。これまで目的外使用の申請実績は無く、規制する予定はない。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
広報誌掲載	実施後	広報誌にて県民税の使い道についての記事を掲載。

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

環境教育を受けた生徒からは、普段接することが少ない森林や竹林に関する内容について知ることができてよかったといった反応があった。

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	桑名市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	竹林環境整備事業
-----	----------

6の(1). 写真



写真1

・ 竹林整備作業



写真2

・ 竹林整備作業



写真3

・ 整備後の竹林



写真4

・ 環境教育（桑名工業高校）



写真5

・ 環境教育（桑名工業高校）



写真6

・ 環境教育

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	桑名市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

6(2).補助事業者取組一覽

– 42 –

鈴 鹿 市

令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報（令和5年度版三重県市町要覧による）

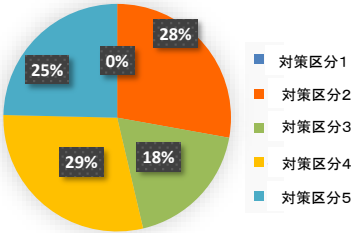
市町名	鈴鹿市	三重県
人口（人）	195,670	1,742,703
年少人口割合（％）＊1	11.2%	11.6%
森林面積(ha)	3,597.00	372,030.08
民有林面積(ha)＊2	3,421.00	348,561.87
森林率(%)	18.5%	64%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	10.6	10.6

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合 ★①-5、②-5



2. 令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）					
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5
1	2	暮らしを守る森林保全事業	4,521,000	4,521,000		4,521,000			
2	3	里山保全ボランティア育成事業	380,868	375,000			375,000		
3	3	森と緑の生涯学習講座	560,000	560,000			560,000		
4	3	森と緑の未来づくり事業	1,422,440	1,422,440			1,422,440		
5	3	緑に親しむ記念樹配付事業	649,000	649,000			649,000		
6	4	公立保育所木製品設置事業	6,465,800	4,717,070				4,717,070	
7	5	ふるさとの樹木（名木古木）保存活用補助事業	2,600,000	2,600,000					2,600,000
8	5	緑と人を育む 長太の大楠（なごのおおくす）再生プロジェクト	1,400,000	1,400,000					1,400,000
計			17,999,108	16,244,510	0	4,521,000	3,006,440	4,717,070	4,000,000

3. 令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量	事業費 (円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
災害からライフラインを守る事前伐採事業	103本	11,888,360	5,944,180	台風などの倒木被害により、ライフラインを寸断する恐れのある樹木を事前に伐採。
県民参加の植樹祭事業				

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	本市は、東に伊勢湾、西に鈴鹿山脈があり、市の中央には鈴鹿川が流れる、豊かな自然環境の下で発展してきた都市です。この恵まれた自然環境は、市民生活や経済活動に多大な恩恵をもたらしており、美しい風景や豊かな生態系は、本市にとって貴重な財産であるともいえます。このことを踏まえ、みえ森と緑の県民税市町交付金を活用し、市民に親しまれている海岸林の保全や、利用頻度の高い公共施設等への県産材利用を通じ、多くの市民が森林の恩恵を享受することができ、森や緑の大切さを学ぶ機会を設け、県民全体で森林を支える社会づくりを推進する事業を進めていきます。
事業実施により期待される効果	子どもを中心とした市民を対象に、森林について学ぶ場や緑や木にふれあう機会を提供することにより、森や緑の大切さや森林環境への理解を深めることができ、森林づくりに積極的に関わる人材の増加が期待できる。地域にある身近な緑や里山を大切にすることは、自然環境とふれあう場の確保に繋がり、自然と共生する意識がうまれる。また、人家周辺の森林や樹木を適切に管理することで市民の暮らしの安心・安全を確保することができる。
情報発信への取組	本市におけるみえ森と緑の県民税の活用について、市広報への記事の掲載を行うことで市民への周知を図った。また、事業実施の際は、県民税のばりやロゴマークを掲出するなどして、みえ森と緑の県民税活用事業であることの周知に努め、啓発物品を配布することで、みえ森と緑の県民税制度の理解を深めてもらえるよう取り組んだ。県民税の県内での活用事例紹介や森林のもつ多様性についての展示を市民ギャラリーにて実施し、来庁者への情報発信を行った。

令和7年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		（千円）	内、譲与税（千円）
1	⑮ 森林・林業・木材普及活動等	467	467
2	⑮ 森林・林業・木材普及活動等	8,300	8,300
3	② 意向調査	5,291	5,291
4	③ 私有林整備	1,999	1,999
5	③ 私有林整備	0	0
6	③ 私有林整備	0	0
7	⑩ 専門員の雇用	2,200	2,200
8	⑦ その他（森林整備）	895	895
9	⑥ 林道・林専道の整備等	2,570	2,570
10	⑰ 基金積立（森林整備等）	11,413	11,413
	合計	33,135	33,135

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
1	暮らしを守る森林保全事業				
事 業 費	4,521,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,521,000		

1. 事業の目的

本市東部には伊勢湾に面する長い海岸があり、そこに植生する松林が防潮・防風・飛砂防止・津波軽減などの働きにより周辺住民の暮らしを守っている。しかし、病害虫被害で枯松化が拡大し、台風時の倒木や枝の飛散等、住居や人身への被害が懸念されている。このような状況を改善するため、人家周辺における病害虫被害木を積極的に伐採・除去及び防除をすることで海岸林の維持保全を行い、景観及び防風林としての機能を維持し、安全・安心な暮らしの確保を目的とする。

2. 事業の実績

【事業内容】

①過去にみえ森と緑の県民税を活用して植樹した松の健全な育成及び古くから植生している松の保護を目的として、海岸林保全管理計画書に基づき、松くい虫の防除のための薬剤を植樹松については土壌灌注し、既存松については樹幹注入を行った。また、既存松で、松くい虫の被害を受けて枯れている松については、早急に伐倒を行った。

②人家周辺で松くい虫の被害を受けている松を伐倒・駆除し、抵抗性のある黒松を植樹し、松林の維持保全に努めた。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

鈴鹿市

【実施個所及び箇所数】

①鼓ヶ浦海岸内の市管理地

②東磯山緑地（市有地）

【事業量】

①樹幹注入 対象木132本（アンプル数622本）、土壌灌注 対象木151本、伐採3本

②伐倒8本、植樹（対抗性黒松）6本

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	造園業者	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

①土壌灌注及び樹幹注入 指名競争入札（8者）

入札参加資格者のうち防除・駆除（松くい虫）に登録がある市内業者

②随意契約（2者見積）

病害虫被害木の伐採、苗木の植樹には専門的な知識・技術が必要なことから造園業者を選定。

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
1	暮らしを守る森林保全事業				
事 業 費	4,521,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,521,000		

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

①病虫害被害木の伐採・除去及び被害防止のための樹幹注入・土壌灌注を実施することで、台風等による倒木被害の防止につながり、健全な松林を整備することは防潮・防風・飛砂防止など周辺住民の暮らしの安全を守ることにつながる。また、景観を維持することで訪れる県内外の人々に海岸林の保全に対する理解が広がる波及効果も期待される。

②人家周辺における病虫害被害木の伐採・駆除、さらに樹幹注入を実施することで、台風時の倒木や枝の飛散等での住居や人身への被害防止や病虫害被害の拡大阻止につなげ、通行や暮らしの安全を確保し、松林が本来有する機能を維持保全することができた。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

①定期的に見回りを行い、樹木医と相談することで、適切な処置を行った。今後も引き続き枯れ木の伐採や植樹松の間伐及び土壌灌注を行っていく。

②定期的に被害状況を確認し、必要に応じて特別伐倒駆除を行った。また、効果的に病虫害による被害を軽減するため、抵抗性のある黒松を植樹した。

【新たな対策・視点及び改善点】

樹木医から定期的に助言をいただき、伐採による除去と新たな松の植樹、または樹幹注入による予防のどちらが効果的かを判断し、松枯れの原因の究明等を行い、効果的に海岸林の維持保全を行った。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	①鼓ヶ浦海岸付近在住の市民（約2,000世帯4,700人） ②東磯山緑地付近の住民（約500世帯、約1,000人）
期待する波及効果	①広報やHP事業看板やのぼりにより県民税の周知が広がる。 ②広報やHP、事業看板等により本事業を知った住民に県民税の理解が深まる

【公的関与の必要性】

事業地は市有地であることから、公的関与が必須である。また、事業地周辺は、松くい虫による病虫害被害により、台風時に倒木や枝の飛散等での住居や人身への被害が懸念され、本事業によって周辺住民に対し安心・安全な住環境を寄与できることから、公的関与が必要である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

市有地のため、転用等が想定されず、該当しない。
定期的な見回りを行う。

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
1	暮らしを守る森林保全事業				
事 業 費	4,521,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,521,000		

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
広報誌掲載	実施後	みえ森と緑の県民税を活用した事業について広報誌に掲載することで、本市における活用状況を市民に周知した。
HP掲載	実施後	東礪山緑地の保全について、みえ森と緑の県民税を活用した事業であることを掲載する。
のぼり設置	実施中	事業実施箇所・周辺住民・県民税の活用について
施工看板に掲示	実施中・後	事業実施箇所・周辺住民・県民税の活用について

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

周辺住民から感謝されるとともに、今後も継続して適正な維持管理をしていくよう依頼を受けた。

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	暮らしを守る森林保全事業
-----	--------------

7の(1). 写真



写真1

鼓ヶ浦海岸 樹幹注入



写真2

鼓ヶ浦海岸 樹幹注入（作業中の様子）



写真3

鼓ヶ浦海岸 樹幹注入（作業中の様子）



写真4

鼓ヶ浦海岸 土壌灌注（作業中の様子）



写真5

鼓ヶ浦海岸 土壌灌注（作業中の様子）



写真6

鼓ヶ浦海岸 土壌灌注（作業中の様子）



写真7

鼓ヶ浦海岸 枯れ松伐採前



写真8

鼓ヶ浦海岸 枯れ松伐採後



写真9

東磯山緑地 植樹前



写真10

東磯山緑地 植樹作業状況



写真11

東磯山緑地 枯れ松伐採前



写真12

東磯山緑地 枯れ松伐採後

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	暮らしを守る森林保全事業
-----	--------------

7の(2). その他資料

広報誌に掲載した内容（広報鈴鹿3月5日号）

情報館 ④ みえ森と緑の県民税事業
 農林水産課 ☎382-9017 ☎382-7610
 ✉norin@city.suzuka.lg.jp



令和7年度みえ森と緑の県民税を活用した事業についてお知らせします

本市では、平成26年4月から導入された「みえ森と緑の県民税」を活用し、「災害に強い森林づくり」と「県民全員で森林を支える社会づくり」に取り組んでいます。

市内で実施した9事業を紹介します

里山保全ボランティア育成事業
 地域の里山・森林づくりを積極的に担う人材育成のため、「里山保全基礎講座」を開講しました。また、里山保全への興味を多くの方に持ってもらうために「里山保全体験」を実施しました。



森と緑の生涯学習講座
 市内の公民館で、小学生を中心とした子どもと保護者を対象に、間伐材を利用した木工工作、フィールドワーク、木のおもちゃに触れるなどの森林環境学習を行いました。



ふるさとの木(名木古木)保存活用事業補助事業
 ふるさとの木(市内の天然記念物や地域緑化のシンボルとなっている樹木・樹木群)の所有者などに対して、樹木診断や樹木治療などを実施するための経費を補助しました。



森と緑の未来づくり事業
 市内の小学校に対して、森林についての座学と木工体験講座による森林教育出前授業を行いました。



公立保育所木製品設置事業
 保育室に県産材を使用したロッカーなどを設置し、森林教室を開催することで、児童に森林について学び触れ合う場を提供しました。



緑と人を育む長太の大楠再生プロジェクト
 長太の大楠の樹勢回復を目的として、樹木治療や土壌改良などを行いました。



緑に親しむ記念樹配布事業
 誕生や新入学などの節目を迎えた市民に対して、本市で生産された植木を記念樹として配布しました。



暮らしを守る森林保全事業
 鼓ヶ浦海岸内の市管理地と東礪山緑地の樹木に対して、病害虫防除のための薬剤注入や伐採をしたり、緑地に植樹を行ったりしました。



災害からライフラインを守る事前伐採事業
 「災害に強い森林づくり」のため、台風などが原因の倒木によりライフライン(電線)が寸断する可能性がある樹木を事前に伐採しました。



令和8年度も、引き続き「みえ森と緑の県民税」を活用し、地域の実情に応じて創意工夫した森林づくりや県と連携した災害に強い森林づくりなどの施策を実施していきます。なお、国から譲与される「森林環境譲与税」とは、使途をすみ分けた上で双方を有効に活用しています。

2026.3.5 **9**

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
2	里山保全ボランティア育成事業				
事 業 費	380,868 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			375,000		5,868

1. 事業の目的

平成22年から深谷公園において市民ボランティアと共に「里山保全活動」実施していたが、令和5年度からは里山保全を更に進めていくため、活動に必要な基礎的知識や技術を学び人材育成する「里山保全基礎講座」と、森林や里山に触れる機会を提供し興味をもってもらうことを目的とした「里山保全体験」を開設し、市民参加を促してきた。引き続き令和7年度においても活動を進めていく。

2. 事業の実績

【事業内容】

令和5年度から里山保全活動に必要な基礎的知識・技術を学ぶ場としての「里山保全基礎講座」、多くの方が里山保全に興味を持ち活動に参加してもらうことを目的にした「里山保全体験」を実施している。
来年度も引き続きこの二つの活動を継続して行い、里山保全を安全で確実に実践することができる人材を育成する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

鈴鹿市及びボランティア団体

【実施個所及び箇所数】

深谷公園、鈴鹿市役所本館、鈴鹿市男女共同参画センター、鈴鹿市考古博物館 計4か所

【事業量】

里山整備 約7,000㎡

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	活動団体			

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

専門的な知識(森林インストラクターの資格等)を持ち合わせており、本市の自然環境にも精通しているため。

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

深谷公園が自然とふれあい、自然を学ぶ場として活かされ、里山林をはじめとした森林、自然環境との触れ合い、自然との共生の大切さに対する理解が進むことが期待できる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

「里山保全体験」については、里山保全に興味を持つ入り口となることを目的としているため、次世代を担う年齢層が興味をもってもらえる内容にし、対象者を小中学生として保護者とともに参加してもらった。

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
2	里山保全ボランティア育成事業				
事 業 費	380,868 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			375,000		5,868

【新たな対策・視点及び改善点】

「里山保全体験」については、里山保全に興味を持つ入り口となることを目的としているため、次世代を担う年齢層とその親子を対象とし、より多くの方に参加してもらいやすいイベント内容を企画し、参加者の増加を目指す。また、体験だけでなくプロジェクター等を用いて分かりやすい説明を加えた。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	当該活動に触れた人(132名)
期待する波及効果	自然や里山保全に興味を持つ人が増えることが期待される。また、参加者の家族等や公園利用者にも効果が期待される。

【公的関与の必要性】

本市の基本施策(自然環境と生物多様性の保全)の下で推進すべき事業である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

深谷公園は市の公園であるため、基本的に管理は市で行う。

5. 情報発信

【内容】

広報誌掲載	実施前	イベント参加者募集の記事に県民税を活用した事業であることを記載。
のぼり設置	実施中	みえ森と緑の県民税を活用した事業であることを示したのぼり旗を設置
チラシ等配布	実施中	イベントの際に、県民税を活用した取組であることをアナウンスし、県民税のパンフレットやクリアファイルを配布。また、当事業がみえ森と緑の県民税の基本方針の内の「森を育む人づくり」の対策を進めるため、地域の里山・森林づくりを積極的に担う人材を育成することを目的としていることを案内。
アンケート実施	実施中	県民税の認知度や意識向上を図るため、参加者を対象にアンケートを実施。
HP掲載	実施前・中・後	過年度の事業実施結果を市のウェブサイトで紹介

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

アンケートにて、森林や里山に対する理解・関心が高まったという声が多く聞かれた。
また里山保全基礎講座については、当該事業終了後に里山保全に係る別事業への参加を希望をする方もおり、森林や里山に対する関心を高めるだけでなく、具体的な行動を起こすきっかけになった。

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	里山保全ボランティア育成事業
-----	----------------

7の(1). 写真



写真1

里山保全基礎講座（第1回 座学形式）



写真2

里山保全基礎講座（第2・3・4回 実技形式）



写真3

里山保全基礎講座（第2・3・4回 実技形式）



写真4

里山保全基礎講座（第5回 悪天候のため座学形式）



写真5

里山保全体験（第1回 竹の工作）



写真6

里山保全体験（第2・3回 シイタケの菌打ち体験）

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
3	森と緑の生涯学習講座				
事 業 費	560,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			560,000		

1. 事業の目的

小学生を中心とした子どもと保護者が、森や緑の大切さについて学ぶ。また、県の取り組みについて知り、木工工作などを通して木などに触れることにより、森林保全や持続可能な自然環境などの理解を深めることを目的とする。

2. 事業の実績

【事業内容】

市立公民館において、社会教育事業を実施している団体（公民館運営委員会及び地域づくり協議会）に「森と緑の生涯学習講座」として委託し、小学生を中心とした子どもと保護者が、夏休み、冬休みなどの長期休暇を利用しながら、年間3回以上の定期講座として、講義、間伐材を利用した木工工作、森の資源を利用した工作、木のおもちゃに触れる等の森林環境学習を実施する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

地域づくり協議会、公民館運営委員会

【実施個所及び箇所数】

8館（久間田、庄内、井田川、住吉、神戸、飯野、稲生、旭が丘）

【事業量】

8館において、1館3講座以上の開催

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	地域協議会等	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

地域づくり協議会や公民館運営委員会が、地域の生涯学習の場、地域の交流拠点でもある公民館の事業運営を行っているため。

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

講話、木工教室などの森林学習を行うことで、小学生を中心とした子どもとその保護者が森林環境を身近に感じることができる。また、森林の現状や、自然環境を守ることの大切さを理解することによって、地域全体で森や緑を大切に考える人づくりにつなげていくことができる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

小学生を対象とした講座を計画し、子どもが興味を持つ工作を組み入れたり、多くの人が集まる事業と共催するなどの工夫をした。また、子どもと一緒に保護者も参加できる講座を企画することで参加対象の幅を広げた。さらに、指導者として高齢者の参加を促す取り組みも行った。

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
3	森と緑の生涯学習講座				
事業費	560,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			560,000		

【新たな対策・視点及び改善点】

公民館において森林に関する学習を容易かつ効果的に行うためには、教材や教育手法を視覚、聴覚、嗅覚、触覚などで学べるよう、いっそうの工夫を凝らす必要がある。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	全体：27講座 人数：693人（内訳：幼小中344人、青少年17人、成人165人、高齢者167人）
期待する波及効果	多くのこどもが参加することにより、森林や環境に関する話題が家庭内でも広がる波及効果が期待できる。

【公的関与の必要性】

こどもたちに豊かな自然を残すためには、長期的な視点での公的な取り組みが必要である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

5. 情報発信

【内容】

のぼり設置	実施中	講座を受けている時に、掲示して啓発
ロゴマーク掲示 (シル・プレート等)	実施前	たより・チラシなどに掲載
広報誌掲載	実施前・後	募集のたより、チラシ、事業報告などで地域やこどもに周知
アンケート実施	実施後	講座を受けた後、必ずアンケートを行い意見を聞く。
啓発物品配布	実施中	啓発のため、参加者に配布

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

参加者アンケートより

- ・税金で管理・整備し、災害対策をしていることは良いことだと思った。
- ・ヒノキのコースターづくりは、ヒノキがとても良い匂いだった。
- ・クイズで森のことを楽しく知ることができた。
- ・森のことを知れたので、今度は村や林についても知りたい。
- ・木の匂いを楽しめた。
- ・これからも森林環境を大事にしたい。

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森と緑の生涯学習講座
-----	------------

7の(1). 写真



写真1 庄内公民館
宅配BOXづくり



写真2 住吉公民館
ひのきと杉のコースターづくり



写真3 神戸公民館
丸太切り



写真4 久間田公民館
竹工作（カタツムリ）



写真5 飯野公民館
花台づくり



写真6 旭が丘公民館
カホンづくり

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	リニューアル
------	-------------	-----	-----	---------	--------

番 号	事 業 名				
4	森と緑の未来づくり事業				
事 業 費	1,422,440 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,422,440		

1. 事業の目的

森林環境の保全と森林と共生する文化の創造に寄与する活動を実施する団体に対し、その活動に要する経費の一部について補助を行うこと、また、小学校高学年を対象として森林教育を行うことで、森林・木材への理解を深め、森林環境の保全等の発展並びに住民の生命及び財産の保護に資することを目的とする。

2. 事業の実績

【事業内容】

- ①鈴鹿市補助金等交付規則及び鈴鹿市緑の未来づくり事業補助金交付要領に基づき補助金を1団体に交付した。実施主体は、補助金を利用して、森林を市民で守り育てる意識の醸成に寄与する活動（炭焼きを交えた森林教室）を開催した。
- ②小学校高学年対象に森林教育出前授業を行う。（1校につき、森林についての座学1時限と県産材を使用した本棚作りの木工体験1時限の計2時限分）

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

- ①NPO法人鈴花
②鈴鹿市

【実施個所及び箇所数】

- ①NPO法人鈴花
②鼓ヶ浦小学校、庄内小学校、一ノ宮小学校、清和小学校

【事業量】

- ①1件 2回
②4校6クラス 計153名

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	活動団体	3/4以内	1事業につき上限10万円	①補助事業分
委託事業	その他	補助事業ではない		②森林出前授業分 座学は森林組合に委託 木工体験は建設労働組合に委託

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	リニューアル
番号	事業名				
4	森と緑の未来づくり事業				
事業費	1,422,440 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,422,440		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

- ①事前に提出される「事業実施計画書」及び「収支計画書」を審査し、補助金に定める森を育む人づくり事業（木に触れ合う契機を創り出す活動で、森林を大切に思い、育む人づくりにつながるものをいう。）及び緑の環境づくり事業（植樹、植栽等、緑の空間創造につながるものをいう。）に該当する団体を選定した。
- ②出前授業の講師として座学には三重県で「森のせんせい」及び「認定林業事業体」の登録があり、地域の森林・林業に詳しい森林組合を選定した。（少額随契・見積3者）また、木工体験教室には三重県内の各市町において、業務内容に関連する木工体験事業等を随時行っており、小学生向けの森林教育での木工体験の実績もある団体を選定。（少額随契・見積3者）

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

- ①住民団体等が実施する活動に対し補助金を交付することで、市民・行政がそれぞれの特性を生かした取り組みが期待できる。また、住民団体による自発的な活動を支援することで、住民の森林づくりへの意識の向上が期待できる。
- ②次世代を担う子どもたちへ森林に関する授業・木工体験等を行うことで、森林を身近に感じることができ、森林に対して興味を持ってもらい森林・林業に関する知識を深めることができる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

- ①HPに掲載し、広く周知を行った。また、森林環境の保全と共生する文化の創造に寄与する活動を実施する団体には、個別に補助金の趣旨を説明し、県民税の理解を深めてもらった。
- ②鼓ヶ浦小学校、庄内小学校、一ノ宮小学校、清和小学校の各校にて、座学の最後に、児童からの質疑応答の時間を多めに確保し、活発なやり取りを通して、森林に対する理解を深めてもらった。

【新たな対策・視点及び改善点】

事業を実施するに当たり、参加者の募集を行う際には、県民税が活用されていることはもちろん、県民税の活用意義、活動内容がいかに森林づくり等につながるかを、SNS等を活用し幅広く情報発信することを活動団体に求めた。

小学校で実施したため、学校だより等で事業内容及び県民税の活用についてを記載してもらい、保護者や地域へ情報発信してもらった。また、次年度以降の参考とするため、授業実施後にアンケートを実施し、授業の感想や意見を調査した。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	①参加者42人 ②小学生153人
期待する波及効果	①講座の参加者に鈴鹿の山と木材利用についての学びの場を提供することができた。 ②市内の各小学校に出前授業での座学及び木工体験を実施することで、森林の機能や木材利用について、理解を深めることができた。

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	リニューアル
------	-------------	--	-----	-----	---------	--------

番 号	事 業 名				
4	森と緑の未来づくり事業				
事 業 費	1,422,440 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,422,440		

【公的関与の必要性】

①三重県鈴鹿市の山と伝統産業の炭焼きについての講座は木の良さや木材の利用方法について知る学びの場となり、県民税の趣旨に沿うもので公益性が高く、公的関与が妥当と判断した。

②市内の小学生に森林について学習してもらうためには、長期的な視点での公的な取り組みが必要である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

5. 情報発信

【内容】

チラシ等配布	実施前	①の事業について、活動団体がチラシを作成し、県民税を活用したイベントの周知を行った。
のぼり設置	実施中	①及び②の事業について、みえ森と緑の県民税ののぼりを設置することで、みえ森と緑の県民税を活用した事業であることをPRした。
アンケート実施	実施中	②について、森林に関するアンケートを実施し、森林づくりのために何ができるかなど森林に対する意識の醸成に取り組んだ。併せて、みえ森と緑の県民税のロゴマークを配置し、県民税についての質問も加え、県民税事業であることを強調した。
広報誌掲載	実施後	みえ森と緑の県民税を活用した事業について広報誌に掲載することで、本市における活用状況を市民に周知した。
学校だより等掲載	実施後	②の事業について、授業実施後に各小学校に学校だより等で周知していただくよう、依頼した。

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

補助事業活動団体から「イベントにたくさんの方が参加し、鈴鹿の山や伝統産業である炭焼きによる木材利用など、木の良さを周知できた」との報告を頂いた。

森林教育出前授業については別紙のアンケート結果のとおり。

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	リニューアル
------	-------------	-----	-----	---------	--------

事業名	森と緑の未来づくり事業
-----	-------------

7の（1）. 写真



写真1

鈴鹿の山と炭焼きについての講座（2/21実施分）



写真2

鈴鹿の山と炭焼きについての講座（3/21実施分）



写真3

森林出前授業（座学）



写真4

座学でスギの年輪を数えている様子



写真5

森林出前授業（木工体験）



写真6

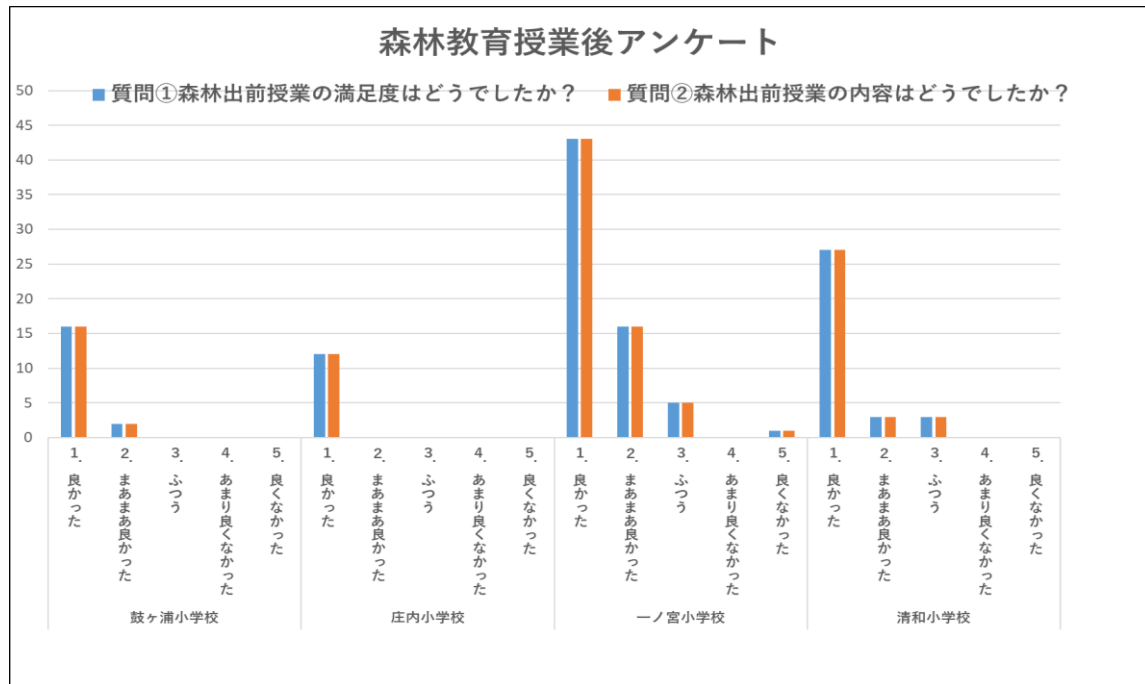
木工体験で製作した本棚（三重県産材）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	リニューアル
------	-------------	-----	-----	---------	--------

事業名	森と緑の未来づくり事業
-----	-------------

7の(2). その他資料

・ 授業後アンケート結果



	質問③ 森林出前授業でもっとも印象に残ったことは何でしたか? (抜粋)	質問④ 森林・林業に関してもっと知りたいと思ったことはありましたか? (抜粋)	質問⑤ 疑問に思っていることや聞きたいことがあれば、自由に書いてください (抜粋)
鼓ヶ浦小学校	- 人間の生活には木は欠かせないものだとし、森林を大切にしたいと思った。 - 本棚作りが印象的だった。 - 森林は災害などから人を守り、人も森林を守っていくこと。	- 日本の森林面積 - 木で作れるものをもっと知りたい。 - 森林の整備にはどのくらいかかるか - 木の寿命。 - 伐採時にどうやって倒しているか。	- 木の成長速度 - 山の川はどうやってできるか。 - 森と林と森林の違い。 - 安全面、時間的に厳しいと思うが、ノコギリできる工程や線を引く工程ができれば良いと思った。 - 様々なことを教えていただき、ありがとうございました。
庄内小学校	- 本棚作り。 - 手入れした森林と手入れしていない森林の差。 - 木の光合成による働き - ヒノキの年輪を数える作業。 - 年輪で木の年齢がわかること。	- 生活用品として期は必要か。 - 森林の手入れについてもっと知りたい。 - 木で作れるものをもっと知りたい。 - 森林がどのように役立っているかをもっと知りたい。 - 森林整備を行う際の人数。	- 木の伐採にかかる時間。 - 海外の森林面積。 - 伐採時に工夫する点。
一ノ宮小学校	- 木の年齢 - 森林が多くての生物の住処になっていること。 - 本棚作り - 本棚作りで釘を打ったこと - 森林整備(間伐)の必要性 - 森林の災害防止機能 - 光合成による働き - 森林が食物連鎖に関係していること - 木にもいろいろな種類があること。 - 手入れした森林とそうでない森林の差	- 木の寿命 - 木の1年の成長量。 - 林業の危険性 - 日本全体又は三重県の森林の面積 - 木材として1年でどれくらいの量ができるのか - 森林の手入れの頻度 - 木の長さ・太さは最大何mになるか - 木材の活用として一番多いものはなにか - 教室で例えると鈴鹿の森林は何個分になるか - くすの木の年輪をみたい。 - 森林が全くなければどうなるのか - 木の状態はどうみればわかるのか - 枯れて倒れた木はどうなるのか - 三重県はスギとヒノキのどちらが有名で多く流通しているか - 体育館の床は木なのになぜつるつるなのか	- 手入れした森林は土砂崩れ防止に本当に効果があるのか - 切りすぎはよくないと思う。 - 日本で一番長く生きている木は何か。また今どうなっているか。 - 木の幹は丸いが、木の板などのまっすぐな材木の作り方。 - 山の木の種類は何種類くらいあるか。 - 森林の手入れは伐採・間伐以外になにかがあるか - 間伐した木の根は伐根するのかわかるか - 家を作るのに必要な木の量。 - 森林の手入れは大変か。 - 何人ほどで作業するのか。道具は何を使うのか - 切った木はどうなるのか。 - 木は種からそでてるのか。 - 寿命がなぜ長いのか - 林業で困っていることはあるか
清和小学校	- 年輪に種類があることに驚いた。 - 森林の災害防止機能が印象に残った。 - 地球温暖化防止機能が印象に残った。 - 手入れした森林のきれいさ - 木が水分を蓄えること - 光合成のはたらき - 海と森林が深い関係にあること	- 森林の手入れで一番大変なこと - 手入れの頻度 - 山で作業するとき動物によくあうのか	- 林業でハラハラした経験はあるか - 間伐で切る木を間違えたときどうするか - 木は高く売れるか - 木製品はサラサラなのに森の木はザラザラなのはどうしてか - 一番太い木は何か

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
5	緑に親しむ記念樹配布事業				
事 業 費	649,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			649,000		

1. 事業の目的

昨年度に引き続き実施した、森林との関わりについてのアンケート調査の結果、記念樹配布をきっかけとして森林に対する意識の変化があった。以前よりも「森林と人々の暮らしが密接に関わっていることを理解した」が増加し、「今までと特に変わらない」と回答する人が減少した。

また、みえ森と緑の県民税の方針である「県民全体で森林を支える社会づくり」のためにできることとして、最も多く回答されたのが「身近にある緑や木を大切にすること」が昨年と同様に回答が多かった。これらのアンケート結果を踏まえ、身近にある緑や木を大切に思う気持ちを醸成することから始め、将来、積極的に森林づくりに関わる人材の増加を図る。

2. 事業の実績

【事業内容】

生産者と消費者の交流を通じて、人と緑のふれあいを高めることを目的として開催されている「鈴鹿市植木まつり」の会場において、新生児や新入学の記念を迎えた市民に対し、全国有数の植木産地である鈴鹿市で生産された植木を記念樹として配布し、併せて県産材で作製した県民税ロゴ入り記念プレートを配布した。

また、記念樹の配布列の横に「森のはたらきパネル」を展示し、森林が有する公益的機能及び木材利用による緑の循環についての啓発を行い、加えて、受付時に森林との関わりについてのアンケート調査を実施することで、森林環境についての理解を深める機会を提供した。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

鈴鹿市植木振興会

【実施個所及び箇所数】

鈴鹿市フラワーパーク

【事業量】

記念樹200本、木製記念プレート200枚

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
直営		補助事業ではない		

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
5	緑に親しむ記念樹配布事業				
事 業 費	649,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			649,000		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

直営のためなし

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

人生の節目を記念して自らの手で植樹することで、緑や木を大切に思う気持ちが育まれ、庭木として植えることにより、受益者本人だけでなく家族全体の緑化意識の向上が期待される。また、愛着心を持った木に県民税ロゴ入り記念プレートを飾ることで、手入れをする度に「みえ森と緑の県民税」や森林について思い起こす機会を提供することができる。

さらに、記念樹配布時に「森のはたらきパネル」を展示することにより、木材利用による緑の循環など森林づくりへの関心を深めることが期待できる。1万人近くが集まる大きなイベントで事業実施することで、当該効果は直接の受益者数以上に波及することが期待される。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

配布樹種には、より愛着心が湧くように、地元鈴鹿市で生産された植木を選定した。

また、県民税ロゴ入り記念プレートを配布することで、記念樹の手入れをする度に、県民税制度のことなど植樹した経緯がリマインドできるように工夫した。

【新たな対策・視点及び改善点】

三重県が実施した森林づくりに関する意識調査において、「子どものころに森林とふれあう機会が多かった」人ほど、「森林は大切だと感じており、積極的に関わっていきたい」と感じる傾向にあることに着目し、今回から配布対象者を新生児及び新入学に限定することで、より多くの子どもたちが森林に関心を向ける機会を増やした。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	新生・新入学を迎えた市民200人及びその家族（計800人想定）
期待する波及効果	8千人以上が集まる大きなイベントで事業実施することで、「森のはたらきパネル」設置による効果は直接の受益者数以上に及ぶ。 また、記念樹が受益者の家庭に存在し続けることで、本事業の効果は家族や友人などに継続的に波及されることが期待できる。

【公的関与の必要性】

森林との関わりが希薄な若年層に対し、森林環境に関する理解を深めるきっかけを作るには、行政の積極的な関与が必要である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

該当なし

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
5	緑に親しむ記念樹配布事業				
事 業 費	649,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			649,000		

5. 情報発信		
【内容】		
チラシ等配布	実施前・中	鈴鹿市植木まつりのチラシに記念樹配布事業について掲載し、みえ森と緑の県民税を活用した事業であることの周知を図った。
のぼり設置	実施中	配布場所にはみえ森と緑の県民税ののぼりを設置することで、みえ森と緑の県民税を活用した事業であることをPRした。
アンケート実施	実施中	受付時には森林に関するアンケートを実施し、森林づくりのために何ができるかなど森林に対する意識の醸成に取り組んだ。併せて、みえ森と緑の県民税のロゴマークを配置し、県民税についての質問も加え、県民税事業であることを強調した。
啓発物品配布	実施中	みえ森と緑の県民税の啓発物品を併せて配布することで、みえ森と緑の県民税を活用した事業であることをPRするとともに、森林づくりの重要性について啓発を実施した。
ロゴマーク掲示 (シル・プレート等)	実施中・後	県民税ロゴ入り記念プレート（吊下げ用）を配布することで、記念樹の手入れをする度に、県民税制度のことなど植樹した経緯がリマインドできるように工夫した。
広報誌掲載	実施後	みえ森と緑の県民税を活用した事業について広報誌に掲載することで、本市における活用状況を市民に周知した。
6. 写真及びその他資料		
別紙のとおり		
7. その他特記事項（受益者の反応等）		
植木まつり実施中及び終了後、「記念樹が子供ともに成長する姿を見て、記念樹を頂いてよかった」、「生活において緑を身近に感じることができ、子供が豊かな心を育むことにつながると思う」、「子供が大切に育てており、植木への愛着も芽生えた。また、身の回りの植物に興味を持つようになった」などの声を頂いた。		

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	緑に親しむ記念樹配布事業
-----	--------------

7の(1). 写真



写真1
配布の様子及び森の働きパネル展示



写真2
配布の様子



写真3
アンケート記入の様子



写真4
アンケート記入の様子



写真5
森の働きパネルでお勉強



写真6
県民税ロゴ入り記念プレート

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	緑に親しむ記念樹配布事業
-----	--------------

7の(2). その他資料

植木まつりのチラシ（県民税事業は赤枠部分）

2025 第49回 鈴鹿市 植木まつり
 4/11(金) 12(土) 13(日) 14(月)
 9:00~16:00(最終日のみ15時まで) ●荒天の場合中止
 場所/鈴鹿フラワーパーク 鈴鹿市加佐登町1690-1

お楽しみ抽選会
 植木・花を3,000円以上お買い上げの方

植木・花の大量販売
 鈴鹿市は全国でも有数の植木産地です。産地直送の安くて新鮮な花木や鉢物、各種花苗など800種以上が勢ぞろい！植木について育て方などご相談ください！あなたにぴったりの植木を提供します！

ご当地グルメやキッチンカーもふるよ

パースデーツリーの展示販売
 誕生石ならぬ誕生木を育ててみませんか。

キッズECOハンギングバスケット作り
 4/12(土)・13(日) 9:00 受付開始 10:30 体験開始
 各日先着30名 対象:小学生

押しグリーンコンテスト
 各お店イチ推しの植木を見ながらウォークラリーに参加してみませんか？コンテスト投票かつウォークラリー正解者には先着でプレゼントあり！※Instagramの「いいね」でも投票できます。

寄せ植え体験
 9:00 受付開始 11:00 体験開始
 4/11(金)・14(月) 各日先着30名
 ※1,500円で2,000円分の寄せ植えができます！

植木購入券500円プレゼント
 4/11(金)・12(土)・13(日)・14(月) 13:00~配布
 各日先着50名 対象:中学生以上
 ※1,000円以上の植木、花苗の購入につき1枚配布

みり会による植木オークション
 13:30~ 目玉商品が安く手に入るかも？
 4/12(土)・13(日)

ハローツリー（記念樹）の配布
 入学等を迎えた市民に植木の配布
対象者 ※先着順(樹種は選べません)
 鈴鹿市在住で新生1年未満、今年小中学校入学の方。
 (ご本人様のみ必ず受付までお越しください。ただし、新生児のみ、母子手帳の提示で対応可。)
 ※この事業は「みえ森と緑の県民税」を活用しています。

インスタフォローと「いいね」で花苗プレゼント
 Instagramのアカウントのフォローかつ投稿に「いいね」で花苗プレゼント！※無くなり次第終了
 ※掲載の写真・イラストは全てイメージです。

■主催/鈴鹿市植木振興会 ■後援/三重県・鈴鹿市・鈴鹿市教育委員会 ■協力/鈴鹿市物産協会・中部ケーティングサービス
 【問合せ先】鈴鹿市植木振興会事務局(鈴鹿市農林水産課) ☎059-382-9017 【当日の問合せ先】管理事務所 ☎059-367-3455

広報誌に掲載した内容（広報すずか3月5日号）

情報館 ① みえ森と緑の県民税事業
 農林水産課 ☎382-9017 ☎382-7610
 norin@city.suzuka.lg.jp

令和7年度みえ森と緑の県民税を活用した事業についてお知らせします
 本市では、平成26年4月から導入された「みえ森と緑の県民税」を活用し、「災害に強い森林づくり」と「県民全員で森林を支える社会づくり」に取り組んでいます。

市内で実施した9事業を紹介します

- 里山保全ボランティア育成事業**
 地域の里山・森林づくりを積極的に担う人材育成のため、「里山保全基礎講座」を開講しました。また、里山保全への興味を多くの方に持ってもらうために「里山保全体験」を実施しました。
- 森と緑の生涯学習講座**
 市内の公民館で、小学生を中心としたこどもと保護者を対象に、間伐材を利用した木工工作、フィールドワーク、木のおもちゃに触れるなどの森林環境学習を行いました。
- ふるさとのも木(名木古木)保存活用事業補助事業**
 ふるさとの木(市内の天然記念物や地域緑化のシンボルとなっている樹木・樹木群)の所有者などに対して、樹木診断や樹木治療などを実施するための経費を補助しました。
- 森と緑の未来づくり事業**
 市内の小学校に対して、森林についての産学と木工体験講座による森林教育出前授業を行いました。
- 公立保育所木製品設置事業**
 保育室に県産材を使用したロッカーなどを設置し、森林教室を開催することで、児童に森林について学び触れ合う場を提供しました。
- 緑と人を育む最太の大楠再生プロジェクト**
 最太の大楠の樹勢回復を目的として、樹木治療や土壌改良などを行いました。
- 暮らしを守る森林保全事業**
 鼓ヶ浦海岸内の市管理地と東礪山緑地の樹木に対して、病虫害防除のための薬剤注入や伐採をしたり、緑地に植樹を行いました。
- 緑に親しむ記念樹配布事業**
 誕生や新入学などの節目を迎えた市民に対して、本市で生産された植木を記念樹として配布しました。
- 災害からライフラインを守る事前伐採事業**
 「災害に強い森林づくり」のため、台風などが原因の倒木によりライフライン(電線)が寸断する可能性がある樹木を事前に伐採しました。

令和8年度も、引き続き「みえ森と緑の県民税」を活用し、地域の実情に応じて創製した森林づくりや県と連携した災害に強い森林づくりなどの施策を実施していきます。なお、国から提供される「森林環境増進税」とは、使途をすみ分けた上で双方を有効に活用しています。

令和7年度「記念樹配布事業」に係る市民アンケート結果

実施年月日:令和7年4月11、12、13、14日

実施場所 :鈴鹿フラワーパーク「植木まつり」会場

記念樹配布数 200本

アンケート依頼数 200本

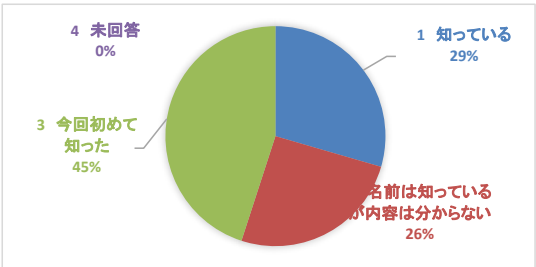
アンケート回収数 200本 (回収率100%)



1 あなたは「みえ森と緑の県民税」を知っていますか。

回答	人数(人)	割合(%)
1 知っている	59	29.5
2 名前は知っているが内容は分からない	51	25.5
3 今回初めて知った	90	45.0
4 未回答	0	0.0

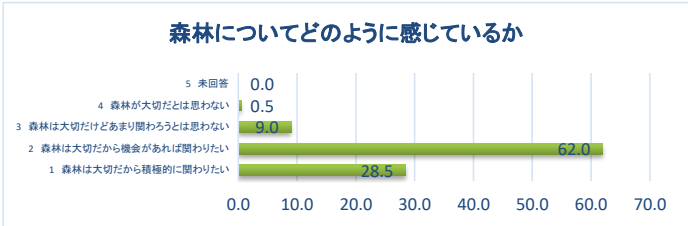
n= 200



2 あなたは森林についてどのように感じていますか。

回答	人数(人)	割合(%)
1 森林は大切だから積極的に関わりたい	57	28.5
2 森林は大切だから機会があれば関わりたい	124	62.0
3 森林は大切だけどあまり関わろうとは思わない	18	9.0
4 森林が大切だとは思わない	1	0.5
5 未回答	0	0.0

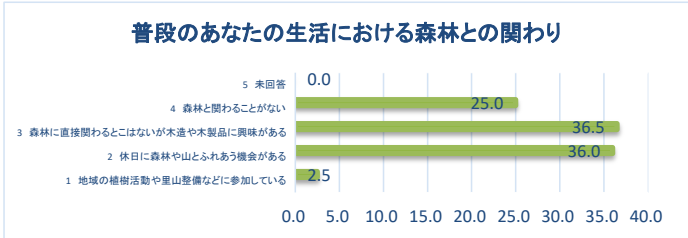
n= 200



3 普段のあなたの生活における森林との関わりを教えてください。

回答	人数(人)	割合(%)
1 地域の植樹活動や里山整備などに参加している	5	2.5
2 休日に森林や山とふれあう機会がある	72	36.0
3 森林に直接関わるとこはないが木造や木製品に興味がある	73	36.5
4 森林と関わることがない	50	25.0
5 未回答	0	0.0

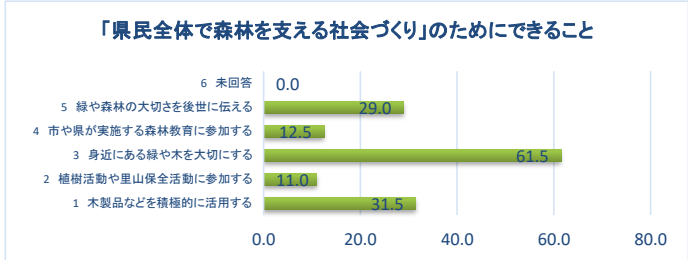
n= 200



4 「県民全体で森林を支える社会づくり」のためにあなたができることは何ですか。(複数選択可)

回答	人数(人)	割合(%)
1 木製品などを積極的に活用する	63	31.5
2 植樹活動や里山保全活動に参加する	22	11.0
3 身近にある緑や木を大切にす	123	61.5
4 市や県が実施する森林教育に参加する	25	12.5
5 緑や森林の大切さを後世に伝える	58	29.0
6 未回答	0	0.0

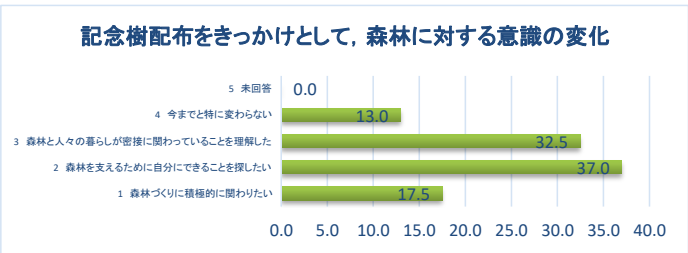
n= 200



5 今回の記念樹配布をきっかけとして、あなたの森林に対する意識に変化はありますか。

回答	人数(人)	割合(%)
1 森林づくりに積極的に関わりたい	35	17.5
2 森林を支えるために自分にできることを探したい	74	37.0
3 森林と人々の暮らしが密接に関わっていることを理解した	65	32.5
4 今までと特に変わらない	26	13.0
5 未回答	0	0.0

n= 200



6 あなたが記念樹を選ぶ際に最も重要視する要素は何ですか。

※複数選択あり

回答	人数(人)	割合(%)
1 病害虫に強い	67	33.5
2 家の外観に合う、見た目	84	42.0
3 育てやすさ	128	64.0
4 樹種に込められた意味	50	25.0
5 花、実がなる	70	35.0
6 未回答	1	0.5

n= 200



令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
6	公立保育所家具等設置事業				
事業費	4,717,070 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,717,070		

1. 事業の目的

保育室のロッカー棚等に木材を使用することで、温かみがあり、親しみやすい保育室にするとともに、県産材を使用した木製製品や「森の教室」等を通して、児童に森林について学びふれあう場を提供する。

2. 事業の実績

【事業内容】

- (1)三重県産木材を使用したロッカー棚や舞台を購入し、各保育所へ設置する。
 (2)森林教室を開く。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

鈴鹿市

【実施箇所及び箇所数】

市内公立保育所 2 箇所

【事業量】

木製舞台 1 台、木製家具 5 台、森林教室各 1 回

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
物品購入	木工製造業者	補助事業ではない		
工事請負	建設業者	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

令和7年度鈴鹿市物件関係入札資格を有し、特注家具の登録がある市内業者を見積合わせにより決定した。

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
6	公立保育所家具等設置事業				
事 業 費	4,717,070 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,717,070		
4. 事業の効果・工夫					
【事業実施により期待される効果】					
無機質、画一的な製品でなく、木材の持つ温かさや人工物にはない木製品の良さを幼児期から体感し、心豊かな環境で保育・教育を行うことに繋がる。					
【効果を発揮させるための工夫・取組】					
保育所で学ぶ園児に、「森の教室」を行い、森の大切さについて理解を深める機会を確保する。					
【新たな対策・視点及び改善点】					
木製品の香りや温もりについて感想を述べたり、森林の木が、どのような工程でロッカー棚に加工されるのかを考えることで、幼児期からの木育が可能になる。					
【受益者及び、期待する波及効果】					
受益者		保育所の園児（111人）、保育所の関係者（48人）			
期待する波及効果		保護者や出入りする業者への波及効果も期待できる			
【公的関与の必要性】					
幼児教育・保育に対する多様なニーズへ対応し、更なる充実を図るため、市による就学前施設の計画的な整備と維持管理が必要と考える。					
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】					
ロッカー棚は毎日使用するため、清掃等、定期的にメンテナンスを行い、市による適切な維持管理に努める。					
5. 情報発信					
【内容】					
ロゴマーク掲示 (シル・プレート等)	実施後	設置された木製品にみえ森と緑の県民税を活用した事業である標識プレートを設置			
学校だより等掲載	実施後	設置された木製品がみえ森と緑の県民税を活用していることを周知し、森林や木材について学ぶきっかけとする			
広報誌掲載	実施後	みえ森と緑の県民税を活用した事業について広報誌に掲載することで、本市における活用状況を市民に周知した。			
6. 写真及びその他資料					
別紙のとおり					
7. その他特記事項（受益者の反応等）					
保護者からは「木材の持つ温もりを感じる」といった感想や、園児からも「木の香りや肌触りが気持ちいい」といった感想があり、大変好評である。					

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	公立保育所家具等設置事業
-----	--------------

7の(1). 写真



写真1

合川保育所（舞台）



写真2

深伊沢保育所（ロッカー棚）



写真3

深伊沢保育所（ロッカー棚）



写真4

深伊沢保育所（ロッカー棚）



写真5

深伊沢保育所（ロッカー棚）



写真6

深伊沢保育所（ロッカー棚）

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
7	ふるさとの木（名木古木）保存活用補助事業				
事 業 費	2,600,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,600,000		

1. 事業の目的

衰退の兆候が見られる市内にある天然記念物や地域緑化のシンボルとなっている樹木について、所有者（地元住民）自身が主体的に樹木健康診断や樹勢回復等を行うことで、地域の森林及び樹木とふれあう場を創出することを目的とする。

2. 事業の実績

【事業内容】

ふるさとの木（市内の天然記念物や地域緑化のシンボルとなっている樹木及び樹木群）の所有者等が樹木診断及び樹木治療等を実施するための経費に対し補助することで、ふるさとの木の所有者等の主体的に保存する行動につなげる。また、地域のシンボルとして地域の様々な世代が地域の森林や樹木とふれあう場を提供し、地域全体で緑を守り育てる意識を醸成し、地域の宝として、大切にする活動へとつなげていく。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

ふるさとの木（文化財指定樹木等）の所有者・管理者

【実施個所及び箇所数】

5か所（アイナシ、川俣神社のスダジイ、地蔵大松、不断ザクラ、稻生山の躑躅）

【事業量】

アイナシ：消毒散布実施（2回/年） 川俣神社のスダジイ：薬剤散布・枯枝切除実施（1回）
 地蔵大松：施肥作業実施（1回） 不断ザクラ：枯枝除去、腐朽部掃除と殺菌、施肥作業（1回）
 稻生山の躑躅：支障木の伐採（約400㎡の範囲）

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	活動団体	3/4以内	2,000,000	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

アイナシ： 樹勢の衰えが見られるため、枯死した枝の切除や、継続した消毒作業が必要と判断し、選定。
 スダジイ： 20年程前から、虫害があり、地元で駆除作業を行ってきたが、近年被害が増加しており、集中的な駆除が必要な状況と判断し、選定。
 地蔵大松： 樹体の肥大化により、亀裂発生や傾斜が出てきている。支柱の設置や管理が必須である状況であるため、選定。
 不断ザクラ： 国指定天然記念物。主幹の寿命が近づいてきており、時間をかけて新枝への更新を実施中の樹木である。枯死や腐朽が見られるため、枝除去と治療が必要と判断し、選定。
 稻生山の躑躅： 県指定名勝として文化財指定されているとともに、地元協議会の事業とも関わりのある案件である。敷地範囲も広く、樹勢管理のために支障木の伐採など生育環境の改善整備が必要と判断し、選定。

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり		市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
7	ふるさとの木（名木古木）保存活用補助事業				
事 業 費	2,600,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,600,000		

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

事業実施当日は、所有者や地元の方が見守る中実施された。本樹木の地域における重要性を再確認するとともに、所有者及び地元の方に対し、樹木医から本樹木の状況や森林の持つ多面的機能についても説明し、学ぶ機会を提供することができた。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

本事業を実施するにあたり、地域の小学校、地元保存会・自治会と樹木医による樹木環境教育を行い、本樹木に対する関心を高めることができた。

【新たな対策・視点及び改善点】

各樹木とも継続した樹木管理（必要な剪定、消毒、治療）が必要である。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	鈴鹿市民
期待する波及効果	鈴鹿市の誇る樹木を、市民から県民へと口伝などで波及することが期待できる。

【公的関与の必要性】

全て文化財に指定されている樹木であり、所有者のみの負担は非常に困難な面もあるため、公的関与は必要。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

日常管理については、所有者が管理していく。なお、文化財指定されていることから、転用されない。

5. 情報発信

【内容】

のぼり設置	実施中	敷地内にのぼりを設置し、県民税事業であることを記載し、周知した。
その他	実施前・中	所有者である自治会や地元に対して本事業が県民税を活用し実施していることを説明した。

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

補助金を利用した事業実施により各樹木の樹勢回復等が図られ、地域の集いの場を守ることに寄与している。

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	ふるさとの木（名木古木）保存活用事業補助事業
-----	------------------------

7の（1）. 写真



写真1
消毒作業1（アイナシ）



写真2
消毒作業2（アイナシ）



写真3
消毒作業3（アイナシ）



写真4
のぼり掲出（アイナシ）



写真5



写真6

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	ふるさとの木（名木古木）保存活用事業補助事業
-----	------------------------

7の（1）. 写真



写真1
枯死枝除去作業（川俣神社のスダジイ）



写真2
薬剤散布作業（川俣神社のスダジイ）



写真3
のぼりの掲出（川俣神社のスダジイ）

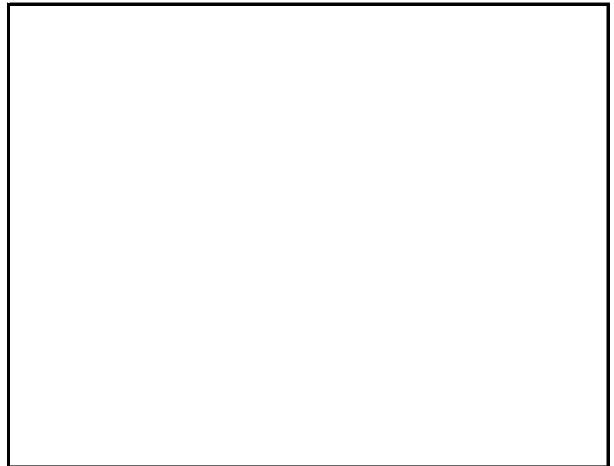


写真4



写真5



写真6

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	ふるさとの木（名木古木）保存活用事業補助事業
-----	------------------------

7の（1）. 写真



写真1
施肥作業（地蔵大マツ）



写真2
施肥の様子（地蔵大マツ）



写真3
のぼり掲出（地蔵大マツ）



写真4



写真5



写真6

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	ふるさとの木（名木古木）保存活用事業補助事業
-----	------------------------

7の（1）. 写真



写真1

枝剪定作業（不断ザクラ）



写真2

腐朽部への薬剤散布（不断ザクラ）



写真3

施肥作業の様子（不断ザクラ）



写真4

埋められた肥料（不断ザクラ）



写真5

のぼり掲出の様子（不断ザクラ）



写真6

桜供養の様子（不断ザクラ）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	ふるさとの木（名木古木）保存活用事業補助事業
-----	------------------------

7の（1）. 写真



写真1
作業風景（稻生山の躑躅）



写真2
伐採木の搬出（稻生山の躑躅）



写真3
のぼり掲出（稻生山の躑躅）



写真4
地元小学生による植樹（稻生山の躑躅）

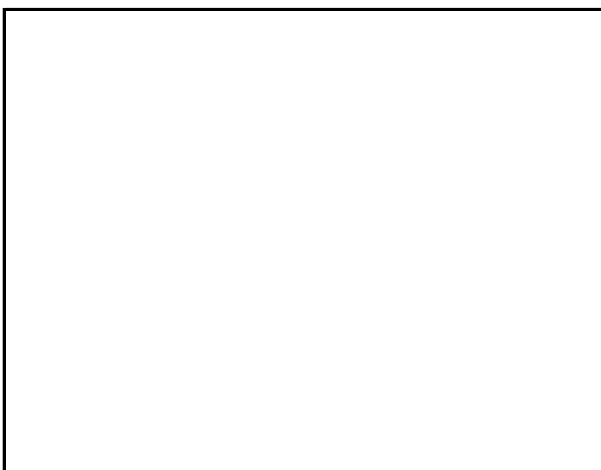


写真5



写真6

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
8	緑と人をはぐくむ長太の大楠再生プロジェクト				
事 業 費	1,400,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,400,000		

1. 事業の目的

地域緑化のシンボルとなっている長太の大楠（なごのおおくす）は、近年、周辺環境の変化や塩害、落雷等の影響により衰退の兆候が見られてきた。地域住民から愛され、市のランドマークでもある長太の大楠の樹木健康診断や樹勢回復等を行うことで、身近な樹木に対する関心をさらに高め、将来にわたって地域で森林環境教育を行う学びの場となることを目的とする。

2. 事業の実績

【事業内容】

長太の大楠に樹木診断及び樹木治療等を実施することで、地域の様々な世代が地域の樹木に関心を持ち、地域全体で緑を守り育てる意識を醸成し、保全する活動へとつなげていく。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

鈴鹿市

【実施箇所及び箇所数】

1 箇所

【事業量】

土壌改良：48㎡（東側36㎡、西側12㎡ 深さ50cm）、枯枝切除：必要数量を切除（7の(1)写真参照）

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	活動団体	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

高い専門性をもった樹木医による適切な樹勢回復措置が必要であるため、委託事業は適切である。

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり		市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
8	緑と人をはぐくむ長太の大楠再生プロジェクト				
事 業 費	1,400,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,400,000		

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

本樹木を中心とした本事業を実施するにあたり、市政記者クラブへ情報提供したことで、新聞による取材もあり、本樹木の地域における重要性を再確認できた。また、地域の方に対し、樹木医から本樹木の状況について説明し、学ぶ機会を提供することができた。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

本事業を実施する前に、地域の小学校で、地元保存会と樹木医による樹木環境教育を行い、本樹木に対する関心を高めることができた。

【新たな対策・視点及び改善点】

継続した樹勢回復事業の実施により、わずかながら回復傾向ではある。今後も枯枝の剪定や土壌改良、病虫害の対策のための消毒が必要となる。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	樹木の保存にかかる取組に関わった地域の児童・生徒並びに地域住民
期待する波及効果	当該樹木を地域の宝として守ろうとする意識を高めることができる

【公的関与の必要性】

市が管理団体に指定されているため適切

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

日常管理については、保存会が管理していく。なお、県指定天然記念物であることから、転用されない。

5. 情報発信

【内容】

のぼり設置	実施中	敷地内にのぼりを設置し、県民税事業であることを記載し、周知した。
-------	-----	----------------------------------

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

当初予定の土壌改良を完了でき今後の樹勢回復に期待できる。

また、枯枝の切除により枝落下の危険性が減ったため、日常管理にも役立ち、地域住民も集いやすくなった。

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	緑と人を育む長太の大楠再生プロジェクト
-----	---------------------

7の(1). 写真



写真1

土壌改良の様子（長太の大楠）



写真2

施肥の様子（長太の大楠）



写真3

のぼり掲出（長太の大楠）



写真4

枯枝切除の様子（長太の大楠）



写真5

枯枝切除の様子2（長太の大楠）



写真6

写真6

龜 山 市

令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報（令和6年度版三重県市町要覧による）

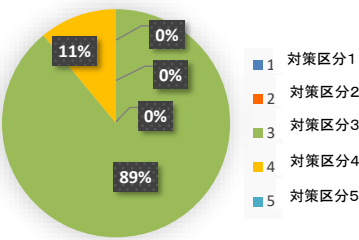
市町名	亀山市	三重県
人口（人）	49,835	1,742,703
年少人口割合（％）＊1	12.1%	11.6%
森林面積(ha)	12,013.00	372,030.08
民有林面積(ha)＊2	11,659.00	348,561.87
森林率(%)	63.0%	64%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	13.4	10.6

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合 ★①-5、②-5



2. 令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）					
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5
1	3	森と木材のふれあい事業（森林づくり協議会）	1,000,000	1,000,000			1,000,000		
2	3	森と木材のふれあい事業（森の講座）	498,300	498,300			498,300		
3	3	森と木材のふれあい事業（竹あかり製作）	3,000,000	3,000,000			3,000,000		
4	3	森と木材のふれあい事業（小中学校）	6,549,400	4,201,700			4,201,700		
5	3	自然保育・森林環境教育推進事業（幼稚園・保育園）	240,000	200,000			200,000		
6	5	野登山森林保全事業	1,100,000	1,100,000				1,100,000	
計			12,387,700	10,000,000	0	0	8,900,000	1,100,000	0

3. 令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量	事業費 (円)	内交付金充 当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
災害からライフラインを守る事前伐採事業	0.14ha	3,740,000	1,870,000	亀山市関町小野字上門田67-3
県民参加の植樹祭事業				

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針
本市は、北勢地域随一の林業地帯として古くからスギ・ヒノキを主とした人工林の整備が進められ、良質な木材の生産・供給が行われてきました。しかし、林業を取り巻く情勢は厳しく、採算性の悪化、高齢化等による担い手不足のため、放置される森林が増加したことで森林の機能低下が進んでいます。このため、既存の財源を活用し、林業生産活動の支援や地域材を活用した商品を「亀山ブランド」として認定することで森林整備や地域材の利用促進に取り組んでいます。今後も、森林の有する様々な働きを発揮させるための森林整備や地域材の利用を促進するためには、市民の森林に対する理解と関心を深めることが大切です。このことから、県民税を活用し、森林や木材について学び、ふれあい、親しむ環境をつくることや、暮らしに身近な森林整備を進め、地域の生活環境の向上を図ります。
事業実施により期待される効果
・協議会が工夫を凝らしイベントや講座を開催することで多様な参加者が森林とふれあう場を提供できる。 ・森の講座において森林や木材について学び、ふれあい、親しむ環境をつくることで市民の森林に対する理解と関心を深める。 ・森林公園やまびこの施設整備等を行うことで、子どもから大人まで安全・安心して施設を利用することができることと、森林や木にふれあう場や緑に親しむ環境を提供できる。 ・亀山市産の竹あかりを通じて、地域住民が竹の魅力に触れることをきっかけに、荒廃しつつある竹林の現状に対する問題意識を高める。 ・各小中学校を訪問し、小学6年生と中学1年生の生徒全員に対し広範囲に実施することにより、詳細で丁寧な木工教室や工作を実施し木材に親しむ機会が設けられた。
情報発信への取組
・事業実施時に看板やのぼり旗の掲示、パネル展示(図書館展示室、市庁舎通路前)、県民税のアンケート実施、HPや市広報誌への掲載。 ・事業実施時にパンフレットや啓発物品を配付し、県民税の説明を行った。 ・イベント時に県民税ロゴマークを表示したスタッフベストを着用し活動した。 ・導入木製品に県民税ロゴマークの焼印やシールを添付し、事業終了後も市民の目に触れ県民税を周知できるようにした。

令和7 年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		（千円）	内、譲与税（千円）
1	① 意向調査の準備作業	9,341	9,341
2	② 意向調査	5,720	5,720
3	③ 私有林整備	16,432	16,432
4	③ 私有林整備	9,504	9,504
5	③ 私有林整備	35	35
6	⑩ 専門員の雇用	4,149	4,149
7	⑦ その他（森林整備）	501	501
8			
9			
10			
	合計	45,682	45,682

令和7 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
1	森と木材のふれあい事業（森林づくり協議会）				
事 業 費	1,000,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,000,000	0	0

1. 事業の目的

地域の森林への理解を促す場や森林づくり体験を通じ、地域の宝である森林や森林に関わる「地域資源」を見直し、みんなで守り、次世代に引き継ぐこと。

2. 事業の実績

【事業内容】

地域の宝である森林や森林に関わる「地域資源」を見直しみんなで守り次世代につなげるため、加太地区、坂下地区、野登地区において協議会の主導により、多様な主体が携わって地域の森林への理解を促す場や森林づくり体験ができるイベントや講座を実施する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

鈴鹿川等源流の森林づくり協議会

【実施個所及び箇所数】

亀山市内3地区（加太地区、坂下地区、野登地区）

【事業量】

【3地区イベント・講座】

① [坂下地区イベント] 第9回サマーフォレストー山の日に坂下の森と鈴鹿川を体験ー

開催日：令和7年8月10日(日)9:00～12:00 開催場所：鈴鹿馬子倶会館 参加者数：12組33名 地域の方々・協議会会員・委託先ボランティア、スタッフを含む活動者：21名

② [野登地区野登講座1・2]

講座1：令和7年9月27日(土)9:00～15:00 開催場所：野登山 地域の方々・協議会会員ボランティア、スタッフを含む活動者：19名

講座2：令和7年10月4日(土)9:00～15:00 開催場所：野登地区内坂本生活改善センター 地域の方々・協議会会員ボランティア、スタッフを含む活動者：16名

③ [野登地区イベント] 野登山山頂イベントーでっかい森に会いに行こう！ー

開催日：令和7年10月11日(土)9:30～14:30 開催場所：野登山山頂周辺 参加者数：10組24名 地域の方々・協議会会員ボランティア、スタッフを含む活動者：25名

④ [加太地区講座] かぶと自然の学校キックオフミーティング

開催日：令和7年9月20日(土)9:00～12:00 開催場所：林業総合センターほか 地域の方々・協議会会員ボ

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
負担金	活動団体	10/10以内		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

鈴鹿川等源流の森林づくり構想を実現するための事業を実施する鈴鹿川等源流の森林づくり協議会を選定。

令和7 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
1	森と木材のふれあい事業（森林づくり協議会）				
事 業 費	1,000,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,000,000	0	0

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

産・学・民・官にて構成する協議会が森林づくりや地域資源保全活動を行い、その普段の活動を、応募を経て参加された方々に伝えることで、森林の大切さなどが多くの方に伝えられる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

源流3地区において、自治会やまちづくり協議会との対話や取り組みが進み、イベント実施のために多くの地域の方に尽力いただくことができた。また、イベントを実施することが目的ではなく、長期的な目標のステップとして活用することができた。

【新たな対策・視点及び改善点】

野登、加太地区はテーマに沿い地域との連携で活動が具体化しているが、坂下地区でのイベントにおいては、森林についての啓発にはなっているが、と地区のテーマととして構想している課題に対しイベントが次のステップを生むような形にできていない。活動の具体化に向け講座を設けるなどして発展性あるイベントができるように検討していきたい。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	イベント参加者総計 90人
期待する波及効果	森林保全、森林環境教育など普段の取組をより多くの方に伝えられる

【公的関与の必要性】

市内在住在勤の方を対象に、市内で実施する取組を広く県民に共有するため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

転用が想定されない。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
ロゴマーク掲示 (シール・プレート)	実施中	県民税ロゴマークを表示したスタッフベストを着用し活動
啓発物品配布	実施中	毎回県民税のパンフレット、クリアファイル等を配布
のぼり設置	実施中	イベント開催時にのぼりを設置
ロゴマーク掲示 (シール・プレート)	実施中	イベント・講座の案内チラシに県民税ロゴを記載

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

令和7 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
1	森と木材のふれあい事業（森林づくり協議会）				
事 業 費	1,000,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,000,000	0	0

7. その他特記事項（受益者の反応等）					
〔坂下イベント〕雨天により室内でのイベントとなったが、「亀山林業研究会」が当日朝伐り出したヒノキを切る体験、木材乾燥の過程を省き気軽に活用できる方法として、皮を剥いて思い思いのハンガーやイス、インテリアに利用する枝や丸太をつくった。「魚と子どものネットワーク」により、森を川や海とのつながりという流域で捉える考え方のレクチャーができた。 〔野登講座1・2〕イベントの際に、山頂までの道路を運転して通るのは初めての参加者の安全・安心のため、地元の々が整備マニュアルを作って整備した。また、今後を視野にイベント当日も、地元の方々により山頂まで参加者の自動車を誘導し、散策路を歩く際にも誘導できるよう指導を受けてもらった。地元の方が、野登山の価値を再発見してもらう機会ともなった。 〔野登イベント〕地域の方々の尽力で山頂まで参加者も各自の自動車で移動することができた。雨天だったがカッパを着て散策し種子を拾ったり、野登山特有である大杉の実生苗をポットに入れたりして、参加者は生き生きと保全の一部を体験できた。 〔加太講座〕加太地区の森林を始めとする自然と、加太保育園の自然保育や加太小の森林環境教育が盛んであることを地域の魅力として盛り上げていくために、長期的な取組にしていけることを目指し、地域の方々に声掛けをしイベントへの協力を仰いだ。結果、イベントを実施することができた。					

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森と木材のふれあい事業（森林づくり協議会）
-----	-----------------------

6（1）-1 写真



写真1

〔坂下地区イベント〕 第9回サマーフォレスト



写真2

雨のため室内で丸太切り体験



写真3

樹木の皮むき体験

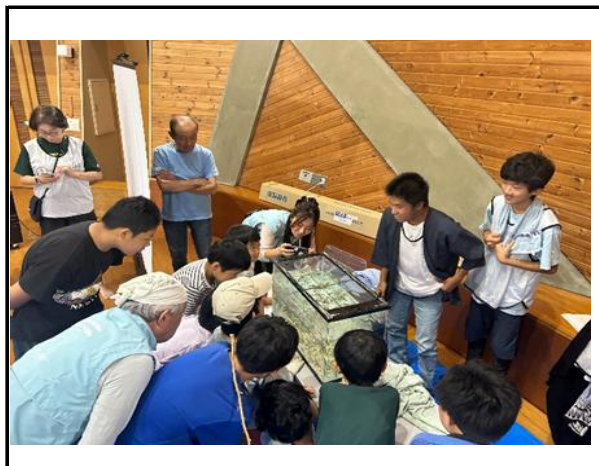


写真4

クイズ形式で鈴鹿川にいる魚の観察



写真5

「魚と子どものネットワーク」による講義



写真6

「魚と子どものネットワーク」による講義

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森と木材のふれあい事業（森林づくり協議会）
-----	-----------------------

6（1）-2 写真



写真1

〔野登地区講座1・2〕野登山頂の散策ルートの検討のため専門家に随行



写真2

散策時のトイレの検討



写真3

散策時の観察ポイント、ルートの策定



写真4

地域の方による山頂への自動車道の下見



写真5

地域以外の方でも安全安心に山頂へ行けるよう、穴埋め、グレーチングの配置修正等の補修



写真6

枝やツルの除去

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森と木材のふれあい事業（森林づくり協議会）
-----	-----------------------

6（1）-3 写真



写真1

野登地区イベントに出発前の安全衛生レク



写真2

講師の指導を受け、地域の方々と協働で参加者を迎える様子



写真3

拾った種子



写真4

種子を防鹿柵内に撒いて保護している様子



写真5

種子や実生苗をポットに入れて持ち帰り、次年度以降のイベントで防鹿柵内に植樹したい



写真6

野登杉

【様式集②】実施要領第10号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森と木材のふれあい事業（森林づくり協議会）
-----	-----------------------

6（1）-4. 写真



写真1

〔加太地区講座〕スタッフミーティング



写真2

地元の加太保育園、小学校で育った地元企業の方よりプロジェクトの趣旨を説明、意見交換を行う



写真3

加太保育園における自然保育の現場を視察



写真4

加太小学校の学校林「みんなの森」を視察

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	継続
事業名	森と木材のふれあい事業（森林づくり協議会）				

6（1）-5 写真



写真1

〔加太地区イベント〕



写真2

加太保育園の先生による、加太保育園でされている自然保育の体験



写真3

川体験と火起こし体験を経て味噌汁で温まり、かぶとの郷土料理どうかん餅を提供



写真4

味噌汁用の匙は事前に地域の方が作成



写真5

自然豊かな加太地区での加太小学校



写真6

加太小「みんなの森」で森林環境教育を体験

対策区分 3. 森を育む人づくり

龜山市

繼續

事業名 森と木材のふれあい事業（森林づくり協議会）

6 (3) . その他

①坂下地区イベントにおいて、募集の発信と、報告動画の発信を行いました。



③野登地区イベントにおいて、講座でスキルをつけた地域の方が、山頂まで参加者を班ごとに誘導し、散策ルートを通る際の安全管理を行いました。
また、募集の発信と、報告動画の発信を行いました。

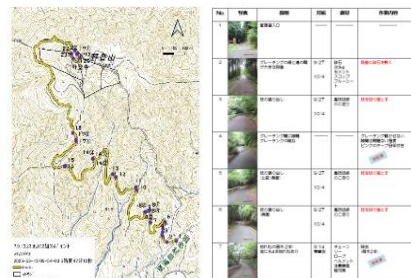
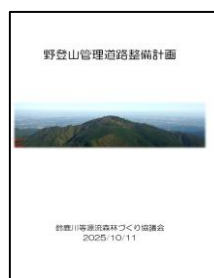


⑤加太地区イベントにおいて、加太保育園・加太小学校の協力でイベント当日資料を作成しました。また、募集の発信と、報告動画の発信を行いました。



②野登地区講座1, 2において、講師に指導いただき山頂を散策し、ガイドできるルートを作成できました。

また、整備マニュアルを作成し道の整備を行いました。その後、野登山頂にアンテナを持つ企業が、その地域の努力を知り、穴の多かった道路の一部にアスファルトを敷設されました。



④加太地区講座において、募集の発信と、報告動画の発信を行いました。



令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
2	森と木材のふれあい事業（森の講座）				
事 業 費	498,300 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			498,300	0	0

1. 事業の目的

森林とふれあいながら森林や緑を大切に思い育む人づくりのため、様々な市民に対し、森林や木材について学びふれあう機会を提供し、森林や木材と市民との関係を深める。

2. 事業の実績

【事業内容】

木にふれあえる森の講座を開催し、森林や木材と市民との関係を深める。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

亀山市

【実施個所及び箇所数】

森の講座の開催 2回（亀山森林公園やまびこ、鈴鹿馬子唄会館）

【事業量】

森の講座の開催 2回

参加者数 延べ29人

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	その他	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

森の講座を開催できる専門知識を備えた2団体から見積合わせにて決定した。

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	亀山市	新規・継続の別	継続
------	-------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
2	森と木材のふれあい事業（森の講座）				
事 業 費	498,300 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			498,300	0	0

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

森林や木材とふれあえる講座の開催により、参加者が森林や緑の大切さに気づく機会を創出した。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

イベント中に森林や木材とふれあう実技だけでなく、クイズ等を通じて子どもたちに森林について興味を持ち考えてもらう取り組みも行った。

【新たな対策・視点及び改善点】

例年同じ内容にならないよう検討し、イベントを開催した。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	市民参加者 29名（子供、保護者）
期待する波及効果	参加者が森や木材について学ぶことで、森林や緑の大切さに気づく機会を創出する。

【公的関与の必要性】

県民税への理解を深め森を育む人づくりを広く市民に啓発するには、公的取り組みが必要である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
啓発物品配布	実施中	イベント開催時に配布し、周知に努めた。
のぼり設置	実施中	イベント開催時にのぼりを設置し、周知に努めた。
広報誌掲載	実施前	市広報誌に記事を掲載した。
チラシ等配布	実施前	募集のチラシに県民税を活用していることを記載し周知に努めた。

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

木工工作ではそれぞれ自由に作品を作り、素敵な作品がたくさんできて満足している様子が伺えた。大きなノコギリの体験では、2人1組で協力しながら木を切る大変さを実感していた。森林クイズでは、森林の中を歩きながら葉に触ったり匂いを嗅いだり自然を感じる機会となった。

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森と木材のふれあい事業（森の講座）
-----	-------------------

6(1). 写真



写真1

8/24 ノコギリ体験

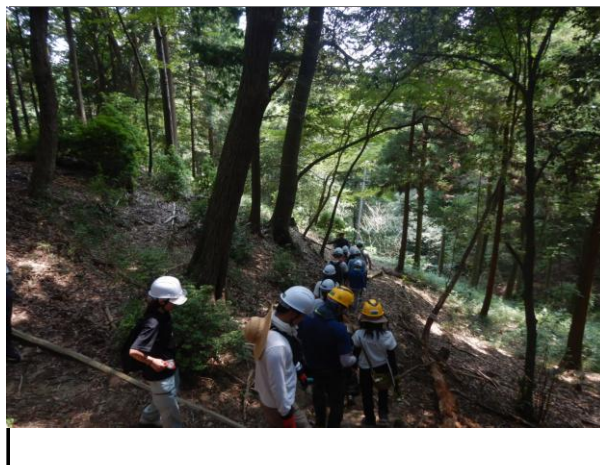


写真2

8/24森の中での森林クイズ



写真3

8/24木工工作



写真4

8/24参加者との集合写真



写真5

11/9 ノコギリ体験



写真6

11/9 木工工作やバードコール体験

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森と木材のふれあい事業（森の講座）
-----	-------------------

6(3).その他

・市広報掲載記事

いて詳しくホームページで案内に従って

年金事務2)へお問い合わせください。

金利より

労働者の生産・育児、

もよおし

森の講座 木こり体験

とき 11月9日(日)
午前9時30分～正午
※雨天の場合は11月16日(日)

ところ 鈴鹿峠自然の家周辺の森

内容 伐採見学、ハシゴ登り、丸太切りなど

対象 市内在住の小・中学生とその保護者

定員 10組(先着順)

持ち物 飲み物、帽子、タオル、軍手、雨具など

服装 動きやすい服装、運動靴

申込・問合せ先 11月6日(木)までに農林振興課農林政策グループ(☎84-5068)へ電話でお申し込みください。
※この事業は、「みえ森と緑の県民税」を活用しています。

四日市市

とき 11月9日(日)

ところ ホーリントン津会場

とき 11月9日(日)

ところ 市新田

共通事項

対象 県内就業者

費用 無料

申込・問合せ先 四日市市社会福祉協議会 生涯学習課

広報亀山 18 令和7年11月号

・案内チラシ

亀山市 森の講座

木こり体験をしてみよう！

丸太切りやハシゴ登りを行います。また、実際に森を歩き、伐採の様子を見学します。森林や林業について学び、体験してみませんか？

とき 11月9日(日)
午前9時30分～正午
雨天の場合 11月16日(日)
11月16日(日)が雨天の場合は中止

ところ 鈴鹿峠自然の家 周辺の森

集合場所／駐車場 鈴鹿峠自然の家運動場(関町番掛123)

対象者 市内在住の小・中学生とその保護者

定員 10組(先着順)

参加費 無料

持ち物 飲み物、帽子、タオル、軍手、雨具など

服装 動きやすい服装、運動靴

申込期限 11月6日(木)

申込方法 亀山市農林振興課農林政策グループへ電話でお申し込みください。

見る！
挽く！
歩く！
登る！

このイベントは
みえ森と緑の県民税
を利用して開催しています

お問い合わせ
お申し込み

亀山市産業環境部農林振興課農林政策グループ
亀山市本丸町577番地 電話:0595-84-5068

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり			市町名	亀山市	新規・継続の別	継続
番号	事業名						
3	森と木材のふれあい事業（竹あかり製作）						
事業費	3,000,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他		
			3,000,000	0	0		

1. 事業の目的

亀山市産の竹を活用した竹あかりを通して、荒廃しつつある竹林の活用や竹林の課題解決を目指す。

2. 事業の実績

【事業内容】

①2026年亀山市納涼大会における竹あかり演出 ②亀山市内施設における竹あかり展示 ③亀山市内中学生（約450名）への竹あかりワークショップ

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

亀山市

【実施個所及び箇所数】

竹あかり展示：2箇所（亀山公園1箇所、市内施設1箇所 令和6年度に作成いただいた物も併せて活用）、
ワークショップ：市内中学生450名分の竹燈籠

【事業量】

亀山市納涼大会本番用竹あかり作成展示（来場者数見込1万6千人）、ワークショップ 市内中学生450名分、道具貸出70件

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	その他	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

株式会社 c a n a a r e a は、長年に渡り三重県総合文化センターでの「そうぶんの竹あかり」の演出を担っているほか、2023、2024亀山市納涼大会においても竹あかりの演出を行った実績があるため。

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	亀山市	新規・継続の別	継続
------	-------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
3	森と木材のふれあい事業（竹あかり製作）				
事 業 費	3,000,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			3,000,000	0	0

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

亀山市最大級のイベントにおいて、子ども、親子、地域住民が竹の魅力に触れることをきっかけに、竹林が荒廃しつつある現状に対する問題意識を高める。三重県産の竹を活用した竹あかりを通して、緑豊かな社会を創造することを目指す。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

竹や竹林の魅力に触れ、関心を持つきっかけを行政がつくることで、住民も含めて竹林を地域資源として捉え、市民全体で解決を図る機運醸成につなげる。市内最大級のイベントでみえ森と緑の県民税を活用した事業であることをPRする。

【新たな対策・視点及び改善点】

パンフレットや、亀山市納涼大会会場において、みえ森と緑の県民税を活用した事業であることをPRする。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	市内3中学校の2年生、亀山市内外の人
期待する波及効果	市内3中学校2年生の保護者やSNS等での波及が見込まれる

【公的関与の必要性】

市内3中学校において広くワークショップを行うため、市の関与が必要である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施前・中・後	イベント開催前や開催中、開催後にHPに記事
広報誌掲載	実施前	イベント開催前に、市広報誌へ掲載
広報誌掲載	実施中	イベントパンフレットに「みえ森と緑の県民税」を活用した旨を掲示する。
のぼり設置	実施前・中・後	市内に常設展示してある竹あかりと併せて「みえ森と緑の県民税」のぼりを設置

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

市内3中学でのワークショップに参加した生徒や先生からは、貴重な有意義な経験ができたとの声を多数いただいた。また、竹あかりの展示について、素晴らしいので映像などで広く発信して欲しいとの声を受け、市の観光サイトにて発信をした。

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森と木材のふれあい事業（竹あかり製作）
-----	---------------------

6(1). 写真



写真1

中学校WS風景（5月16日、中部中学校）



写真2

中学校WS風景（5月23日、亀山中学校）



写真3

中学校WS風景（6月6日、関中学校）



写真4

会場での作品展示（亀山公園）



写真5

会場での作品展示（亀山公園）



写真6

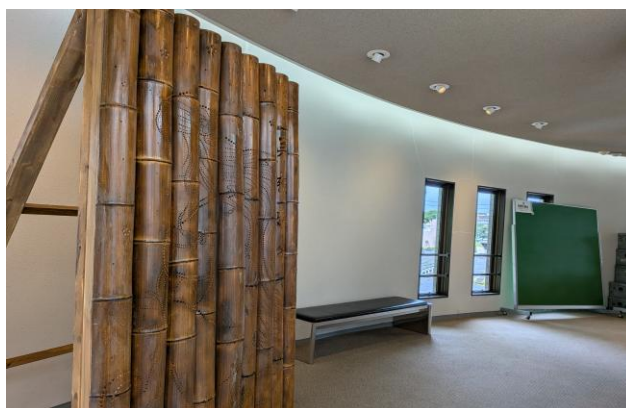
会場での作品展示（亀山公園）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森と木材のふれあい事業（竹あかり製作）
-----	---------------------

6(3).その他

- ・その後の活用 市文化会館にて常設展示



令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
4	森と木材のふれあい事業（小中学校）				
事 業 費	6,549,400 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,201,700	0	2,347,700

1. 事業の目的

森林を大切に思い・育む人づくりのため小中学生を対象に、森林の働きや木材について学びふれあう機会となる森林環境教育を実施する。

2. 事業の実績

【事業内容】

市内小中学生を対象に、地元の森林組合を講師として森林・林業について学ぶ講座を実施するとともに、中学校では亀山木材産業協同組合を講師として市産材を活用した木工キットの作成を行うことで木材に触れ合う機会を創出する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

亀山市

【実施個所及び箇所数】

13校（市内小学校10校・中学校3校）

【事業量】

森林・林業について学ぶ講座13回（市内小学校10校・中学校3校）※小学校は木工工作を含む。
市産材を活用した木工教室 3回（市内中学校3校）

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	林業事業体	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

森林教育については、亀山市の現状等の地域性を含んだ森林教育を実施するため、日頃から市内の森林で業務を行い、市内の森林の現状を把握し、森林教育の実績がある鈴鹿森林組合を選定した。また、全中学校での亀山市産材を活用した木工教室については、多くの亀山市産材の材料や指導者が必要となるため、林業・製材会社で構成される亀山木材産業協同組合を選定した。

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	亀山市	新規・継続の別	新規
------	-------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
4	森と木材のふれあい事業（小中学校）				
事 業 費	6,549,400 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,201,700	0	2,347,700

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

森林環境教育を通じて若い世代が森林に対して興味を持ち、森林の持つ機能を理解いただくとともに、良質な市産材で作られた木製品などに触れ、木の持つ独特の温かさや香りを感じていただくことで市産材木材の良さをPRすることができる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

森林をより身近なものと捉えることができるように、森林教育に各学校の近隣の地域資源等や身近な木材利用の紹介などを含めた。

【新たな対策・視点及び改善点】

中学校における市産材を活用した木工キットについては、作成後各家庭に持ち帰りいただき長期間にわたって木材の良さをより身近に感じていただける環境を整える。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	市内小学6年生約500名 市内中学1年生約500名 及び学校関係者
期待する波及効果	市産材で作った作品を持ち帰ることにより各保護者への波及効果も期待できる。

【公的関与の必要性】

市内市立小中学校において森林教育を実施するため、市の関与が必要である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
のぼり設置	実施中	講座の開催時にのぼりを設置
HP掲載	実施後	講座の開催後、他の県民税事業とともに活用事例として掲載
広報誌掲載	実施後	講座の開催後、森林関係記事掲載時に県民税事業として掲載
啓発物品配布	実施前	各学校への事前説明時に県民税の啓発物品やパンフを配布し周知

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
4	森と木材のふれあい事業（小中学校）				
事 業 費	6,549,400 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,201,700	0	2,347,700

7. その他特記事項（受益者の反応等）					
森林講座受講後の振り返りの中で、次のような感想があった。 【生徒】 ・地域の森林が私たちの暮らしや産業と深く関わっていることを理解することができた。 ・今回、森林を手入れする工程、手入れされる前の森林、された後の森林の違い、森林が他の地域に与える影響など分かりやすく森林について知ることができたので、この事を知るだけで終わらせるのではなく、森林のためになる活動にも取り組んでいきたい。 【先生】 ・亀山市産材を使用した木工教室では、生徒は木の特性や加工の難しさを実感しながら、互いに声を掛け合い、安全に配慮して主体的に取り組む姿が見られました。完成後には、自分たちの生活と地域の森林とのつながりを実感し、木やものづくりに対する関心が高まった様子がうかがえました。地域の森林資源を活用した体験的な学習を通して、生徒の学びが深まり、技術と地域を結び付けて考える力を育てることができた有意義な取組でした。					

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	新規
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森と木材のふれあい事業（小中学校）
-----	-------------------

6(1). 写真



写真1

小学校での森林についての講座



写真2

小学校での木工工作（マイ箸づくり）



写真3

小学校での木工工作（マイ箸づくり）



写真4

中学校での木工教室（スツールづくり）



写真5

中学校での木工教室（スツールづくり）



写真6

中学校での木工教室（スツールづくり）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	新規
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森と木材のふれあい事業（小中学校）
-----	-------------------

6(3).その他

・学校HP掲載記事

10月28日（火）今日の学校の様子より

投稿日時: 2025年10月29日 投稿者: shirakawa

6年生が「森林講座」を受講しました

©2025（令和7）年10月28日（火）

10月28日（火）5・6限目、鈴鹿森林組合の方を講師に招き、6年生が「森林講座」を受講しました。これは、「みえ森と緑の県民税」を活用した取組の一環として、亀山市が本年度から行っている事業の一つです。まず初めに、「私たちの生活と森林について」というテーマで、森林の働きや林業について・地域の森林が私たちの暮らしと深く関わっていることについて・森林保全の大切さについて、説明していただきました。「亀山市は面積の約63%が森林であること」「手入れされた森林は、土砂災害から私たちを守ってくれること」「森林が蓄えた水は、きれいな水となって伊勢湾へ流れ込み、海の栄養になること」などについて具体的な数字を交えながらの話を聴き、子どもたちも興味深げでした。また、健康な森林をつくるためには、下刈や間伐などの手入れが必要で、人の手と長い年月がかかることも学びました。実際に間伐されたヒノキの輪切りの年輪を数えながら、木の香りも体感していました。つづい

て、亀山市産のスギの木で、マイ箸をつくる体験をしました。箸の形に加工された木材をサンドペーパーで磨いて仕上げていくという30分程度の体験でしたが、子どもたちは一生懸命に磨いて自分好みの太さや長さに加工していました。家で大切に使用してみてくださいね。森林を守り育てていくことの大切さを学習した2時間となりました。



カテゴリー: 2025年度、6年生

・市広報掲載記事

市の取り組み

子どもたちの森林保全の意識を高める

市の取り組みの一つとして、みえ森と緑の県民税市町交付金を活用し、鈴鹿森林組合や亀山木材産業協同組合と連携して、「森と木材のふれあい事業」を行っています。森林講座や木工教室を通じて、市内の小・中学生が森林の働きや木材への理解と関心を深めてもらうことを目的とし、令和7年度は、市内13の小・中学校で実施しました。

森林講座

森林の働きや林業について学びました。亀山の森林の様子も紹介しながら、地域の森林と自分たちの生活との関わりや森林保全の大切さの理解につなげています。



木工工作(小学生)・木工教室(中学生)

市産材を活用し、小学校では箸と箸置きを、中学校ではスツールを作りました。実際に木に触れ、香りを楽しむことで、木材が身近で活用されていることを実感できます。



令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
5	自然保育・森林環境教育推進事業（幼稚園・保育園）				
事 業 費	240,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			200,000	0	40,000

1. 事業の目的

自然保育に関する知識を有する保育士の育成に取り組むことで、森林環境教育の普及を図ることを目的とする取組。

2. 事業の実績

【事業内容】

市内公立園に自然保育に関する知識を有する専門家をアドバイザーとして派遣し、保育士に必要な助言・指導を行うとともに園児に森林環境教育を体験してもらい、その活動の振り返りを行う。1回目：活動フィールドの打合せ、下見 2回目：活動実施、振り返りと講師による講評

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

亀山市

【実施個所及び箇所数】

市内の公立保育園、幼稚園、認定こども園 計13園

【事業量】

12か所（13園）×各2回＝24回 井田川幼稚園とみずほ台幼稚園は合同開催

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
直営	その他	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

三重自然保育協議会の理事であり、自ら市民活動団体を運営するなど、自然の中での人づくりに長年取り組んでおり高い専門知識を有する。保育人材を育成する短期大学講師に就任しており、保育士への助言指導にも適任である。

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
5	自然保育・森林環境教育推進事業（幼稚園・保育園）				
事業費	240,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			200,000	0	40,000

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

自然保育に関する知識を有する保育士が増加することで、各園での自然保育・森林環境教育に関する取り組みが推進される。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

自然保育に関する専門家にアドバイスをもらいながら活動することで、市の豊かな自然を活かした自然保育・森林環境教育の魅力を保育士が実感し、遊び方の工夫や安全への配慮、環境への配慮を行うことにより、自然保育の取組が推進され、子どもの成長を促し、探求心や好奇心を産む効果があった。

【新たな対策・視点及び改善点】

振り返りを受けての活動を追加することにより、課題、改善点をすぐに実践にうつせるようにする。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	公立園の園児及びその保護者
期待する波及効果	自然に愛着を持つ、豊かな心と体の子どもが育まれる

【公的関与の必要性】

市内の全公立園において実施するため、開催の場所や人的参加などにおいて協力は必須である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない、

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
広報誌掲載	実施後	県民税の活用事例として市広報誌に掲載
HP掲載	実施後	園のHPに掲載

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

保育士：子供を交えての実践形式での講義により、亀山市ならではの地域資源活用して様々な体験を行え大変有意義な講習であった。また、子どもたちの様子も日頃私たちが行っている保育とは異なるメニューのため、活き活きと自然とふれあいながら活動していた。

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	自然保育・森林環境教育推進事業（幼稚園・保育園）
-----	--------------------------

6(1). 写真



写真1

亀山幼稚園自然保育



写真2

亀山幼稚園自然保育



写真3

加太保育園自然保育



写真4

加太保育園自然保育

写真5

写真5

写真6

写真6

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	自然保育・森林環境教育推進事業（幼稚園・保育園）
-----	--------------------------

6(3).その他

・市HP記事



加太保育園野外体験保育（令和7年12月）

このページを印刷する

公開日 2026年02月25日

（今月の記事）

- 令和7年12月 大好きなお出かけ！
- 新年に向けて・・・

大好きなお出かけ！

川俣神社にはイヌマキ（まきの木）という木があります。園児が赤い実（まきの実）が食べられることを教えてくれたので、神社に行くときに探すようになりました。まきの実は、熟した赤いところは食べることができ、緑のところは毒があり食べられません。神社へ行く際は、探してみてください。

また、近くでは冬イチゴや飾りつけに使うシキミの実（食べられない）も見つけることができ、大満足の子どもたちでした。

ぶちひよこぐみの帰り道に、葉っぱの上に水滴がキラキラ光っているのを見つけました！そっと触れるとコロコロ転がって落ちていきました。毎回たくさんの気づきがあって楽しそうです。



新年に向けて・・・

新年を迎えるにあたり、自分たちの部屋やロッカー、遊具や道具などをきれいにしたり、年長児は「かぶすけ」さんと加太小学校1年生と一緒にしめ縄づくりをしました。

しめ縄は、稲刈りの際に残しておいた稲わらを束ね、少し水で湿らせ、3本に分けて編み上げていく、日本の伝統的なお正月飾りです。4人でチームになり、順番にねじっていき、最後は1つに編み上げ、出来上がり。このねじるのが難しく、霧吹きで湿らせながら、協力し合ってつくる姿は真剣そのもの。つくっていくうちに、1年生も昨年のことを思い出したようです。少し小さめですが、それぞれ味のある素敵なしめ縄ができました。



お問い合わせ

加太保育園

住所：〒519-1129 三重県亀山市加太板屋4620番地

TEL：0595-98-0134

FAX：0595-98-0134

E-Mail：kabuto-ho@city.kameyama.mie.jp

内容	和田保育園 自然保育の活動	放送日	12月1日～12月15日
取材先	和田保育園/和田神社	担当	村上

市では、子どもたちに自然の中で遊ぶ楽しさを知って、**鳥山市**ならではの地域資源を活用して子どもたちに様々な体験をしてもらおうと、**鳥山市**ならではの地域資源を活用して子どもたちに様々な体験をして、今年度、みえ森と緑の県民税を活用した自然保育の活動に取り組んでいます。

この日は、和田保育園の3歳児26人が、自然保育コーディネーターの谷さんと一緒に、園から歩いて出発し、和田神社の境内などで自然活動を行いました。

園児たちは、神社に向かう中、道端に落ちているどんぐりや色づいた落ち葉を拾い上げるなど、喜び姿が見られました。

神社に到着した園児たちは、みんなで参拝したあと、境内に移動し、事前に自分で制作した「おたからバッグ」を手に、木の実や綺麗な石などをバッグに詰め込んでいきました。

また、現地では、谷さん指導のもと、ロープを使って**山登り神社の奥の斜面登り**を楽しんだり、木にぶら下がって遊んだり、楽しい時間を過ごしていました。

最後は、園児たちが今日見つけたお気に入りの物や、楽しかったことを発表したほか、神社の参道に寝転がって風の音や鳥の声に耳を澄ませるなど、自然の中で遊ぶ楽しさを体感しました。

豊かな地域資源を活用したこの取り組みは、今年度、市立の保育所、幼稚園、認定こども園で行われています。

インタビュー（

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
6	野登山森林保全事業(森林づくり協議会)				
事 業 費	1,100,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,100,000	0	0

1. 事業の目的

野登山山頂に位置する鶏足山野登寺は雨乞いや豊作の祈願寺として1000年の歴史を持ち、長く寺領として維持されてきたことで水環境や天然の森林環境が保たれてきた。しかし近年、台風による巨杉の倒木被害やシカの食害による下層植生の衰退を含む様々な環境の変化により、巨杉を育む森林・水環境およびその周辺における生物多様性の維持・保全が難しくなっている。本事業では鈴鹿川等源流の森林づくり協議会により野登山の現状を把握するための調査を市民も参画して実施し、広く市民に森林の持つ価値を周知するとともに、野登山における多様な植生を維持し継続的な森林保全が行われることを目的とする。

2. 事業の実績

【事業内容】

- ① 専門家の指導を受け、参加者とともに生存巨杉の分布やサイズを把握する。「巨杉現況調査」
- ② 巨杉のタイプや樹勢、稚樹の育成具合を調査する。「巨杉動態調査」
- ③ 野登山における植生調査及び種子や実生苗の採取及び地域性苗木育成の指導
- ④ 野登山の植生を保全するために必要な防鹿対策検討調査
- ⑤ 調査に関する研修会

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

鈴鹿川等源流の森林づくり協議会

【実施個所及び箇所数】

野登山山頂部及び野登寺周辺区域

【事業量】

- ① 協議会員、地域住民、一般参加者向けの研修

3回実施：8月8日、10月11日、10月23日（うち10月11日はイベント開催中での解説）

内容：胸高周囲長等の調査法、GPS計測法、踏査法等の指導、野登山実生の採取及び土壌採取法の指導、パッチ防鹿柵の設置位置指導など

- ② 専門家による野登山における本事業地及びその周辺部での調査

14回実施：9月15, 27日、10月4, 17, 18, 23日、11月1, 2, 7, 12, 17, 18日

内容：踏査、表層地質調査、竹杭打ち、GPS位置記録、胸高周囲長測定等

- ③ 地元、地権者説明

10月17日の踏査後、地元野登地区代表、地権者野登寺住職に対して、野登山の性質、生育場所、旧寺領内堂宇・参詣道跡の発見などについて中間報告を行った。

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
負担金	活動団体	10/10以内		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

鈴鹿川等源流の森林づくり構想を実現するための事業を実施する鈴鹿川等源流の森林づくり協議会を選定。

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり		市町名	亀山市	新規・継続の別	新規
------	--------------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
6	野登山森林保全事業(森林づくり協議会)				
事 業 費	1,100,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,100,000	0	0

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

市民も参画した調査の実施により、野登山の現状を把握するだけでなく、多様な植生を維持し市民に継続的な森林保全を行う必要性について機運醸成が図られる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

専門家だけでなく、森林保全意識の醸成のため市民も参画して調査を実施する。

【新たな対策・視点及び改善点】

- ・踏査の結果、野登山の大杉の分布が想定外のため調査地を広げる必要がある。
- ・野登山の大杉特有の形質が見られたため、それを科学的に明らかにできる方法を検討する必要がある。
- ・野登山のシカ被害から保護すべき種子や苗木の育成について、さらに専門家に指導をいただく必要がある。
- ・今後は教育機関や市外からの参加、協働者を巻き込みたい。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	調査および保全活動への参加者 のべ 175名 (協議会会員、地域住民を含む専門家以外の事業の協働への参加者)
期待する波及効果	専門家の指導による保全のノウハウが市民に伝わり、県民に共有できる

【公的関与の必要性】

協議会の取組は市内在住在勤の方を対象に実施することから、取組を市内に限らず広く県民に共有するため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

転用は想定されない。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
その他	実施中	活動中に県民税を活用した取組であることを参加者にアナウンスする。
アンケート実施	実施中	イベントや活動日の前後でアンケートを記入してもらった。
啓発物品配布	実施中	活動の際に啓発物品を配布した。

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

- ・調査に随行し協働した参加者は、専門家の解説をもとにその天然林のすばらしさに感動し体験していた。
- ・シカ被害の厳しい現状を目の当たりにし、種子や実生苗の採取などの意義を感じていた。
- ・適地適木の考え方や、苗の育成には母樹と同じエリアの「心土」を使うとよい、などを学んだ。
- ・スギだけでなくブナ、モミ、アカガシの個体群を含め野登寺の寺領であったおかげで守られてきた天然林があることが改めて確認された。
- ・専門家の踏査により、山頂に巨木が生育できる環境であることについて地質に関わることが想定できた。
- ・早急にシカの被害から守る必要がある。

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	新規
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	野登山森林保全事業(森林づくり協議会)
-----	---------------------

6(1). 写真

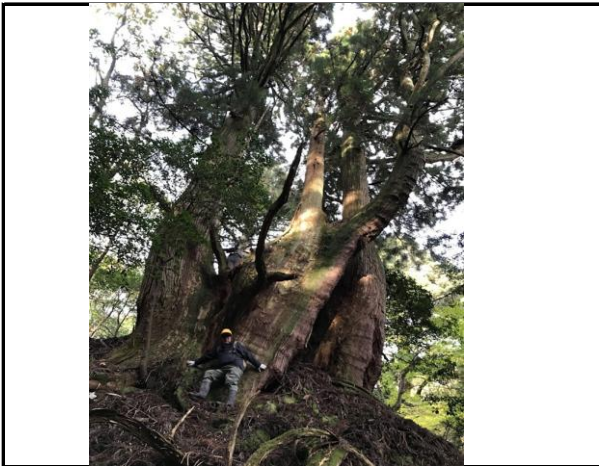


写真1

本事業において最大級のスギ

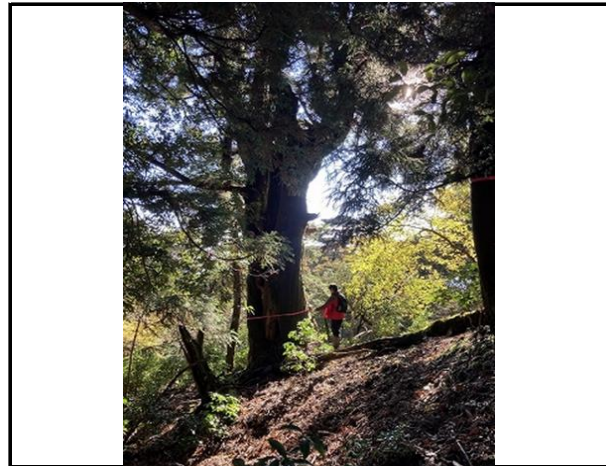


写真2

胸高周囲長を計測



写真3

針葉樹の巨木と広葉樹が複層を成している調査地



写真4

調査用の竹杭を市民で作成



写真5

専門家の指導に基づく市民による苗木の保護

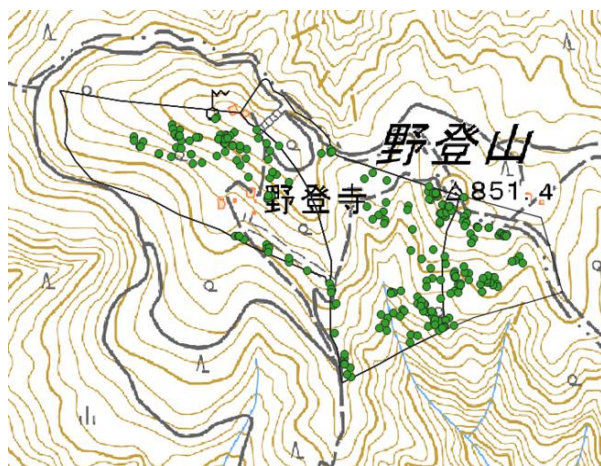


写真6

秋に専門家の指導により採取した種子を播種

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	新規
事業名	野登山森林保全事業(森林づくり協議会)				

6(3).その他



本事業地で、陰しい地形に阻まれ計測できていない部分もあるが

- ・幼苗から巨木まで巨スギと同種と思われる個体数243本の位置を把握
- ・胸高周囲長は34本を計測



調査区域以外にも多数できることから、巨スギの生態をより明らかにするため、次年度以降調査地を拡大したい

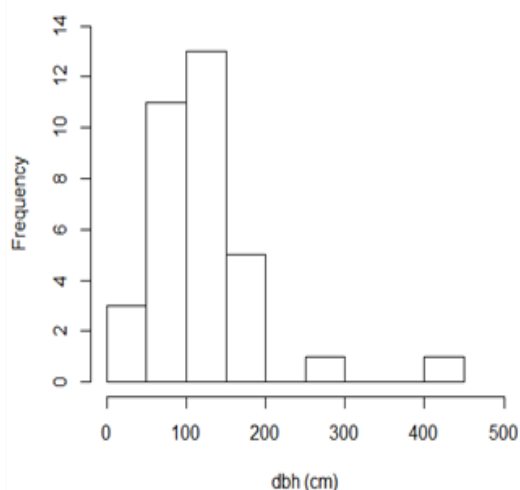
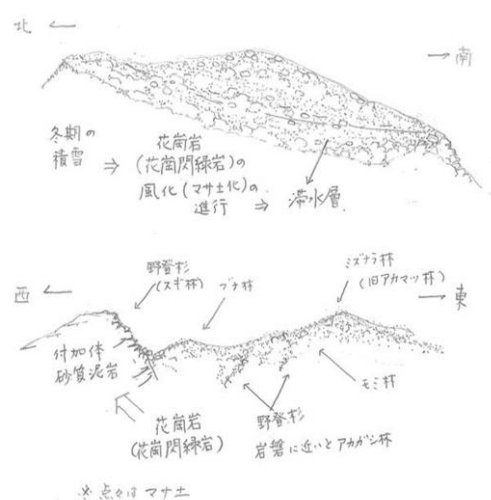


図3-2 寺領内の野登山調査木の胸高直径頻度分布.



専門家による、地質の解説

※専門家より提出された令和7年度報告を別途添付

いなべ市

令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報（令和5年度版三重県市町要覧による）

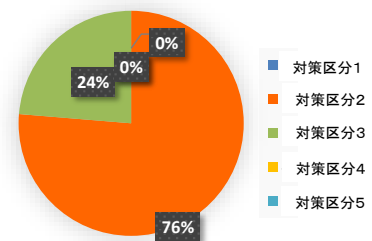
市町名	いなべ市	三重県
人口（人）	44,937	1,742,703
年少人口割合（％）＊1	12.1%	11.6%
森林面積(ha)	12,794.45	372,030.08
民有林面積(ha)＊2	11,724.89	348,561.87
森林率(%)	58%	64%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	8.2	10.6

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合 ★①-5、②-5



2. 令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）						
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5	基金積立
1	2	危険木の除去事業	3,614,638	3,614,638		3,614,638				
2	2	里山竹林環境保全支援事業	5,275,652	5,275,652		5,275,652				
3	3	中学校卒業記念品配布事業	914,650	914,650			914,650			
4	3	自然環境保全事業	2,365,000	1,845,060			1,845,060			
				0						
計			12,169,940	11,650,000	0	8,890,290	2,759,710	0	0	0

3. 令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量	事業費 (円)	内交付金充 当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業	0	0	0	
災害からライフラインを守る事前伐採事業	0	0	0	
県民参加の植樹祭事業	0	0	0	

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	いなべ市は北部と西部を岐阜県と滋賀県に接し、東部と南部は桑名及び四日市圏域に接している。市域は、北に養老山地、西に鈴鹿山脈をいだし、市のほぼ中央に流れる員弁川を挟んで緑豊かな自然と平野に囲まれている。 緑豊かないなべ市でみえ森と緑の県民税市町交付金を活用して、木のぬくもりに触れる機会を作り、身近な森林について目を向けてもらい、森林・木材の意義、大切さを再認識してもらう。また豊富な森林資源を活用し、自然と調和した環境づくりを目指し、整備が進んでいない森林を整備することにより、安心・安全な暮らしを確保する。
事業実施により期待される効果	間伐材を活用した箸の配布を行うことで、森林資源の活用と日常的に木に触れる機会を作り出すことができ、将来的に持続可能な素材を選べる人づくりに繋がることが期待される。また、住民自らが危険木除去を行うことで、身近な危険木の認識とその除去についての意識向上につながった。里山竹林環境保全支援事業では補助金を交付することで、活動範囲の拡大・活動内容の向上を図ることができ、市内の里山整備促進が期待できる。
情報発信への取組	市HPにおいて、みえ森と緑の県民税の概要を伝えるとともに、本事業の事業効果を写真と共にわかりやすくPRしている。中学校卒業記念品配布事業では、生徒にメッセージカードを配布し、県産材を利用する大切さを伝えている。危険木除去事業では市内自治会長に事業案内文書を送付することや走道路管理担当課からの情報発信をすることで、みえ森と緑の県民税を活用して周辺住民の生活の安全を確保し、暮らしに身近な森林づくりに寄与していることを伝えている。

令和7年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		（千円）	内、譲与税（千円）
1	② 意向調査	23,330	23,330
2	⑤ 森林保護対策	792	792
3	③ 私有林整備	9	9
4	⑥ 林道・林専道の整備等	8,990	8,990
5	⑦ その他（森林整備）	1,989	1,989
6	⑬ 木造公共建築物の整備等	2,971	2,971
7	⑮ 森林・林業・木材普及活動等	798	798
8			
9			
10			
	合計	38,879	38,879

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	いなべ市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
1	危険木の除去事業				
事業費	3,614,638 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			3,614,638	0	0

1. 事業の目的

自治会単位で取り組むことにより、通学路や人家裏等きめ細かな森林整備を行う。
自治会による身近な森林の整備により、安全・安心な暮らしを確保し、森林整備に対する意欲の向上を図る。

2. 事業の実績

【事業内容】

意欲ある自治会等に対し、危険木の除去について支援する。特殊機材については市内業者から借り入れてもらい、補助の対象とする。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

自治会等

【実施箇所及び箇所数】

いなべ市内34箇所

【事業量】

1,693本

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	自治会等	10/10以内	リース：20万円 事業費：12万円	リース：10/10以内 事業費：3/10以内

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

自治会要望等による。
自治会要望等から事業目的に適合した活動に対し補助。

令和7 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	いなべ市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	--	-----	------	---------	----

番 号	事 業 名				
1	危険木の除去事業				
事 業 費	3,614,638 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			3,614,638	0	0

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

危険要因を早期に除去でき、安心して過ごせる環境を作り出す事ができる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

危険木の除去を行うことで、残った木が健全に生育し、次の危険木を生み出しにくくするという説明を申請時に行う。

【新たな対策・視点及び改善点】

事業の取組の拡大を目指し、リース代補助以外の支援の方法について検討し、令和6年度からは伐採作業に対する補助も対象とすることにした。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	いなべ市住民約13,500人
期待する波及効果	受益者の関係者への波及効果が期待できる

【公的関与の必要性】

道路支障木の他、住民生活の支障となる木・竹の伐採における費用の負担が難しく、放置されている現状の中、幅広く危険木を除去し、周辺住民の生活の安全を確保するものであり、公的関与の必要性がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

なし。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施後	事業内容を年度末にHPに掲載し、周知する。
チラシ等配布	実施中	自治会長にチラシを配布し、県民税を活用した事業であることを周知し

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

人家裏等の危険木を事前時伐採することで、安全な生活環境を確保することができた。

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	いなべ市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	------	---------	----

事業名	危険木の除去事業
-----	----------

6(1). 写真



写真1
伐採前



写真2
伐採後



写真3
伐採前



写真4
伐採後

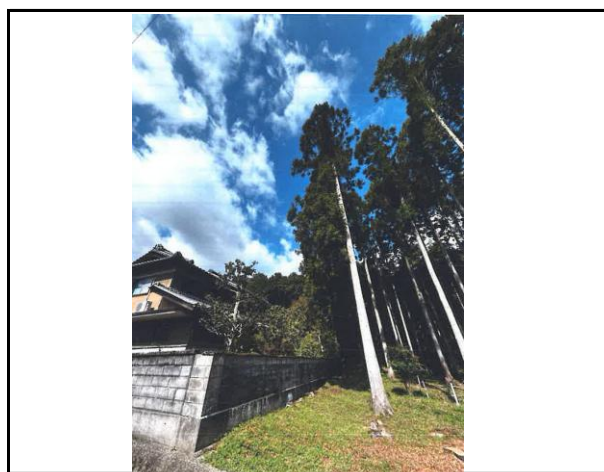


写真5
伐採前



写真6
伐採後

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
事業名	危険木の除去事業

6(2).補助事業者取組一覧

補助事業者名	補助金額	取組概要
個人	30,030	伐採委託（30本）
山条自治会	83,820	機械リース（300本）
個人	111,000	伐採委託（30本）
個人	47,850	伐採委託（1本）
山造り研究所	150,150	機械リース（5本）
山造り研究所	186,230	機械リース（10本）
個人	108,570	伐採委託（120本）
個人	120,000	伐採委託（22本）
下平自治会	67,980	機械リース（60本）
山造り研究所	180,180	機械リース（15本）
上相場自治会	58,740	伐採委託（1本）
個人	120,000	伐採委託（30本）
山造り研究所 鬼頭 志朗	200,000	機械リース（10本）
山造り研究所 鬼頭 志朗	200,000	機械リース（16本）
個人	43,560	伐採委託（22本）
六石自治会	30,030	機械リース（50本）
川原自治会	95,040	伐採委託（1本）
坂本自治会	200,000	機械リース（50本）
平古自治会	44,000	伐採委託（150本）
個人	29,700	伐採委託（7本）
向平自治会	120,000	伐採委託（15本）
向平自治会	120,000	伐採委託（15本）
個人	99,330	伐採委託（20本）
畑新田自治会	44,000	機械リース（4本）
新田自治会	24,530	機械リース（100本）
個人	120,000	伐採委託（15本）
個人	120,000	伐採委託（100本）
個人	120,000	伐採委託（12本）
個人	120,000	伐採委託（400本）
市之原自治会	139,898	機械リース（3本）
個人	120,000	伐採委託（6本）
個人	120,000	伐採委託（3本）
個人	120,000	伐採委託（10本）
個人	120,000	伐採委託（60本）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	いなべ市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	------	---------	----

事業名	危険木の除去事業
-----	----------

6(3). その他資料

危険木の除去事業



気候が年々激しくなっていく中で、道路支障木のほか、人家近くの危険木の除去についても防災・減災のためには重要です。

そこで、いなべ市では市民の皆様から要望をいただいた箇所の危険木の除去に必要な機械のリース代や伐採に係る費用について補助をしています。

令和7年度は34箇所、1,693本の危険木の除去を行いました。

令和8年度についても継続して補助を行います。詳細は農林整備課へお問い合わせください。

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	いなべ市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	------	---------	----

事業名	危険木の除去事業
-----	----------

6(3). その他資料

危険木伐採における補助事業について

1 危険木の定義

放置した場合、倒木や落枝により所有者以外の第三者の生命、身体、財産に損害を与える可能性がある木など。

（景観向上の目的で植樹されたものや、企業、寺社が管理するものなどは事業の対象となりません。補助の対象となるかどうか不明な場合、事前にお問い合わせください。）

2 補助条件

- (1) 1箇所につき補助額は、次のどちらかとする。
機械リースの場合：リース代の10割（20万円上限）
事業費補助の場合：事業費の3割（12万円上限）
- (2) 以下の場合、申請は年1回までとする。
ア 個人からの申請の場合。
イ 同一所有者の土地を申請する場合。
ただし、公共性が高い箇所（市道、農道に隣接しているなど）については、この限りではないものとする。
- (3) 補助対象は別紙参照。
- (4) 機械リースの貸出日数は、3日を上限とする。（予備日は設けない）

3 申請の流れ

- (1) 自治会要望書にて、伐採箇所・範囲・伐採本数・第三者への影響及び、リース会社または事業者による正式な見積書を添付してください。
リースできる会社は以下のとおりです。（令和6年4月1日時点）

株式会社アクティオいなべセンター	(TEL: 0594-84-1780)
株式会社キナン四日市北営業所	(TEL: 0594-78-3582)
日本キャタピラー合同会社北勢営業所	(TEL: 0594-82-1233)

※伐採を行う事業者について、指定はありません。
- (2) 要望受理後、農林整備課担当者から連絡しますので、申請書（様式第1号）を作成して提出してください。
- (3) 申請書（様式第1号）受理後、再度内容について確認し、補助要綱に適合すれば交付決定通知書（様式第2号）を送付しますので、その日以降に事業に取り掛かってください。
- (4) 事業完了後は、速やかに実績報告書（様式第5号）を提出してください。
同時に請求書も提出をお願いします。
補助事業であり、事前にリース代または事業費をお支払いいただいてからの交付となります。

※ 安全対策・注意事項

作業には、ヘルメット、ゴーグルなど安全装備を装着する事。（特にチェーンソー）
広葉樹の伐採などは、重心もわからず倒れる方向が特定できないため、専門技術を持った者が行う事。
慣れによらず、安全確認を常に行いながら作業を行う事。
地域での活動に対して、保険に加入する事。
各種リース機械の操作については、必要となる免許や講習修了証を所持した者が行う事。
リース機械を損傷させた場合、修理代の請求が高額になる事があるため、これらを対象とした保険に加入する事。

この事業は、皆様からいただいた『みえ森と緑の県民税』を活用して行っています。



令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	いなべ市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
2	里山竹林環境保全支援事業				
事 業 費	5,275,652 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			5,275,652	0	0

1. 事業の目的

市内の活動団体等が、整備されていない里山や竹林における森林の保全や安全性の確保による生活環境の向上に向けて、自主的に里山や竹林を整備する取組みを支援し、持続的に地域の里山が整備されることを目的とする。

2. 事業の実績

【事業内容】

市内の活動団体等が、保育間伐や倒木の除去等、自主的に里山や竹林を整備する取組に対して事業費の一部を支援する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

ボランティア団体等

【実施個所及び箇所数】

11団体

【事業量】

市内9団体×500,000円（補助額）、市内1団体×400,000円（補助額）、市内1団体×375,652円（補助額）

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	活動団体	10/10以内	500,000円	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

団体からの要望等による。

要望・申請等から事業目的に適合した活動に対し補助。

令和7 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	いなべ市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	--	-----	------	---------	----

番 号	事 業 名				
2	里山竹林環境保全支援事業				
事 業 費	5,275,652 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			5,275,652	0	0

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

未整備の里山や竹林が再生されることにより森林の保全や安全性が確保され、生活環境の向上に繋がるとともに、獣害被害の防止も期待される。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

補助金を交付することにより、より効率的・持続的に里山竹林を保全することができる。

【新たな対策・視点及び改善点】

事業内容について、他団体の取組を紹介し、より良い活動に取り組めるように助言を行った。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	活動団体
期待する波及効果	森林整備が進むことにより、活動地区周辺地域・住民にも効果が波及する。

【公的関与の必要性】

ボランティア団体等は現在会費等を資金に運営しているが、活動範囲・参加人数を拡大し森林に関わる機会を増やすには公的関与の必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

なし。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施後	事業内容を年度末にHPに掲載し、周知する。
チラシ配布	実施前	申請活動団体へ県民税のリーフレットを配布する。

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

補助金の交付により、今までよりも活動範囲を拡大することができ、より多くの森林を整備することができた。

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	いなべ市	新規・継続の別	継続
------	----------------	-----	------	---------	----

事業名	里山竹林環境保全支援事業
-----	--------------

6(1). 写真



写真1
林内整備



写真2
林内整備観察会



写真3
竹林整備



写真4
安全講習



写真5
学生体験



写真6
木育キャラバン

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

事業名	里山竹林環境保全支援事業
-----	--------------

6(2).補助事業者取組一覧

[illegible]

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	いなべ市	新規・継続の別	継続
------	----------------	-----	------	---------	----

事業名	里山竹林環境保全支援事業
-----	--------------

6(3). その他資料

里山竹林環境保全支援事業



市内の活動団体等が、整備されていない里山や竹林における森林の保全や安全性の確保による生活環境の向上を目的として、自主的に里山や竹林を整備する取組みを支援しました。

令和7年度は11活動団体に対して補助金を交付しました。

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	いなべ市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
3	中学校卒業記念品配布事業				
事 業 費	914,650 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			914,650	0	0

1. 事業の目的

県民税の基本方針である『県民全体で森林を支える社会づくり』のなかの『森を育む人づくり』の一環として、いなべ市産材を利用して木製箸の製作配布を行う。

中学校の卒業記念として、箸という肌で触れるもので『木の良さ』を子どもたちに知ってもらい、木を使うことの意義を知る人づくりを行うことを目的とする。

2. 事業の実績

【事業内容】

原木調達・加工作業は、【認定林業事業体（佐藤林業）】に委託する。箸製作は【いなべ自然楽校】に委託する。箸入れ袋製作・製品梱包作業は、【いなべ市障害者活動支援センター】に委託する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

いなべ市

【実施個所及び箇所数】

市内中学校4校

【事業量】

箸500膳・箸袋500袋

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	活動団体	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

原木調達・加工作業は市内唯一の林業事業体である佐藤林業に、箸製作はいなべ市内の地域資源を活用した取り組みを行っている市民団体のいなべ自然楽校に、箸袋製作は社会的貢献度を踏まえて障がい者施設に委託した。

令和7 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	いなべ市	新規・継続の別	継続
------	-------------	--	-----	------	---------	----

番 号	事 業 名				
3	中学校卒業記念品配布事業				
事 業 費	914,650 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			914,650	0	0

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

製品にはメッセージカードを添付し、県民税の目的といなべ市産材が使われていることを示すことで、木材の良さを感じたり利用意識を高めてもらい、将来的には持続可能な素材を選べる人づくりに繋がることが期待される。また、その製作には、市内の活動団体であるいなべ自然楽校やいなべ市障害者活動支援センターが行っている旨を伝え、箸を大切に利用してもらい、市内の自然と地元愛を育む人づくりへ繋げていく。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

市内唯一の認定林業事業体に原木の調達を委託することにより、山地に放置されている間伐材の有効利用を図ることができた。

【新たな対策・視点及び改善点】

受注者間での意見交換を行うことで、作業工程の調整をスムーズに行うことができた。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	市内中学校卒業生500名
期待する波及効果	保護者・学校関係者

【公的関与の必要性】

卒業記念品を配布することにより、生徒が三重の木に触れる機会をつくり、木材利用の意義を理解し、森林の大切さを伝える森林環境教育活動であり、公的関与は必要である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施後	HPを活用し、周知する。
チラシ等配布	実施後	メッセージカードの配布を行った。

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

いなべ市産の木材を箸というかたちで触れることで、木の良さを知ることができた。

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	いなべ市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	------	---------	----

事業名	中学校卒業記念品配布事業
-----	--------------

6(1). 写真



写真1

製材・プレーナー加工



写真2

箸製作加工



写真3

箸袋封入



写真4

受取時の様子



写真5

受取時の様子



写真6

受取時の様子

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	いなべ市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	------	---------	----

事業名	中学校卒業記念品配布事業
-----	--------------

6(3). その他資料

中学校卒業記念品配布事業



森を育む人づくりの一環として、いなべ市内の4つの中学校の卒業生（約500名）を対象に木の良さを知ってもらうため、いなべ市産材を利用した木製箸を毎年、卒業記念品として配布しています。



令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり			市町名	いなべ市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名						
4	自然環境保全事業						
事 業 費	2,365,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他		
			1,845,060	0	519,940		

1. 事業の目的

いなべ市は、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある地域をつくる「グリーンインフラ」の取り組みを行っている。この理念に基づき、地域の森林や水辺の環境を整備と併せ、主に親子の長時間滞在を促進する空間づくりを行い、身近な緑や水辺の環境との関係を深めることを目的とする。

2. 事業の実績

【事業内容】

市内で身近な緑や水辺の環境との関係を深める活動を主体的に行っている個人や団体、企業と連携し、森林や川を使った体験を実施する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

いなべ市

【実施箇所及び箇所数】

市内の「グリーンインフラ」において、身近な緑や水辺の環境との関係を深めるイベントを開催

【事業量】

Inabe Green Lab 開催 2回（川で遊ぶ日、火を囲む日）

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	活動団体	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

積極的な活動を行っている個人や団体とつながりのある一般社団法人グリーンクリエイティブいなべへ委託した。

令和7 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	いなべ市	新規・継続の別	継続
------	-------------	--	-----	------	---------	----

番 号	事 業 名				
4	自然環境保全事業				
事 業 費	2,365,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,845,060	0	519,940

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

次代を担う子どもたちが、水や緑の環境づくりの大切さを学び、森林や緑と親しむための環境整備に対して理解を深める。また、いなべの森林の体験や観察、木材との触れ合いを通していなべの自然資源の魅力や可能性を見つけ、緑の大切さを感じ、育む人材が育成される。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

市直営での事業実施を計画していたが、一般社団法人グリーンクリエイティブいなべと意見交換を行う中で、同団体を介して積極的な活動を行っている個人や団体とつながることができ、運営を外部委託することとした。

【新たな対策・視点及び改善点】

イベントを開催するだけでなく、県民税を活用して身近な緑や水辺の環境を整備することで、より自然と県民の関係性を深めることができる。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	イベント参加者
期待する波及効果	参加者の家族・友人

【公的関与の必要性】

森林や水辺の環境整備を行うことにより、イベントの効果を向上させることができるため、公的に支援する必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

なし。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施前	参加者募集時にHPに掲載し、周知する。
チラシ配布	実施前	事業チラシに県民税を活用した事業であることを記載する。
HP掲載	実施後	事業内容を年度末にHPに掲載し、周知する。

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

親子参加型のイベントを行うことによって、より多くの人材育成を行うことができた。

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	いなべ市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	------	---------	----

事業名	自然環境保全事業
-----	----------

6(1). 写真



写真1

Inabe Green Labの様子



写真2

Inabe Green Labの様子



写真3

Inabe Green Labの様子



写真4

Inabe Green Labの様子



写真5

Inabe Green Lab実施に向けた研修



写真6

Inabe Green Lab実施に向けた研修

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	いなべ市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	------	---------	----

事業名	自然環境保全事業
-----	----------

6(3). その他資料

実施実績

【1】InabeGreenLab.2025 5月31日(土)開催「川で遊ぶ日」
実施に伴うフィールド整備

3. 整備内容:整備エリア②「大井田西部地区公園」(来場者滞在エリア/出店エリア)

- ① 草刈り及び枝等の片付けを行った。
- ② 落葉樹エリア内の折れ枝や枯れ枝等除去(地上6mくらいまで)及び、安全性の確認を行った。
- ③ 除去した枝や、フィールド内に散乱していた落ち枝についてはバイオネストに一部組み替え、枯れ枝についてはイベント当日の焚き火用の薪に利活用した。

▼ 記録写真











対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	いなべ市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	------	---------	----

事業名	自然環境保全事業
-----	----------

6(3). その他資料

実施実績

【2】InabeGreenLab.2025 11月22日(土)開催「火を囲む日」

■ 実施内容・コンテンツ

1. 「五感で楽しむ！？薪割り広場」【体験者数】50名程(試飲80名程)

体験料無料/スタッフ対応人数 5名

薪割りを五感で楽しむ体験や、クロモジ、杉、ヒノキのお茶の試飲を実施。今回から薪割り用の柵を設置し、安全対策を徹底した。



2. 「火起こし体験」【体験者数】41組(大人・こども 計82名程)

体験料無料/スタッフ対応人数 5名

マッチやライターを使わず、縄文時代の火起こし同様、木の摩擦を利用した「舞切り式(まいぎりしき)」手法で火起こし体験を実施した。



3. 「地球のあそび場」

体験料無料/スタッフ(見守り)対応人数 2名

土、水、石、木の枝、稲わら等、身近な地域の自然物を使ったあそび場を実施した。穴掘りや、土盛り、泥あそびに泥団子づくり、泥のお絵描きなど自由にあそび、楽しむ姿が見られた。



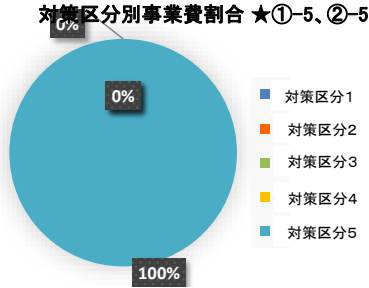
木 曾 岬 町

令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報（令和5年度版三重県市町要覧による）

市町名	木曽岬町	三重県
人口（人）	6,023	1,742,703
年少人口割合（％）＊1	8.6%	11.6%
森林面積(ha)	0.00	372,030.08
民有林面積(ha)＊2	0.00	348,561.87
森林率(%)	0.0%	64%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	11.6	10.6

- ＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合
＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。）
＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園



2. 令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）						
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5	基金積立
1	5	暮らしを守る緑保全事業	7,025,700	7,000,000					7,000,000	
				0						
計			7,025,700	7,000,000	0	0	0	0	7,000,000	0

3. 令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量	事業費 (円)	内交付金充 当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
災害からライフラインを守る事前伐採事業				
県民参加の植樹祭事業				

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	木曽川の河口部に位置する当町は森林率が0％と、日常生活の中で森林にふれあう機会がなく町内の鍋田川線桜並木は、重要な観光資源であると同時に地域住民が緑にふれあい自然環境の大切さを知る貴重な場となっております。これらを踏まえ、鍋田川線桜並木を特定外来種クビアカツヤカミキリの被害から守るため、防除業務や被害木の伐採を行って被害防止対策を実施しました。
事業実施により期待される効果	鍋田川線桜並木を特定外来種クビアカツヤカミキリの被害から守るため、全木を対象にした調査と台帳整備、樹幹注入を行うことでクビアカツヤカミキリの被害低減を狙い、地域住民や道路利用者の安全確保と貴重な自然環境の保護につながることが期待できる。
情報発信への取組	町イベント時に防除業務の内容と目的を掲示し、町民に対し県民税が安全や自然環境の保全に役立てられていることをPRしたほか、庁舎内ポスター掲示などでも同内容を紹介し、より多くの人の目に留まるよう取り組んでいる。

令和7年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税(千円)
1	⑭ 基金積立（木材利用等）	710	710
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	710	710

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	木曽岬町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
1	暮らしを守る緑保全事業				
事 業 費	7,025,700 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			7,000,000		25,700

1. 事業の目的

当町には鍋田川堤沿いに約4kmにわたり桜が植えられている「鍋田川堤桜並木」が存在する。町にとって大きな観光資源であると同時に、森林のない当町にとってはこの桜並木が唯一、多くの木や虫などの自然に触れられる貴重な環境である。

しかし、令和元年6月から当町にて生息が確認されたクビアカツヤカミキリの食害により当町の桜並木は危機を迎えており、早急に対策を講じなければ貴重な自然環境を失うだけでなく、桜並木沿いの道路の通行人に枯死した桜の枝や幹が倒れ掛かるなどの危険を及ぼすため、全木を対象とした害虫防除と被害木調査を行い森林の維持保全を行うことで安全・安心な住環境を確保する。

2. 事業の実績

【事業内容】

桜並木や人家周辺の危険木の伐倒や病虫害被害木の伐倒・駆除、被害防止・維持保全のための樹幹注入や被害や樹勢を調べる毎木調査、被害木への薬剤噴霧を実施した。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

木曽岬町

【実施箇所及び箇所数】

鍋田川堤沿いの桜並木全木

町内公共施設の桜

【事業量】

毎木調査：967本、薬剤散布：472本、樹幹注入：226本、伐採：24本、桜並木の消毒：967本×2回、巡視・見回り：5回

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	造園業者	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

造園業者の登録と防除業務の登録、また、樹木関係（害虫防除や剪定伐採）で官公庁への納入実績のある業者を対象としている。

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	木曽岬町	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	------	---------	----

番 号	事 業 名				
1	暮らしを守る緑保全事業				
事 業 費	7,025,700 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			7,000,000		25,700

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

被害木全木への樹幹注入により、幼虫の駆除効果が期待でき、約200本ほど見つかった被害木も8割以上がフラスの排出が止まり効果が表れたことが確認された。（年末時点）

また、全木の台帳整備を行い次年度以降の業務量の計算やより効率的な防除業務、剪定伐採につなげることが期待される。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

基本的な被害調査や樹幹注入だけでなく、定期的な巡視を行うことで薬剤の効果検証や重点的に対策をとる必要がある地点の絞り込みができた。

【新たな対策・視点及び改善点】

フラス排出の多いエリアに重点的に樹幹散布を行うことで、幼虫による食害や成虫の飛来を抑制する効果が見込めることから、今後の防除に向けて試験的に実施した。これにより散布エリア内の桜については通年にわたりフラス排出量を大きく減少することができ、被害木の減少を図ることができた。次年度には散布エリアを増やし、さらなる効果を見込む。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	町道鍋田川線沿線住民及び道路利用者、町内公共施設利用者
期待する波及効果	利用者の家族や知人などにも観光資源である桜並木を楽しめるようになる。

【公的関与の必要性】

いずれも公共施設の敷地内の桜が対象であり、町が管理者であるため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

町の管理であり、変更はない。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
ポスター掲示	実施後	庁舎内で町民および来訪者へPRした
啓発物品配布	実施後	町内イベント（オータムフェスタ・ふれあい広場）にて周知活動

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

木曽岬町町議会議員が現場視察を行った際、観光資源を守る取組として今後も続けてほしいと意見をいただいた。

町内イベント「ふれあい広場」にて委託先の造園業者が参加者に本事業の説明等を行い、クビアカツヤカミキリの防除方法を理解いただいた。

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	木曽岬町	新規・継続の別	継続
事業名	暮らしを守る緑保全事業				

6(1). 写真



写真1

令和8年3月撮影 町道鍋田川線



写真2

H31桜並木で発見されたクビアカツヤカミキリ



写真3

全木巡視



写真4

フラスの確認



写真5

T V局によるクビアカ取材の対応



写真6

令和8年3月28日開催 木曽岬町さくらまつり

東 員 町

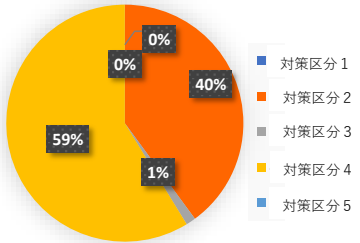
令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報（令和5年度版三重県市町要覧による）

市町名	東員町	三重県
人口（人）	25,784	1,742,703
年少人口割合（％）＊1	13.7%	11.6%
森林面積(ha)	153.78	372,030.08
民有林面積(ha)＊2	153.78	348,561.87
森林率(%)	7%	64%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	15.5	10.6

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合
＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）
＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合 ★①-5、②-5



2. 令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費（円）	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）						
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5	基金積立
1	2	危険木伐倒等業務	2,854,500	2,515,890		2,515,890				
2	3	森林教育授業	83,490	83,490			83,490			
3	4	公共施設等の備品等購入	3,700,620	3,700,620				3,700,620		
				0						
計			6,638,610	6,300,000	0	2,515,890	83,490	3,700,620	0	0

3. 令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量	事業費（円）	内交付金充当額（円）	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
災害からライフラインを守る事前伐採事業	112本	5,200,000	2,600,000	台風などの倒木被害により、ライフラインを寸断する恐れのある樹木を事前に伐採。
県民参加の植樹祭事業				

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	本町では、北部を中心に名古屋や四日市といった近郊都市部のベッドタウンとして開発が進み、現在森林率が8%程度と森林が少なく、また各地に分散している状況ですが、森林は地域住民の憩いの場として日常的に活用されてきました。 このため、危険木の除去など暮らしに身近な森林の整備を進め、地域住民が安全に安心して地域の里山にふれ、森や木の大切さへの理解を深める取組を進めていきます。 また、小学校による森林教育授業においては森林の機能や大切さを学ぶことにより、自然環境の役割を考え、行動していく力を養っていきます。 その他、教育施設及び福祉施設において木質製品などを取り入れることにより、児童や地域住民が木に触れ合う機会を創出していきます。
事業実施により期待される効果	森林環境の保全及び地域住民の森林への意識の醸成が図られた。現地（民家裏等）での調査や作業の際、県民税や事業について詳細に説明する機会が多く、好意的な反応を示していただき、県民税への理解及び森林への関心を高めることができた。
情報発信への取組	工事看板に「みえ森と緑の県民税交付金事業」にて実施していることを表記し、自治会での施工周知説明時に事業の概要についても説明を行った。また、購入した備品等に「みえ森と緑の県民税」のロゴマークを刻印し周知を図るとともに、町のホームページや広報誌に事業の成果を掲載し、県民税を活用し事業を実施した旨を周知した。

年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税（千円）
1	⑭ 基金積立（木材利用等）	3,835	3,835
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	3,835	3,835

令和7 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	東員町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
1	みえ森と緑の県民税市町交付金事業（危険木伐倒等業務）				
事 業 費	2,678,500 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,515,890	0	162,610

1. 事業の目的				
住宅や通学路、公園内に近接する森林における危険木除去を行い、暮らしに身近な森林として整備することにより、生活環境の保全や暮らしの安全性の向上を図る。				
2. 事業の実績				
【事業内容】 人家裏や通学路、公園など、荒廃が進んでいる森林地帯を対象として、倒木になる恐れのある危険木の除去・間伐を行う。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 東員町 【実施個所及び箇所数】 東員町大字長深地内（近隣住民約2,000人） 東員町笹尾地内（近隣住民約12,000人） 【事業量】 危険木伐倒 長深地区 44本 笹尾地区 30本				
3. 事業の実施方法				
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】				
①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	建設業者	補助事業ではない		
【委託先及び補助対象者等の選定理由】 町内業者による入札（一般競争）により、請負者を選定。				

4. 事業の効果・工夫		
【事業実施により期待される効果】		
みえ森と緑の県民税市町交付金を充当する事業を実施し荒廃が進んでいた緑地帯の再生が進むことにより、森林環境の保全及び地域住民の生活安全を守る。		
【効果を発揮させるための工夫・取組】		
施工時に工事看板とともに「みえ森と緑の県民税市町交付金事業」を活用し事業を実施している旨のポスター看板を設置し、近隣住民に周知を図った。		
【新たな対策・視点及び改善点】		
本来は、森林所有者において整備するものであるということを意識づけていく必要がある。		
また、地元説明会において、「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用し、事業を行うことを説明するとともに、森林整備の重要性を幅広く知ってもらう。		
【受益者及び、期待する波及効果】		
受益者	近隣住民約14,000名	
期待する波及効果	森林環境の保全及び地域住民の生活安全の向上	
【公的関与の必要性】		
森林所有者が複数人おり、所有者個人で森林整備を行うことが困難であるため、町が実施することが妥当である。		
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】		
森林所有者に整備をしていくことを促す。		
5. 情報発信		
【情報発信の内容】		
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
回覧板・掲示板	実施前	住民への回覧や説明にパンフレット、チラシを活用
6. 写真及びその他資料		
別紙のとおり		
7. その他特記事項（受益者の反応等）		
地元の住民から好意的な声が聞かれた。		

第10号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	東員町	新規・継続の別	継続
事業名	みえ森と緑の県民税市町交付金事業（危険木伐倒等業務）				



写真1
施工前（長深）



写真2
施行後（長深）



写真3
施工前（長深）



写真4
施工後（長深）



写真5
施工前（笹尾中央公園）



写真6
施工後（笹尾中央公園）

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	東員町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
2	みえ森と緑の県民税市町交付金事業（森林教育授業）				
事 業 費	83,490 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			83,490	0	0

1. 事業の目的

小学生を対象とした森林環境教育を行うことにより、森林の大切さや木材利用の意義を学び、森林や木、木材に親しみ、自ら考え、判断して行動できる人づくりを行う。

2. 事業の実績

【事業内容】

町内小学校により、認定NPO森林の風による森林教育を実施し、森林の機能や大切さを学ぶ機会や、自然の中にある樹木、植物などに触れる機会を創出することにより、自然環境の役割を考え、行動していく力を養う。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

東員町

【実施個所及び箇所数】

城山小学校 5年生 26名

城山小学校裏山の広場及び森の遊歩道

【事業量】

みえ森と緑の県民税の説明・植樹体験（ガクアジサイ、アセビ）・木登り体験（ロープワーク、巻き結び）・丸太切り体験（大ノコギリ使用）・年輪教室等

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	活動団体	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

みえ森づくりサポートセンターの「森のせんせい」登録団体であり、活動フィールドである企業の森「TOYOTIRES緑のつながり・三重」の管理運営団体であるため。

4. 事業の効果・工夫		
【事業実施により期待される効果】		
自然の中にある樹木、植物についても触れる機会を創出し、また、木材利用、木工体験などにも触れ楽しむことにより、自然環境の役割を考え、行動していく力を養う。		
【効果を発揮させるための工夫・取組】		
身近にある森林について授業を行うことにより、日常から森林に対する意識を醸成する。		
【新たな対策・視点及び改善点】		
学校関係者から継続を望む声があり、みえ森と緑の県民税を活用した町事業として実施することとした。		
【受益者及び、期待する波及効果】		
受益者	城山小学校 5年生 26名	
期待する波及効果	学習内容を家庭に持ち帰ることにより、森林保全の大切さを広げることができる。	
【公的関与の必要性】		
小学校の児童が対象となるため。		
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】		
なし		
5. 情報発信		
【内容】		
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
チラシ等配布	実施中	児童や保護者等にパンフレット、チラシを配布
6. 写真及びその他資料		
別紙のとおり		
7. その他特記事項（受益者の反応等）		
参加した児童の反応が好意的であった。		

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	東員町	新規・継続の別	継続
事業名	みえ森と緑の県民税市町交付金事業（森林教育事業）				

7の（1）. 写真



写真1
実施風景



写真2
丸太切体験



写真3
木登り体験

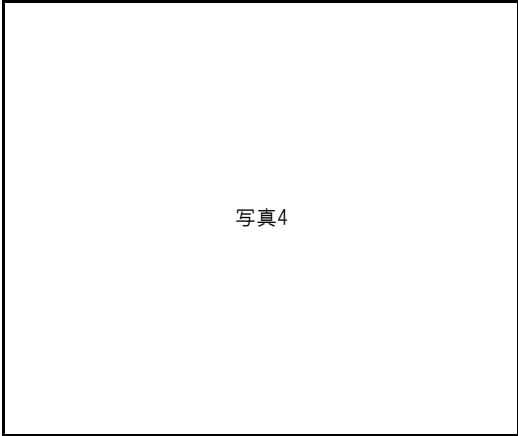


写真4



写真5



写真6

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	東員町	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
3	みえ森と緑の県民税市町交付金事業（公共施設等の備品等購入）				
事 業 費	3,700,620 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			3,700,620	0	0

1. 事業の目的				
町内の公共施設において乳幼児を対象とした木製品の配布を行うことにより、木に触れ合う機会を創出し、木材利用の意義について理解を深めてもらい、関心をもってもらえる場をつくり、森林教育を進めていく。 また、町内保育施設において老朽化した靴箱を木質製品に一新し児童に木に触れ合う機会を創出し、木のぬくもりに関心をもってもらえることにより、森林教育を進めていく。				
2. 事業の実績				
【事業内容】 町内の施設において乳幼児を対象とした木製品の配布を行うことにより、木に触れ合う機会を創出し、木材利用の意義について理解を深めてもらい、関心をもってもらえる場をつくり、また、町内保育施設において老朽化した靴箱を木質製品に一新し児童に木に触れ合う機会を創出し、木のぬくもりに関心をもってもらえることにより、森林教育を進めていく。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 東員町 【実施個所及び箇所数】 子育て支援室、神田幼稚園、東員保育園 【事業量】 木製おもちゃ220個、お食い初め用箸200膳、木製靴箱9台				
3. 事業の実施方法				
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】				
①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
物品購入	木工製造業者	補助事業ではない		
【委託先及び補助対象者等の選定理由】				
県産材木材を使用し、指定する木質製品を加工することのできる業者に随意契約により、請負者を選定。				

4. 事業の効果・工夫		
【事業実施により期待される効果】		
乳幼児へ木製製品を提供することにより、将来に渡り森林や木材に関心を持ってもらう土台を作成する。 児童が木に触れ合い木のぬくもりやにおいを体感し森林への関心を深めることにより、自然の恵みに対する価値観を広げ、木材利用や森づくりへの理解を深める場として活用する。また、将来に渡り、森林や木材に関心を持ってもらう土台を作成する。		
【効果を発揮させるための工夫・取組】		
お食い初め用箸に「みえ森と緑の県民税」のロゴマークを刻印し、町民等に直接的に周知を図る。 また靴箱に「みえ森と緑の県民税」のロゴマークを刻印し、園児及び保護者等に直接的に周知を図る。		
【新たな対策・視点及び改善点】		
令和7年度は、乳幼児に木製の箸や木製おもちゃを配布して木にふれあえる環境を整える。また神田幼稚園、東員保育園の靴箱導入し木材ふれあえる環境を整えた。		
【受益者及び、期待する波及効果】		
受益者	母子 約220名	
期待する波及効果	児童や保護者を通じて、木材利用の意義を伝達することが期待される。	
【公的関与の必要性】		
町立の施設への備品導入であることから、町が実施することが妥当である。		
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】		
役場において管理を行う。		
5. 情報発信		
【内容】		
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
チラシ等配布	実施中	住民への回覧や説明にパンフレット、チラシを活用
6. 写真及びその他資料		
別紙のとおり		
7. その他特記事項（受益者の反応等）		
園関係者及び保護者から好意的な声が聞かれた。		

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	東員町	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	みえ森と緑の県民税市町交付金事業（公共施設等の備品購入）
-----	------------------------------

7の（1）. 写真



写真1
母子保健用おもちゃ



写真2
お食い初め用箸



写真3
靴箱



写真4
刻印

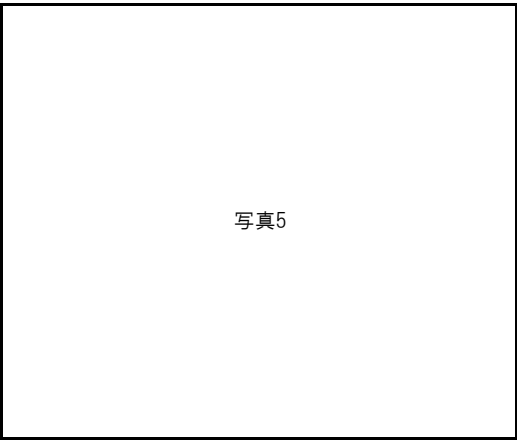


写真5

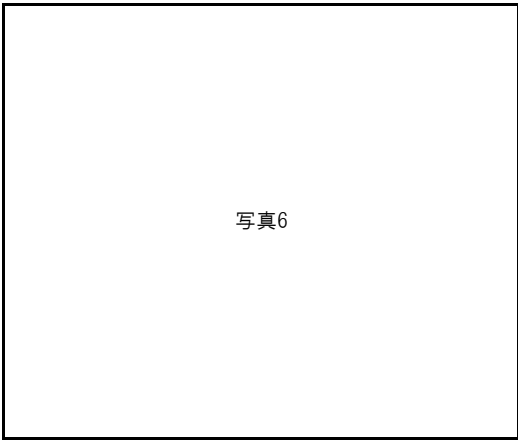


写真6

菰野町

令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報（令和5年度版三重県市町要覧による）

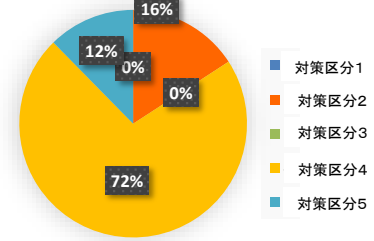
市町名	菰野町	三重県
人口（人）	40,559	1,742,703
年少人口割合（％）＊1	13.6%	11.6%
森林面積(ha)	5,313.00	372,030.08
民有林面積(ha)＊2	5,237.00	348,561.87
森林率(%)	50.0%	64%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	4.5	10.6

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区別事業費割合 ★①-5、②-5



2. 令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）					
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5
1	2	危険木伐採搬出事業	771,000	771,000		771,000			
2	4	幼児期から木に親しむ木育推進事業	1,524,803	1,502,033				1,502,033	
2	4	保育所等木製遊具購入補助事業	1,500,000	1,500,000				1,500,000	
2	4	木と触れ合う環境整備事業	495,000	495,000				495,000	
3	5	シデコブシ湿地群環境整備事業	601,700	601,700					601,700
				0					
計			4,892,503	4,869,733	0	771,000	0	3,497,033	601,700

3. 令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量	事業費 (円)	内交付金充 当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
災害からライフラインを守る事前伐採事業	0.08ha 16本伐採	1,389,258	694,629	菰野町菰野地内において事前伐採16本（補償費含）
県民参加の植樹祭事業				

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	菰野町は、鈴鹿山脈の麓に位置する自然豊かな環境に恵まれた場所にあり、湯の山温泉や御在所ロープウェイなど、四季折々の自然を満喫できる観光スポットを有しており、多くの観光客が訪れます。このような中で、みえ森と緑の県民税を活用し、基本方針でもある「災害に強い森林づくり」の推進のため、病虫害や松枯れなど、倒木の恐れがある危険木の除去を進めることで、地域住民の安全な生活環境を守るとともに、「県民全体で森林を支える社会づくり」の推進のため、当町の森林資源を活用して地域住民や当町を訪れる人が地元の森林環境の魅力を感じ、自然環境保全の大切さや森林資源活用の意義について考え、学ぶ場の整備を進めます。
事業実施により期待される効果	公共の道路に倒木の可能性がある又はライフラインに支障を与える可能性がある危険木を事前伐採することにより、通行者に対する安全の確保及び電線断線の危険の排除ができ、また、病虫害による被害拡散を防止することで地域住民の安全な生活環境の保全に繋がっている。 また町内幼保園や子育て支援センターで使用する遊具や家具を購入することにより、施設利用者やその保護者に活用していただいております、菰野町を含めた森林環境の魅力を感じ、木材活用の大切さを学ぶ貴重な場となっている。
情報発信への取組	伐採作業時はのぼり旗を使うことにより、みえ森と緑の県民税を使って作業していることを通行者にPRした。また、町のホームページで事業報告を行う。木育推進事業においては、購入した家具・遊具に対して、焼き印もしくはシールによりロゴを入れて、みえ森と緑の県民税を活用していることを周知している。

年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		（千円）	内、譲与税（千円）
1	① 意向調査の準備作業	13,917	13,917
2	③ 私有林整備	2,119	2,119
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	16,036	16,036

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	菰野町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
1	危険木伐採搬出事業				
事 業 費	771,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			771,000		

1. 事業の目的

菰野町内において病虫害やナラ枯れ等により倒壊した場合に道路や通行人、利用者等に被害を与える恐れにある樹木の伐採を行い、住民の生命や財産を守ることを目的にする。また、病虫害やナラ枯れ等の被害の拡散防止に努める。

2. 事業の実績

【事業内容】

国道、県道及び町道等から20m以内の危険木の伐採、搬出、処理に対して助成を行う。
（令和6年度から不特定多数が通行する東海自然歩道や登山道等を対象に追加）

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

個人、区、生産森林組合等

【実施箇所及び箇所数】

町内5か所

【事業量】

病虫害被害木49本

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	個人	1/2以内	1本あたり100,000円	不特定多数が通行する登山道等の場合、上限200,000円/本

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

申請者の申し出による（業務委託先については申請者による見積合わせ）

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	菰野町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
1	危険木伐採搬出事業				
事業費	771,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			771,000		

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

倒木の危険がある樹木を伐採することにより、国道、県道及び町道の通行車両及び人の安全が確保されると同時に枯損木を除去することで景観もよくなる。また病害虫やナラ枯れの被害の拡散防止にもつながる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

事業を行った地区については、地区での会議等により事業の内容及び状況を説明していただくとともに、同様樹木の情報収集を行っていただいている。

【新たな対策・視点及び改善点】

森林所有者のみでなく自治会等に制度のPRを行うようにし、危険性が高い木については地域から所有者への働きかけによって事前伐採を行うよう必要性を伝えていく。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	土地所有者、道路利用者
期待する波及効果	地元住民の安全な生活環境を提供できる。

【公的関与の必要性】

所有者の責ですべきことであるが、地元住民の安全な生活環境に関わる取組であるため公的な関与が必要である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
のぼり設置	実施中	事業実施中において、施行箇所においてのぼりを設置しPRを実施。
HP掲載	実施後	当該年度の活動について、HPにて広報を行った。
チラシ等配布	実施前・中・後	各自治体等に当事業及びみえ森と緑の県民税に関するチラシ等を配布し、事業の周知及び県民税の必要性について周知を行う。

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

倒壊する危険性が目に見えていたため、怖いと感じる方がいたが、当事業により安心感を与えることができた。

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	菰野町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	危険木伐採搬出事業
-----	-----------

6(1). 写真

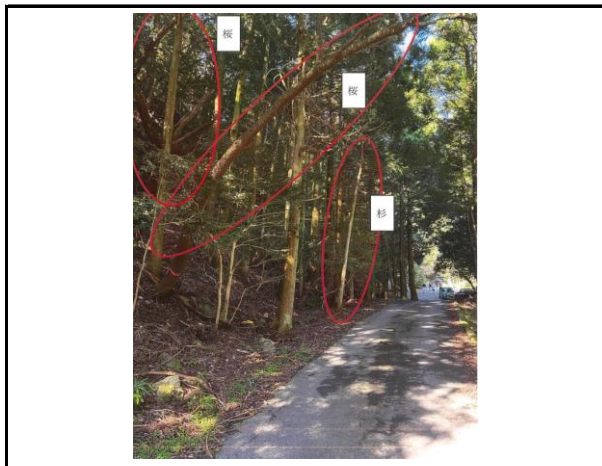


写真1

施工前（菰野生産森林組合）



写真2

施工後（菰野生産森林組合）



写真3



写真4



写真3



写真4



写真5



写真6



写真5



写真6

【様式集②②】 第10号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	菰野町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	危険木伐採搬出事業
-----	-----------

6(2).補助事業者取組一覧

[illegible]

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	菰野町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
2	幼児期から木に親しむ木育推進事業				
事 業 費	1,524,803 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,502,033		22,770

1. 事業の目的

菰野町内の幼保園において、木製遊具を通じ、感性豊かな幼児期から木と触れあう環境を整備し、子どもの豊かな成長を支援するとともに、世代を超えた交流や、地元の森や緑を愛する心を育て、環境を守る人づくりにつなげる。

2. 事業の実績

【事業内容】

木製玩具(本棚、積木、ままごとセット、小型おもちゃ他)を導入・設置。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

菰野町

【実施個所及び箇所数】

町内7 幼保・こども園

【事業量】

木製玩具(本棚、積木、ままごとセット、小型おもちゃ他)

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
物品購入	木工製造業者	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

補助事業ではない。

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり		市町名	菰野町	新規・継続の別	継続
------	-------------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
2	幼児期から木に親しむ木育推進事業				
事 業 費	1,524,803 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,502,033		22,770

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

木のぬくもりや手触り、木の香りに触れることで、子どもの五感を刺激し、心身の豊かな成長を促すことや親子の癒しも期待出来る。電子おもちゃでは難しい遊びの広がりや想像力の向上と、自然や環境に親しみを感じると共に木の文化の伝承につながる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

各園に要望を取り、それぞれの幼保・こども園による特色を活かした購入を行うことによって、子供たちが使いやすいものを導入できる。

【新たな対策・視点及び改善点】

幼保園において木製遊具を導入することにより、子どもの豊かな成長を支援するとともに、世代を超えた交流や、地元の森や緑を愛する心を育てることができる。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	町内7幼保園・こども園：約1,000人
期待する波及効果	子どもの豊かな成長を支援するとともに、地元の森や緑を愛する心を育てる。

【公的関与の必要性】

公立幼保園・こども園は菰野町が運営している。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

各園で管理を行うため、目的外使用のおそれはない。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
ロゴマーク掲示 (シール・プレート)	実施後	導入物品に焼き印もしくはシールによりロゴを掲示
HP掲載	実施後	当該年度の活動について、HPにて広報を行った。

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

本製品は、園児等が木材に多く触れることができ、肌さわりの木香り等を感じることができるものであり、木材が身近なものであるとの理解が広がった。

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	菰野町	新規・継続の別	継続
事業名	幼児期から木に親しむ木育推進事業				

6(1). 写真



写真1

木製電車玩具（菰野東こもの園）



写真2

木製わにの玩具、パズル（菰野西こども園）



写真3

本棚（鵜川原幼保園）



写真4

木製レジスター玩具（朝上こども園）



写真5

木製パズル玩具（千草幼保園）



写真6

ひもと木製積み木玩具（菰野こども園）

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	菰野町	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
3	保育所等木製遊具購入補助事業				
事 業 費	1,500,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,500,000		

1. 事業の目的

菰野町内の私立保育所において、木製遊具を通じ、感性豊かな幼児期から木と触れあう環境を整備し、子どもの豊かな成長を支援するとともに、世代を超えた交流や、地元の森や緑を愛する心を育て、環境を守る人づくりにつなげる。

2. 事業の実績

【事業内容】

木製家具・遊具等の導入に対し、1施設当たり500,000円を上限とし、補助金を交付する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

菰野町内3私立保育所

【実施個所及び箇所数】

菰野町内3私立保育所

【事業量】

500,000円/1施設×3施設=1,500,000円

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	その他	定額補助	500,000円/施設	私立保育所

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

菰野町内の認定私立保育所3園

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり		市町名	菰野町	新規・継続の別	継続
------	-------------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
3	保育所等木製遊具購入補助事業				
事 業 費	1,500,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,500,000		

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

木のぬくもりや手触り、木の香りに触れることで、子どもの五感を刺激し、心身の豊かな成長を促すことや親子の癒しも期待出来る。電子おもちゃでは難しい遊びの広がりや想像力の向上と、自然や環境に親しみを感ずると共に木の文化の伝承につながる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

各園に補助することで、園ごとの特色を活かした購入を行うことができるため、子供たちが使いやすいものを導入できる。

【新たな対策・視点及び改善点】

私立保育所において木製遊具等を導入することにより、子どもの豊かな成長を支援するとともに、世代を超えた交流や、地元の森や緑を愛する心を育てることができる。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	私立保育所等利用者：約300人
期待する波及効果	子どもの豊かな成長を支援するとともに、地元の森や緑を愛する心を育てる。

【公的関与の必要性】

公立幼保園・こども園との均衡を図るため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

各園で管理を行うため、目的外使用のおそれはない。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
ロゴマーク掲示 (シール・プレート等)	実施後	導入物品に焼き印もしくはシールによりロゴを掲示
HP掲載	実施後	当該年度の活動について、HPにて広報を行った。

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

木製遊具等は他の遊具等よりも人気が高く、子どもたちからの要望も増えている。

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	菰野町	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	保育所等木製遊具購入補助事業
-----	----------------

6(1). 写真

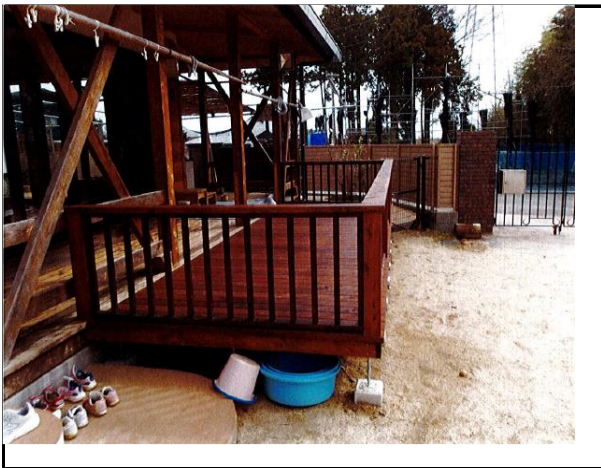


写真1

ウッドデッキ（森の風こども園）



写真2

ウッドデッキ（森の風こども園）



写真3

木製遊具（たいりん保育園）



写真4

木製遊具（たいりん保育園）



写真5

片付け棚（聖マリアこども園）



写真6

写真6

【様式集②②】 第10号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	菰野町	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	保育所等木製遊具購入補助事業
-----	----------------

6(2).補助事業者取組一覧

[illegible]

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	菰野町	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
4	木と触れ合う環境整備事業				
事 業 費	495,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			495,000		

1. 事業の目的

年間のべ3万人が利用する菰野町農村環境改善センターにおいて、パネル展示等によりみえ森と緑の県民税に関する情報を発信するとともに、利用者が利用する備品に木製備品の導入や、みどりの少年隊等を対象とした木工体験教室を実施することにより、木と身近に触れ合う機会を創出し、子どもの豊かな成長を支援するとともに、世代を超えた交流や、地元の森や緑を愛する心を育て、環境を守る人づくりにつなげる。

2. 事業の実績

【事業内容】

菰野町が菰野町農村環境改善センター内に木製机5台を導入し、みえ森と緑の県民税PRブースを常設する。
みどりの少年隊等による木工体験を実施する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

菰野町

【実施箇所及び箇所数】

実施箇所 菰野町農村環境改善センター 1箇所

【事業量】

木製机 5つ

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
物品購入	木工製造業者	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

補助事業ではない。

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり		市町名	菰野町	新規・継続の別	新規
------	-------------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
4	木と触れ合う環境整備事業				
事 業 費	495,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			495,000		

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

木のぬくもりや手触り、木の香りに触れることで、子どもの五感を刺激し、心身の豊かな成長を促すことや親子の癒しも期待出来る。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

年間のべ3万人が利用する菰野町農村環境改善センターにおいて、パネル展示等に行い、みえ森と緑の県民税に関する情報の発信の場としているが、その場所に、当該机を設置することにより、多くの人の目に触れる機会をつくる。

【新たな対策・視点及び改善点】

子どもだけではなく、大人も含め利用者へみえ森のPRを行うことができる。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	農村環境改善センター利用者：約3万人
期待する波及効果	利用者へみえ森のPRを行うことができる。

【公的関与の必要性】

菰野町農村環境改善センターは菰野町所有の公的施設である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

菰野町農村環境改善センターは菰野町所有の公的施設であり、条例等に基づき管理を行っている。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
ロゴマーク掲示 (シール・プレート等)	実施後	導入物品に焼き印もしくはシールによりロゴを掲示
その他	実施後	植樹祭りのイベントに使用

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

木製机は、今まで、目に入る機会が少なかったため、利用者の多くが関心をもっていた。

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	菰野町	新規・継続の別	新規
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	木と触れ合う環境整備事業
-----	--------------

6(1). 写真

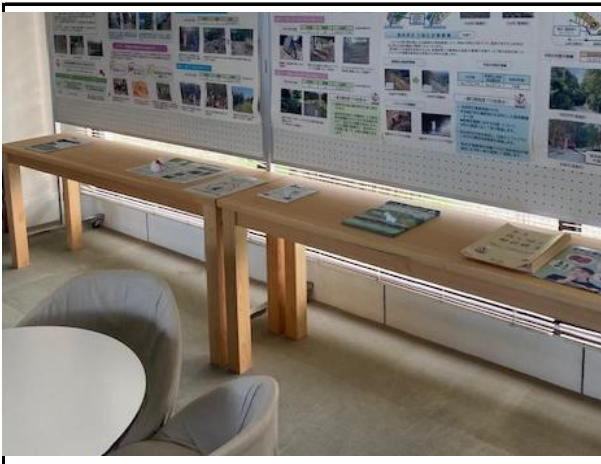


写真1

みえ森とみどりの県民税のPRと木製机



写真2

みえ森とみどりの県民税のPRと木製机

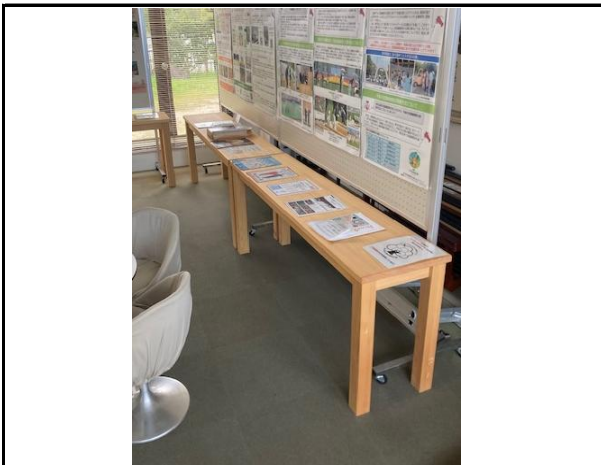


写真3

みえ森とみどりの県民税のPRと木製机



写真4

写真4



写真5

写真5



写真6

写真6

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	菰野町	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
5	シデコブシ湿地群環境整備事業				
事 業 費	601,700 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			601,700		

1. 事業の目的

菰野町田光の国指定天然記念物である「シデコブシ及び湿地植物群落」において観察会を実施し、身近な森林や里山に触れるとともに、来訪者に対して菰野町の森林環境の魅力を感じてもらうことで、自然環境保全の大切さや森林資源活用の意義について考える場を提供する。

2. 事業の実績

【事業内容】

「シデコブシ観察会」の実施

「シデコブシ及び湿地植物群落」の環境整備のための機材貸出

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

菰野町

【実施個所及び箇所数】

シデコブシ及び湿地植物群落内

【事業量】

草刈り機 小型運搬機 各1台

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
物品購入	小売業者	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

補助事業ではない。

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり		市町名	菰野町	新規・継続の別	新規
------	--------------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
5	シデコブシ湿地群環境整備事業				
事 業 費	601,700 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			601,700		

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

菰野町田光の国指定天然記念物「シデコブシ及び湿地植物群落」の周辺林地において、下草刈りを行うことにより、シデコブシや湿地植物等を守ること、当該地の景観がよくなる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

地域住民に当該物品を使用してシデコブシ周辺の除草管理を行って頂くことにより、時間的ロスを減及び、最適時に迅速に除草を行うことができる。

【新たな対策・視点及び改善点】

国指定天然記念物である田光のシデコブシ及び湿地植物群落を守ることにより、森林に気軽に触れることができるとともに、重要性について触れる機会を与えることができる。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	田光区内住民及び「シデコブシ及び湿地植物群落」来訪者 約500名
期待する波及効果	菰野町田光の国指定天然記念物「シデコブシ及び湿地植物群落」の周辺林地において、下草刈りを行うことにより、シデコブシや湿地植物等を守ること、当該地の景観がよくなる

【公的関与の必要性】

「シデコブシ及び湿地植物群落」は国指定天然記念物であり、その貴重な植物等の保護を行うあたり、公的な関与を行うことは妥当である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

当該物品は、当町から任命したパトロール員が適切に管理しており、適時連絡をとっている。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
その他	実施後	「シデコブシ及び湿地植物群落」の来訪者に貴重な自然に触れる機会を提供し自然保護について認識してもらう。

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

今回の農機の導入によりシデコブシ群落の整備が進み保全に貢献できた。

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	菰野町	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	シデコブシ湿地群環境整備事業
-----	----------------

6(1). 写真



写真1

小型運搬機



写真2

草刈機



写真3



写真4



写真3



写真4



写真5



写真6



写真5



写真6

朝 日 町

令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 市町別総合評価シート

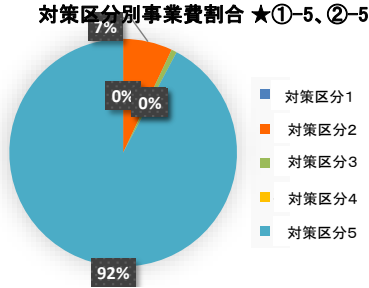
1. 基礎情報（令和5年度版三重県市町要覧による）

市町名	市町名	三重県
人口（人）	11,140	1,742,703
年少人口割合（％）＊1	17.5%	11.6%
森林面積(ha)	63.21	372,030.08
民有林面積(ha)＊2	63.21	348,561.87
森林率(%)	11.0%	64%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	2.1	10.6

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園



2. 令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）						
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5	基金積立
1	2	里山・竹林環境保全支援事業（あさひ竹プロジェクト）	599,208	450,000		450,000				
2	3	森林環境教育事業（あさひ竹プロジェクト）	74,513	50,000			50,000			
3	5	教育文化施設ビオトープ再生整備事業	6,789,200	5,922,000					5,922,000	
計			7,462,921	6,422,000	0	450,000	50,000	0	5,922,000	0

3. 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量	事業費 (円)	内交付金充 当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
災害からライフラインを守る事前伐採事業				
県民参加の植樹祭事業				

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	当町は三重県一小さい自治体であり森林面積も約63haと狭小であるが、63haの25%に当たる約16haが竹林であり、竹林割合の高さでは県内である。また、人口が増加し続け子どもが多い若い町であり年少人口（15歳未満人口）割合も県内である。 これらの特徴を踏まえ、町と町民により適正に管理された竹林・里山・緑地や、そこから生み出される生産物等を通じ、若年層や親子が森や緑と親しめる取り組みに県民税を活用することで、竹林・里山・水辺が地域の中で魅力を発揮している姿を目指す。 その実現のため、あさひ竹プロジェクトの一環として、町民による自主的な竹林・里山整備を支援する「里山・竹林環境保全支援事業」、竹を使った様々な体験・学びの場を創出する「森林環境教育事業」を実施する。また、町民が身近な水辺空間を楽しみ、生物多様性に係る認識を深めることを目指す「教育文化施設ビオトープ再生整備事業」を実施する。
事業実施により期待される効果	この事業実施により、町民が自然環境の保護に積極的に参加し、竹林や里山の整備が進むとともに、朝日町教育文化施設内のビオトープの再生が進みます。この取り組みにより、地域住民の環境意識が高まり、持続可能な地域づくりが促進されます。ビオトープの再生は、身近な自然空間としての価値を高め、生物多様性の保全に貢献するとともに、次世代への環境教育が進みます。また、竹林や里山の再生と合わせて、地域コミュニティの強化が図られ、住民にとって快適で親しみやすい生活空間が提供されることが期待されます。
情報発信への取組	町の広報紙等を通じた一般的なPRを実施した。また、パネル展の来場者に対してアンケートを実施し、みえ森と緑の県民税の存在を周知することができた。

令和7年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		（千円）	内、譲与税（千円）
1	⑰ 基金積立（森林整備等）	1,376	1,376
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	1,376	1,376

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	朝日町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
1	里山・竹林環境保全支援事業（あさひ竹プロジェクト）				
事 業 費	599,208 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			450,000		149,208

1. 事業の目的

あさひ竹プロジェクトの一環として、町民による自律的な竹林・里山整備に係る活動を支援し、持続的な活動へとつなげることで町内の竹林・里山の安全性を高め、生活環境を向上させる。また、これらを通じ若年層や親子が森や緑と親しむ場として、竹林・里山が地域の中で魅力を発揮している姿を目指す。

2. 事業の実績

【事業内容】

- ・町内の地域団体が自主的、計画的に里山や竹林を整備する、または里山や竹林への関心を高める取組みに対して事業費の一部を補助する。
- ・貸出しているチップパー（樹木粉碎機）のメンテナンスを行う。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

埋縄農家組合、小向里山保全会 竹切の翁

【実施個所及び箇所数】

埋縄地区の竹林、小向地区の里山 計2箇所
朝日町所有のチップパー（樹木粉碎機） 1台

【事業量】

町内竹林・里山 計0.6ha

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	活動団体	3/4以内	上限50万円	
委託事業	その他	補助事業ではない		チップパーのメンテナンス

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

- ・町民主体により組成された、規約等を備え、代表者・会計担当者が明確であり、民主的に運営が行われている団体であること。
- ・複数年度に渡る計画的な里山整備を実施する団体であること。
- ・チップパーのメーカーのサービス指定工場であること。

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	朝日町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
1	里山・竹林環境保全支援事業（あさひ竹プロジェクト）				
事 業 費	599,208 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			450,000		149,208

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

町民による自律的な竹林・里山整備に係る活動が持続的な活動へとつながり、町内の竹林・里山の地域における交流拠点としての機能を向上させ、安全性を高める。これらを通じ若年層や親子が森や緑と親しむ場として、活用している姿が期待できる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

令和4年度にみえ森と緑の県民税を活用し町で購入したチップperを貸し出すことで効率的な整備に繋がっている。整備された竹林でたけのこ掘体験を実施し、参加者から参加費を徴収することで自主財源の一部となっている。

【新たな対策・視点及び改善点】

これまで、貸出しているチップper（樹木粉碎機）については、不具合が生じた際に都度修繕を行う対応としていたが、機器の安定的な稼働及び故障の未然防止を図るため、令和7年度から定期的にメーカー指定工場による点検・メンテナンスを実施することとした。これにより、里山整備活動における作業効率の維持・向上及び安全性の確保を図る。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	生活環境が向上する2地区 約800戸
期待する波及効果	自主的な里山整備が進み、整備された場所での親子たけのこ掘り体験等の企画に繋がっている。

【公的関与の必要性】

放置された里山・竹林の問題は所有者個人の問題となりがちであるが、放置竹林等への問題意識を持つ住民による自主的な里山整備を行政が支援することで、里山を地域資源として捉え町民全体で解決を図る機運醸成に繋げる。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

補助事業により購入された物品等は各団体により適切に管理するものとする。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
その他	実施中	区長会にて里山整備に係る補助金の周知
HP掲載	実施中	チップper（樹木粉碎機）の貸し出しについて掲載

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

補助金により効率的な里山整備に繋がっており、参加者も増加している。たけのこ掘り体験に参加した親子へのアンケートではほとんどの人が「里山保全の団体へ興味を持った」と回答を得ている。

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	朝日町	新規・継続の別	継続
事業名	里山・竹林環境保全支援事業（あさひ竹プロジェクト）				

6(1). 写真



写真1

小向里山保全会 竹切の翁 竹伐採前



写真2

小向里山保全会 竹切の翁 竹伐採後



写真3

埋縄農家組合 竹伐採前



写真4

埋縄農家組合 竹伐採後



写真5

小向里山保全会 竹切の翁へチップー貸出

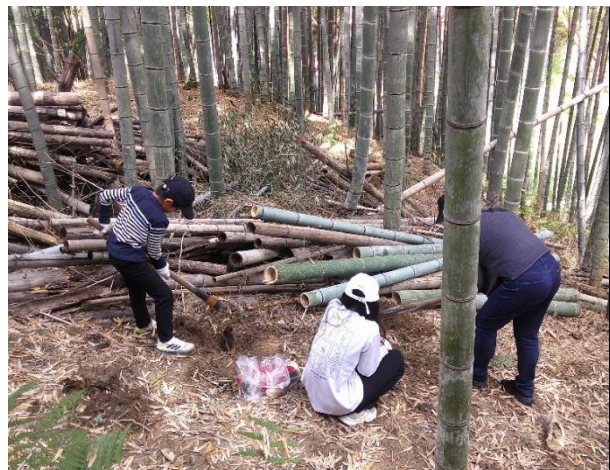


写真6

埋縄農家組合 親子たけのこ堀り体験

【様式集②②】 第10号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	朝日町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	里山・竹林環境保全支援事業（あさひ竹プロジェクト）
-----	---------------------------

6(2).補助事業者取組一覧

[illegible]

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	朝日町	新規・継続の別	継続
事業名	里山・竹林環境保全支援事業（あさひ竹プロジェクト）				

6(3).その他

樹木粉碎機（チップパー）の貸し出しについて（朝日町公式HPより）

樹木粉碎機（チップパー）の貸し出しを行っています！

更新日：2026年3月20日

朝日町では、里山整備や竹林整備など、地域での森林づくり活動を支援するため、樹木粉碎機（チップパー）の貸し出しを行っています。伐採した枝木や竹をその場で粉碎することで、運搬量の軽減や資源の有効活用につながります。ご関心がある方はご連絡下さい。

なお、この事業は「みえ森と緑の県民税」を活用して実施しています。

貸出対象者：町内に住所を有し、町内の里山等を対象とした計画的な整備活動を実施する団体。ただし営利を目的とした団体には貸出しをしない

貸出期間：7日間

貸出費用：無料（ただしチップパーの燃料費や運搬経費等は借用団体が負担）



スペック：

株式会社大橋 樹木粉碎機GS152GH

燃料：ガソリン

最大出力：16.9KW程度

処理可能径：最大150mm程度



みえ森と緑の県民税

みえ森と緑の県民税公式ロゴマーク



PEEK-A-BAMBOO!あさひ竹プロジェクト公式ロゴマーク

このページに関する問い合わせ先

産業建設課

電話番号：059-377-5658

ファクス：059-377-4543

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	朝日町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
2	森林環境教育事業（あさひ竹プロジェクト）				
事 業 費	74,513 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			50,000		24,513

1. 事業の目的

あさひ竹プロジェクトの一環として、竹林面積割合が県内一である特徴を活かし、竹を地域資源として見つめ直し、竹を通じた新旧住民の交流を生み出すことで、町全体で竹・竹林の活用や課題解決に向けた関心を喚起することを目的とする。

2. 事業の実績

【事業内容】

- ①町民が集う場において竹あかりを展示するイベントを実施した。
- ②町民主体による竹の花挿しを東海道に設置する取組を支援した。
- ③工具を貸出し自宅で作る「おうちで作ろう、竹あかり！」を実施した。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

朝日町（一部町民主体により実施）

【実施個所及び箇所数】

2箇所（朝日町体育館、東海道沿い）

【事業量】

展示イベント来場者50名、竹の花挿し設置参加者数41名、竹あかり道具貸出65件

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
直営		補助事業ではない		講師への依頼と物品購入により実施

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

直営の為、該当なし

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	朝日町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名					
2	森林環境教育事業（あさひ竹プロジェクト）					
事 業 費	74,513 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			50,000		24,513	

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

三重県一竹林面積割合が高い当町において、子ども、親子、地域住民が竹の魅力に触れることをきっかけに、町内の竹林が荒廃しつつある現状への問題意識を高め、住民主体による自律的な竹林整備につなげる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

里山保全にて団体が伐採した竹をもらい、職員が加工した物を竹あかりの材料として提供している。

【新たな対策・視点及び改善点】

これまで町民主体による取組への移行を進めてきた結果、竹あかりの製作や展示活動が地域内で定着しつつある。

また、町の他部署において町単費で「竹バームクーヘンづくり教室」や「竹水鉄砲合戦」が実施されていることも附記する。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	展示イベント来場者数50人 町民等の主催による竹の花挿し設置参加者41軒 竹あかり道具貸出65件
期待する波及効果	これまでの取組の結果町民の竹・竹林への関心は確実に高まっており、既に実現した里山整備団体への参加者促進効果や森林環境への関心の向上が期待される。

【公的関与の必要性】

竹林の問題は竹林所有者個人の問題となりがちであるが、竹や竹林の魅力に触れ、関心を持つきっかけを行政が作ることで竹林と無関係である住民も含めて竹林を地域資源としてとらえ、町民全体で解決を図る機運醸成に繋げる。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

購入した工具類等については引き続き役場により適切に管理する。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
広報誌掲載	実施中	竹あかりについて広報紙に掲載

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

町の経費としては減っているが衰退している訳でなく、町民主体により活動は活発化しており当初の目指す姿の通りである。竹あかり道具貸出については、材料の竹も提供しており、申込者からはとても喜ばれており好評である。

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	朝日町	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森林環境教育事業（あさひ竹プロジェクト）
-----	----------------------

6(1). 写真



写真1

竹の花挿し（東海道沿い）



写真2

竹の花挿し（東海道沿い）



写真3

竹あかりの展示（オータムフェス）

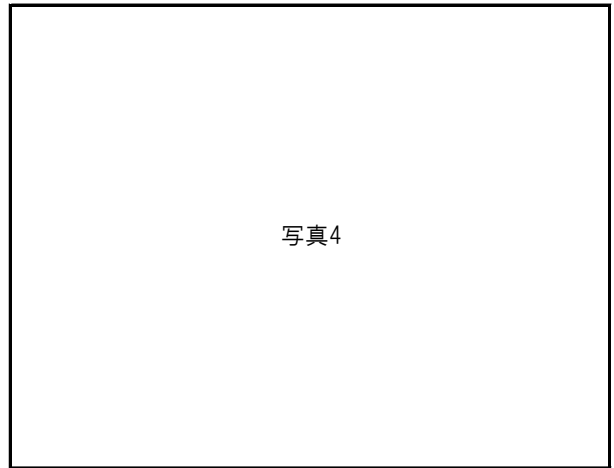


写真4

写真4



写真5

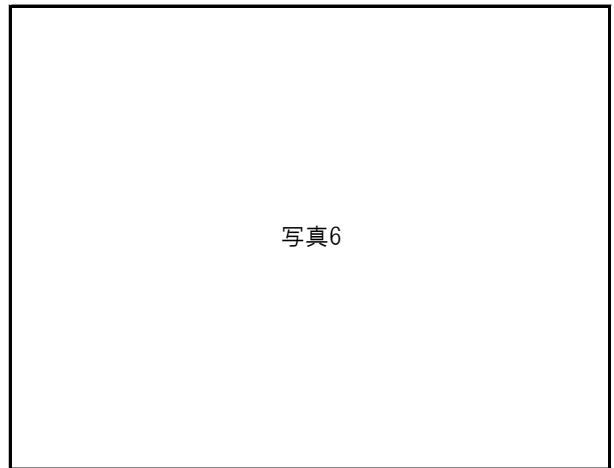


写真6

写真5

写真6

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	朝日町	新規・継続の別	継続
事業名	森林環境教育事業（あさひ竹プロジェクト）				

6(3).その他

あさひ竹プロジェクトについて（広報あさひ7月号）



みえ森と緑の県民税活用事業

夏休みの工作にもピッタリ！



PEEK-A-BAMBOO！あさひ竹プロジェクト

「おうちでつくろう、竹あかり！」申込受付中です！

竹あかりとは、竹に穴をあける等の加工をし、光源を入れることで幻想的な光を放つ作品です。例年好評の「おうちでつくろう！竹あかり」を今年度も実施します！竹あかりを作るために必要な材料および工具等一式を希望者に貸し出しますので、自分だけの竹あかりづくりにぜひチャレンジして下さい！完成した作品はご自宅等に飾ってお楽しみ下さい。また、年度内に町内で竹あかりを展示する企画を開催する際、可能であれば完成した作品をお貸しいただきますようお願いします（詳細未定。ご協力いただける方には別途ご連絡いたします）。




過去に当事業で作製された作品の展示の様子（竹あかりの展示inふれあいパーク）



【貸し出しセット内容】
竹（最大4本まで。完成品は返却不要）、インパクトドライバー、竹用ドリル刃、竹固定用台、デザイン型紙、型紙貼付け用テープ
※ただし1世帯あたり1セットまでとします。

【貸出期間】 最大2週間

【申込方法】

- ①産業建設課に設置の申込書により申込
（即日役場にて受け取り。ただし平日の8時30分～17時15分の間のみ対応）
- ②右記の二次元コードからフォームにより申込
（希望日時に役場にて受け取り。休日や時間外でも宿日直者が対応しますが、早朝・深夜はご遠慮下さい。）

【注意事項】
返却日時を厳守してください。予定数をオーバーした場合、貸出ができないことがあります。使用者の責任により物品を紛失・損傷した場合は弁償していただくことがあります。



問い合わせ先 TEL 377-5658

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	朝日町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
3	教育文化施設ビオトープ再生整備事業				
事 業 費	6,789,200 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			5,922,000		867,200

1. 事業の目的

集客力の高い町所有施設である教育文化施設内の調整池兼親水公園をビオトープとして再生し、町民が身近な水辺空間を楽しみ、生物多様性に係る認識を深めることを目指す。

2. 事業の実績

【事業内容】

教育文化施設内の調整池兼親水公園をビオトープとして再生整備する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

朝日町

【実施個所及び箇所数】

教育文化施設内親水公園兼調整池 1か所約1500㎡

【事業量】

教育文化施設内親水公園兼調整池 1か所約1500㎡

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
工事請負	建設業者	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

工事について町の基準に則り指名競争入札により実施

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり		市町名	朝日町	新規・継続の別	継続
------	--------------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
3	教育文化施設ビオトープ再生整備事業				
事 業 費	6,789,200 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			5,922,000		867,200

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

町内で最も集客力のある公的施設である朝日町教育文化施設敷地内の親水公園兼調整池を再生整備することで町民にとって身近な水辺空間を創出し、環境教育学習を通じて生物多様性への理解深化が期待される。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

観察デッキ等を整備することで環境教育に適したビオトープとして再生を図る。また、完成後に隣接する教育文化施設内の図書館において生物多様性に関する書籍の紹介コーナー設置などの企画を行う。

【新たな対策・視点及び改善点】

町で別事業として行っている町内の生物調査の結果も踏まえ、投入する生体を検討する。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	身近な水辺空間を楽しむ利用者 のべ約5,000人
期待する波及効果	町民が水辺空間を楽しむことを通じて、町民の生物多様性に対する理解が深まる

【公的関与の必要性】

調整池兼ビオトープは町所有の施設であるため

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

町にて適切に管理する

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施後	みえ森と緑の県民税を活用した取組としてホームページに掲載する。
広報誌掲載	実施後	完成後の施設の紹介記事にみえ森と緑の県民税を活用していることを記載する。
ロゴマーク掲示 (シール・プレート)	実施後	完成後の施設案内看板等にロゴマークを貼り付ける。
のぼり設置	実施中	施工場所がみえ森と緑の県民税を活用していることが分かるようにのぼりを設置する。
パネル展示	実施中	施工場所の隣の教育文化施設にて、みえ森と緑の県民税についてパネル展示を実施する。

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

パネル展の際にアンケートを実施したところ、みえ森と緑の県民税については半数以上が認知しており、土砂や流木による被害を出さない森林づくりについて一番関心が高いと回答が得られた。

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	朝日町	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	教育文化施設ビオトープ再生整備事業
-----	-------------------

6(1). 写真



写真1

施工前



写真2

施工中



写真3

施工中



写真4

施工中



写真5

施工後



写真6

のぼり設置

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	朝日町	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	教育文化施設ビオトープ再生整備事業
-----	-------------------

6(1). 写真



写真7
パネル展示

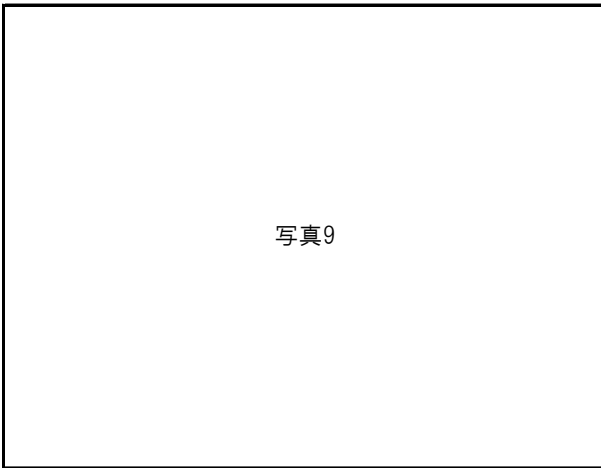


写真9

写真9



写真11

写真11

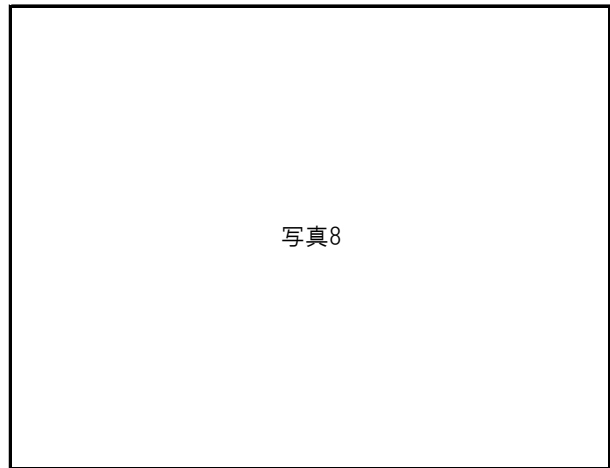


写真8

写真8

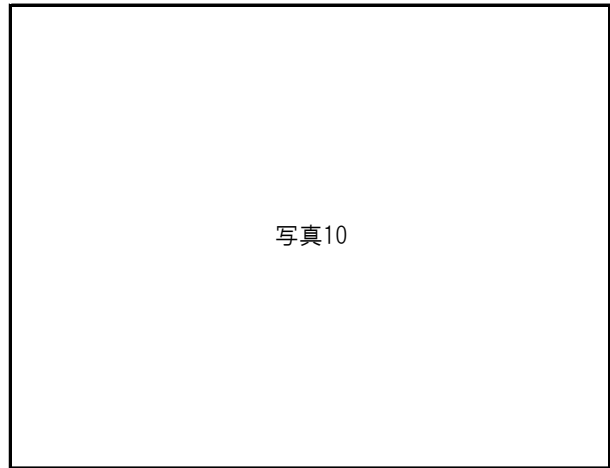


写真10

写真10



写真12

写真12



別紙

教育文化施設ビオトープ再生整備事業について

朝日町
産業建設課



趣旨

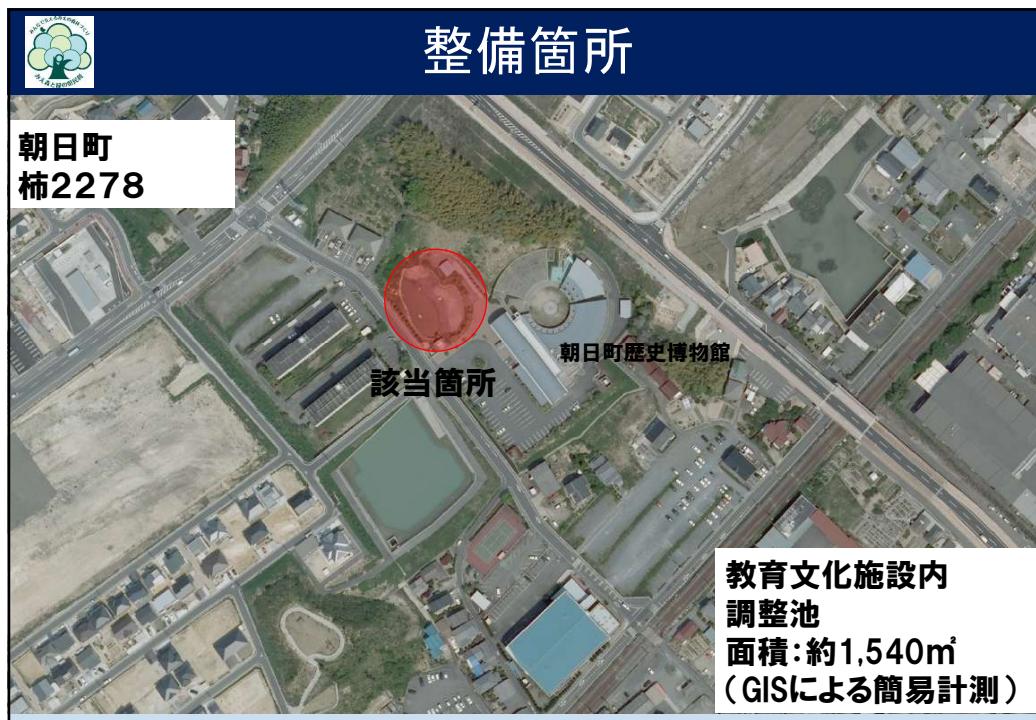
教育文化施設に所在する**調整池**を、
みえ森と緑の県民税市町交付金を活用し、
ウッドデッキを備えたビオトープとして再生し、里山にある水辺
の風景のような環境創成を目指します。
地域住民や子どもたち等の自然学習の場、交流の場とします。
身近な水辺空間を楽しみ、地域在来の生物に係る認識を深め、環境教育学
習等を通じて生物多様性への理解深化や里山への関心を期待します。



現況



整備イメージ





事業スケジュール

R5ビオトープ関連工事等

設計費: 7,139,000円

工事費: 9,050,800円

合計: 16,189,800円

池の土砂撤去、掘り下げコンクリート工、スロープ設置等を実施



事業スケジュール

R6ビオトープ関連工事

工事費: 14,817,000円

敷砂利工、電気設備工、ウッドデッキ工等を実施





事業スケジュール

R7ビオトープ関連工事

工事費: 6,800,000円

砕石、手摺工、ウッドデッキ工等を実施



事業スケジュール

R8交付金額

(円)

基本枠交付金の見込額	うち、上限加算分
5,600,000	—

R8ビオトープ関連工事

工事費: 2,904,000円

水生植物植栽、ウッドデッキ工等を実施
(R7に施工できなかった分)





整備後の活用例(案)

夏休みビオトープ観察会



【小学校】自然観察体験



【図書館】水生生物、植物に関する書籍の貸出企画

【博物館】自然分野の企画展

竹あかりの展示inビオトープ



工事完了後はメダカを放流するなど、町内で最も集客力のある公的施設である朝日町教育文化施設敷地内の親水公園兼調整池を再生整備することで、多くの町民に利用してもらえる、身近な水辺空間を創出します。

施設内に看板等を設置し、来訪者の自然学習の場や交流の場とします。

朝日町教育文化施設の紹介記事の中でビオトープに関するものをホームページや広報に掲載し、広く町民に周知を図ります。

川 越 町

令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報（令和5年度版三重県市町要覧による）

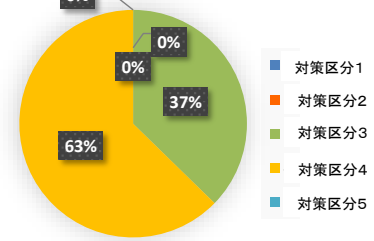
市町名	川越町	三重県
人口（人）	15,659	1,742,703
年少人口割合（％）＊1	13.6%	11.6%
森林面積(ha)	0.00	372,030.08
民有林面積(ha)＊2	0.00	348,561.87
森林率(%)	0.0%	64%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	0.3	10.6

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合 ★①-5、②-5



2. 令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）						
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5	基金積立
1	3	小中学校自然教室	3,228,106	1,620,000			1,620,000			
2	4	森と人をつなぐ学びの場整備事業	2,887,500	2,722,000				2,722,000		
				0						
計			6,115,606	4,342,000	0	0	1,620,000	2,722,000	0	0

3. 令和7年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量	事業費 (円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業	0	0	0	
災害からライフラインを守る事前伐採事業	0	0	0	
県民参加の植樹祭事業	0	0	0	

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針
当町は三重県の北部に位置し、北は員弁川、東は伊勢湾に臨む地形であり森林を有していない町です。 人口は増加しており、年少人口割合は県平均を上回っている状況にあります。この状況において、学校施設への木製備品の設置や自然の中で森林や木材について学ぶ機会をもつことで、森林や緑を大切に思い育む人づくりを進めます。また、公共施設の木質化を通じて、町民が森林や木材について、学びふれあう場を提供することで森林教育を行います。
事業実施により期待される効果
緑豊かな環境の中で、集団生活を通じ学校生活における「仲間づくり」や「信頼関係」の土台を築き、自然と触れ合うことで、身近な木や緑に親しむ機会を増加させることができる。また、身近な公共施設への県産材の使用や、学校で木製品に触れることにより、三重県の森林や木材への関心を深めてもらい木の温もり、肌触りや香りを身近に感じることができ、木材利用に対する理解や関心が深まる。
情報発信への取組
学校だよりや学年通信を活用し、自然教室を通じた子供の成長や取組について、情報を提供した。 また、町HPを活用し、みえ森と緑の県民税市町交付金の活用実績について、情報発信した。

令和7年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税（千円）
1	⑭ 基金積立（木材利用等）	1,856	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	1,856	0

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	川越町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
1	小中学校自然教室				
事 業 費	3,228,106 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,620,000		1,608,106

1. 事業の目的

野外体験活動を通じて、自然に親しみ自ら自然体験を求めていくきっかけをつくるとともに集団生活の中で人間的なふれあいを深めることで、心身ともに健全で森や緑の大切さを知る青少年の育成を図る。また、集団生活の中で、自分の役割を果たし、互いに協力し合うことで、仲間同士のつながりを深めるとともに、自ら自然を大切にする人づくりを進める。

2. 事業の実績

【事業内容】

中学1年生と小学5年生を対象に、1泊2日の集団生活を行い、オリエンテーリングや自然観察など自然とふれあう活動を実施する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

川越町

【実施個所及び箇所数】

中学校：1箇所（鈴鹿青少年センター）
 北小学校：1箇所（四日市市少年自然の家）
 南小学校：1箇所（四日市市少年自然の家）

【事業量】

自然教室1回（1泊2日）×3校

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
直営	その他	その他		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	川越町	新規・継続の別	継続
------	-------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
1	小中学校自然教室				
事 業 費	3,228,106 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,620,000		1,608,106

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

緑豊かな環境の中で、集団生活を通じて、社会性を育むことができ、さらに自然に触れ合うことで身近な木や緑に親しむ習慣が身についた。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

屋外活動では、昼間は屋外での体験を中心に学習し、夕方は屋外で体験のふりかえりを行うことで一層の学習効果の向上を図った。

【新たな対策・視点及び改善点】

—

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	生徒297人
期待する波及効果	自然と触れ合う機会を求めるきっかけとなる。

【公的関与の必要性】

小中学校の授業の一環であるため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備等でなく、転用や目的外使用は想定されない。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施後	町民
学校だより等掲	実施後	生徒、保護者

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

今まで以上にクラスの仲間のことをお互いを知ることができ、より心の距離近くなったとともに、大きく成長できた2日間になりました。この自然教室でつけた力を、さらに伸ばして欲しいと思います。

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	川越町	新規・継続の別	継続
事業名	小中学校自然教室				

6(1). 写真



写真1

自然観察



写真2

里山保全活動



写真3

里山保全活動



写真4

里山保全活動



写真5

野外炊事



写真6

キャンプファイヤー

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	川越町	新規・継続の別	継続
事業名	小中学校自然教室				
6(3).その他					

HP抜粋

「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用した市町交付金事業

令和7年度の取り組み

小中学校自然教室事業

小学5年生・中学校1年生の生徒を対象に1泊2日の集団生活を行い、里山保全活動や自然観察を通して、自然に親しみ自ら自然体験を求めていくきっかけをつくりました。

また、集団生活の中で、自分の役割を果たし、互いに協力し合うことで、仲間同士のつながりを深める活動を実施しました。

（川越町中学校、川越北小学校、川越南小学校 各1回）



令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	川越町	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
2	森と人をつなぐ学びの場整備事業				
事 業 費	2,887,500 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,722,000		165,500

1. 事業の目的

中学校や小学校、幼稚園、保育園等の木製備品を整備し、利用する生徒および児童、園児に森林等の実情や問題について理解を深めてもらい関心をもってもらう場をつくり木育学習を進めていく。

2. 事業の実績

【事業内容】

図書室と音楽室に県産材の木製備品を整備する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

川越町

【実施個所及び箇所数】

川越北小学校 1校

川越南小学校 1校

【事業量】

北小学校：図書室台形机 W1400×D625×H640 10台、図書室半円机 W1200×D600×H275 4台

図書室書架 W1800×D480×H895 1台

南小学校：音楽室机・椅子 40セット

3. 事業の実施方法

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者、補助率、負担率等）】

実施方法	主な委託先及び補助対象者等	補助率・負担率等	補助の上限及び定額補助の額	備考
物品購入	木工製造業者	補助事業ではない		指名競争入札による

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

県内登録業者から県民税の契約実績のある業者を選定し、指名競争入札にて実施。

令和7年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり		市町名	川越町	新規・継続の別	新規
------	-------------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
2	森と人をつなぐ学びの場整備事業				
事 業 費	2,887,500 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,722,000		165,500

4. 事業の効果・工夫

【事業実施により期待される効果】

児童が日常的に木材と触れ合える環境を整備することで、木製品に対して親しみを感じ、また木の温もりや木の肌触りや香りを身近に感じることで、森林や木材利用に対する関心が深まった。

また、日々の生活の中で木材を感じることで、別事業である「小中学校自然教室」において、森や緑に対する理解度を高める。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

児童が日常的に授業や休憩時間等で図書室及び音楽室を利用する際に県産材の木製品に触れる機会が増え森林や木材に対しての親しみを感じ理解を深める。

今後、木材利用促進月間や音楽の授業などの機会に、森林の状況や当事業について説明を行うとともに、みえ森と緑の県民税市町交付金を活用して整備された木製品を紹介することで、森林・木材に強い関心をもつような展開をしていく。

【新たな対策・視点及び改善点】

将来、森林への関心を高めるためにも多くの木製品に触れ合うことが大切であり、学校での継続した森林教育及び木材にふれあえる空間を創出する必要がある。

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	生徒828人(川越北小学校：494人、川越南小学校：334人)
期待する波及効果	県産材利用の促進に寄与する。また、生徒家族への普及効果も期待できる。

【公的関与の必要性】

公共施設であるため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

公共施設であるため、転用等が想定されず、該当しない。

5. 情報発信

【内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
ロゴマーク掲示	実施中・後	購入設置した備品本体にロゴマーク標示シールを設置。
その他	実施後	音楽の授業の際に事業で整備した木製備品を紹介し、木材利用や森林の状況
学校だより等掲	実施後	生徒、保護者
HP掲載	実施後	町民

6. 写真及びその他資料

別紙のとおり

7. その他特記事項（受益者の反応等）

先生からの説明や実際に木製製品に触れることで、木製製品への興味や理解を深めることができた。

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	川越町	新規・継続の別	新規
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森と人をつなぐ学びの場整備事業
-----	-----------------

6(1). 写真



写真1

川越北小学校 図書室の台形机



写真2

川越北小学校 図工室の半円机



写真3

川越北小学校 図工室の書架



写真4

川越南小学校 音楽室の机・椅子

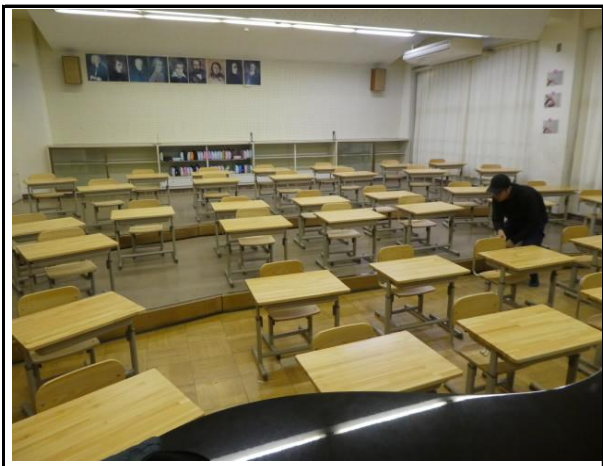


写真5

川越南小学校 音楽室の机・椅子



写真6

写真6

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	川越町	新規・継続の別	新規
事業名	森と人をつなぐ学びの場整備事業				

6(3).その他

HP抜粋

【川越北小学校 図書室の机・書架】

図書室は12月末（冬休み中）に、古いテーブルと書架の1つを、木製の新しいものと交換していただきました。みえ森と緑の県民税が活用されています。いろいろな方に子どもたちの学習環境整備を進めていただいています。本当に感謝です。



【川越南小学校 音楽室の机・椅子】

音楽室の机が古くなってキシキシと音になっていたのですが、今回新しい机を入れていただきました。大切にに使わせていただきます。

